

愛 西 市
男女共同参画に関するアンケート
調査結果報告書

令和3年2月

愛 西 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	回答者属性	2
2	男女の平等感について	10
3	生活・教育などについて	20
4	社会参加について	40
5	仕事について	45
6	配偶者等からの暴力（DV）について	65
7	男女共同参画社会について	72
III	自由意見	88

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第4次愛西市男女共同参画プラン」を策定するにあたり、市民の意識や実態を把握し、基礎資料を得ることを目的として調査を実施したものです。

2 調査対象

愛西市在住の満18歳以上の方から2,000人を無作為抽出

3 調査期間

令和2年8月19日から令和2年9月4日まで

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
2,000通	685通	34.3%

6 調査結果の表示方法

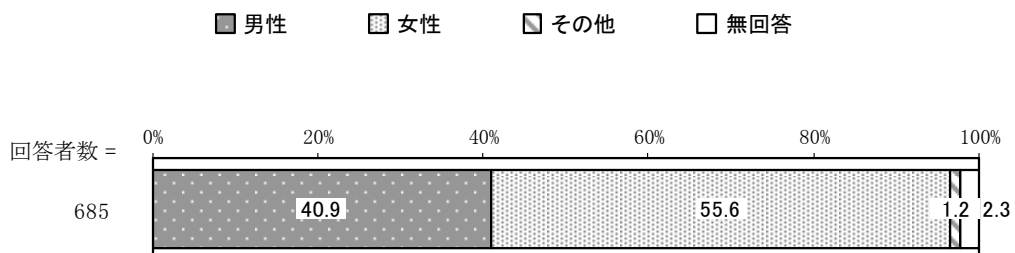
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）

Ⅱ 調査結果

1 回答者属性

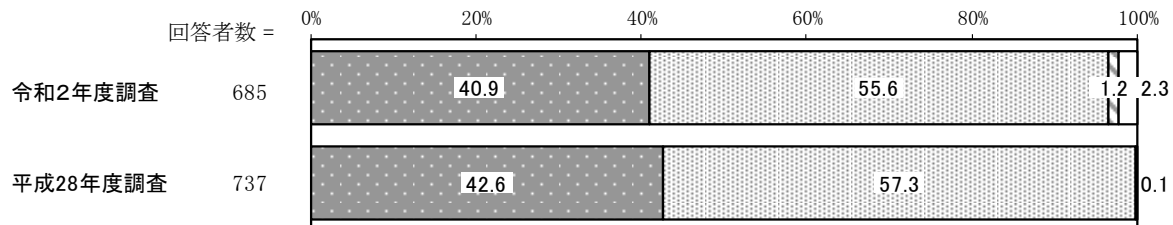
F 1 あなたの性別をお答えください。答えたくない方は、「3. その他」に○を付けてください。(いずれかに○)

「男性」の割合が40.9%、「女性」の割合が55.6%となっています。



【平成 28 年度調査との比較】

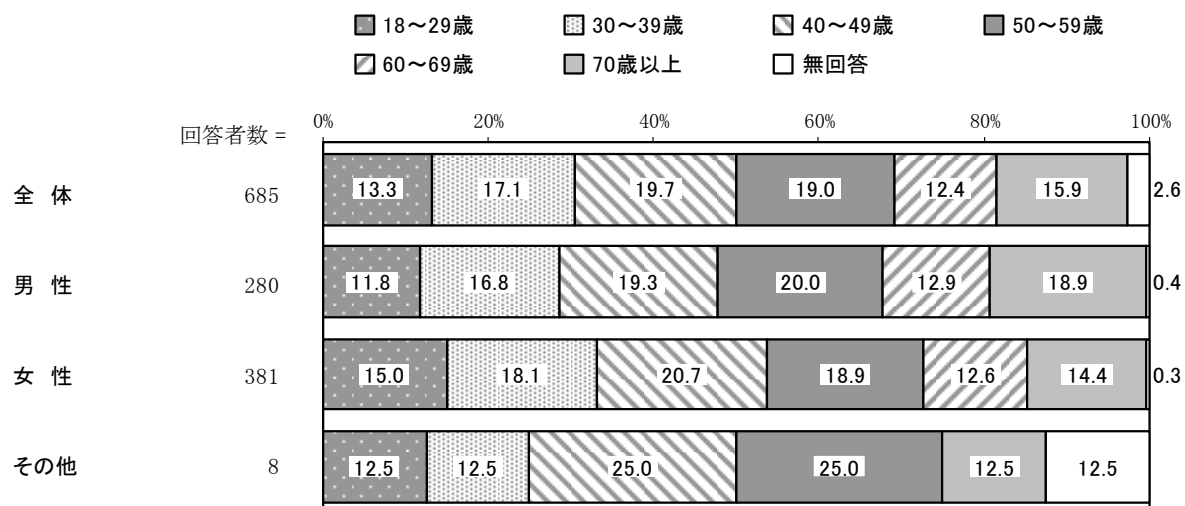
平成 28 年度調査と比較すると、性別を答えることに抵抗感がある方の割合がわずかに増加しています。



F 2 あなたの年齢をお答えください。(1つに○)

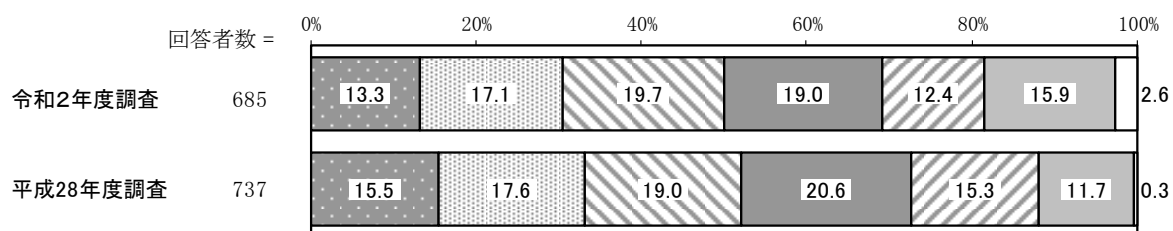
「40～49歳」の割合が19.7%と最も高く、次いで「50～59歳」の割合が19.0%、「30～39歳」の割合が17.1%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



【平成28年度調査との比較】

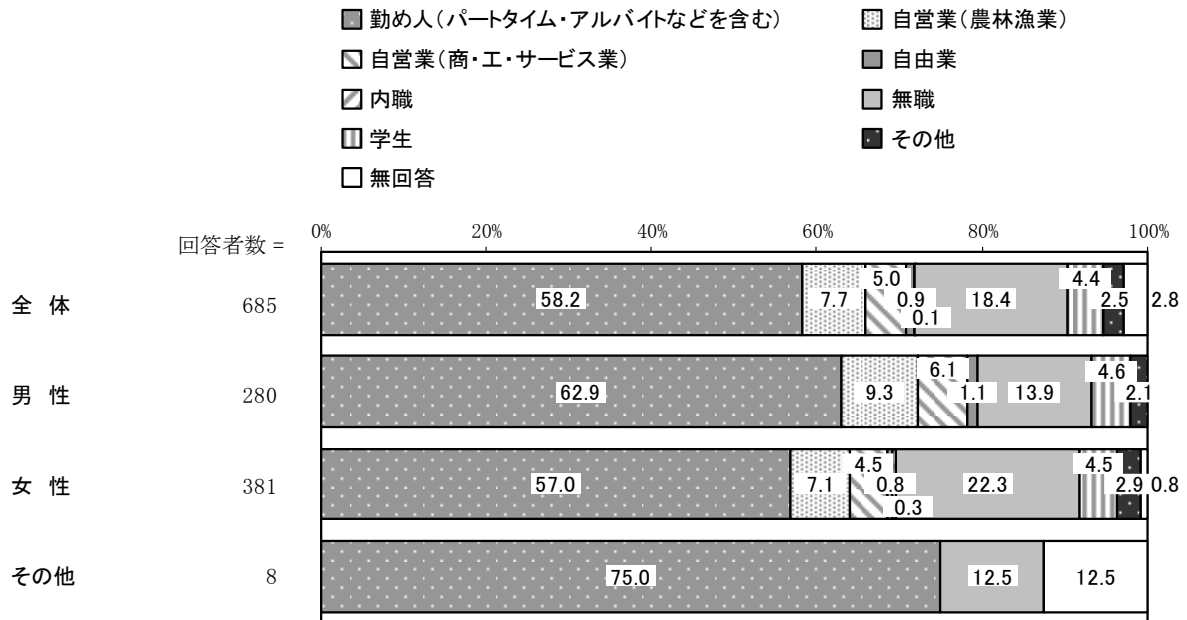
平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



F 3 あなたの職業をお答えください。(1つに○)

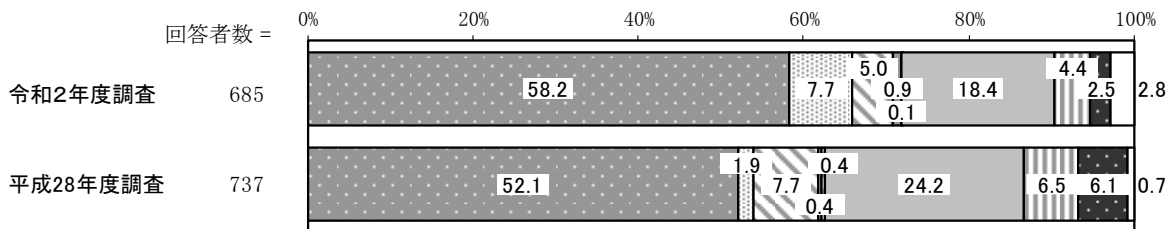
「勤め人(パートタイム・アルバイトなどを含む)」の割合が58.2%と最も高く、次いで「無職」の割合が18.4%となっています。

性別で見ると、男性で「勤め人(パートタイム・アルバイトなどを含む)」の割合が高くなっています。また、女性で「無職」の割合が高くなっています。



【平成28年度調査との比較】

平成28年度調査と比較すると、「勤め人(パートタイム・アルバイトなどを含む)」「自営業(農林漁業)」の割合が増加し、「無職」の割合が減少しています。

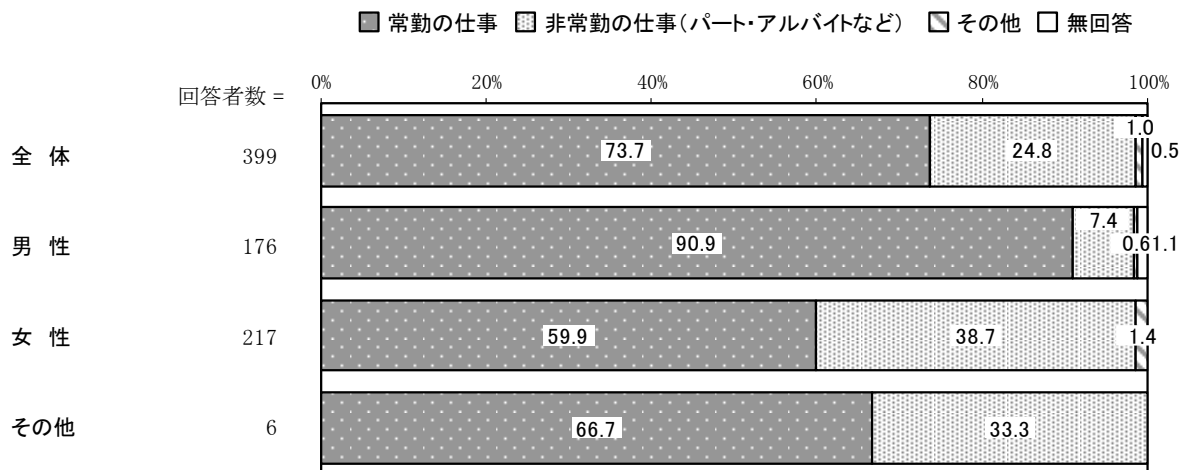


F3-1は、F3で「勤め人（パートタイム・アルバイトなどを含む）」と答えた方にお聞きします。

F3-1 あなたの就労形態をお答えください。（1つに○）

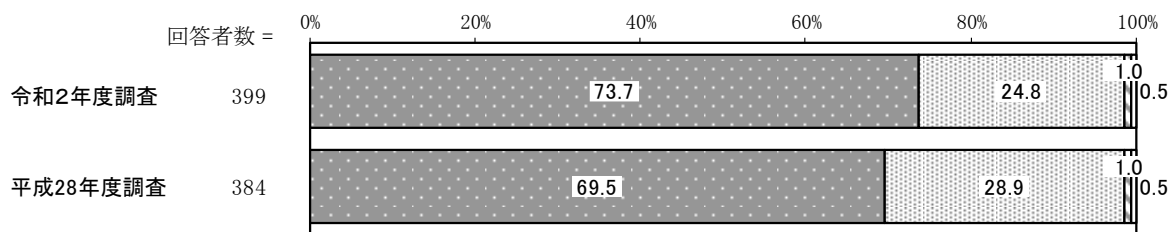
「常勤の仕事」の割合が73.7%、「非常勤の仕事（パート・アルバイトなど）」の割合が24.8%となっています。

性別でみると、男性で「常勤の仕事」の割合が高くなっています。また、女性で「非常勤の仕事（パート・アルバイトなど）」の割合が高くなっています。



【平成28年度調査との比較】

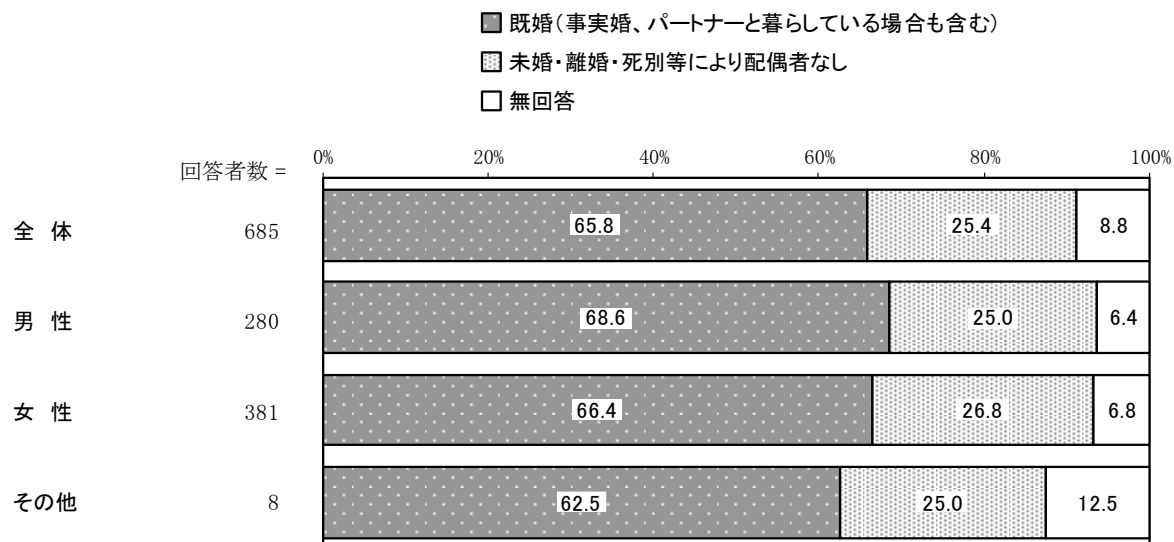
平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



F 4 婚姻の状況をお答えください。(1つに○)

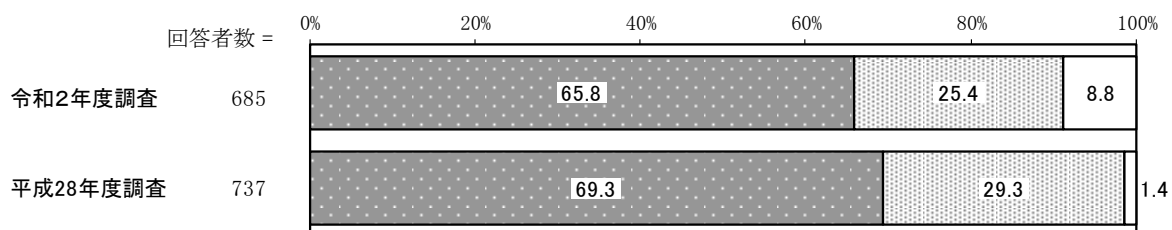
「既婚（事実婚、パートナーと暮らしている場合も含む）」の割合が 65.8%、「未婚・離婚・死別等により配偶者なし」の割合が 25.4%となっています。

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【平成 28 年度調査との比較】

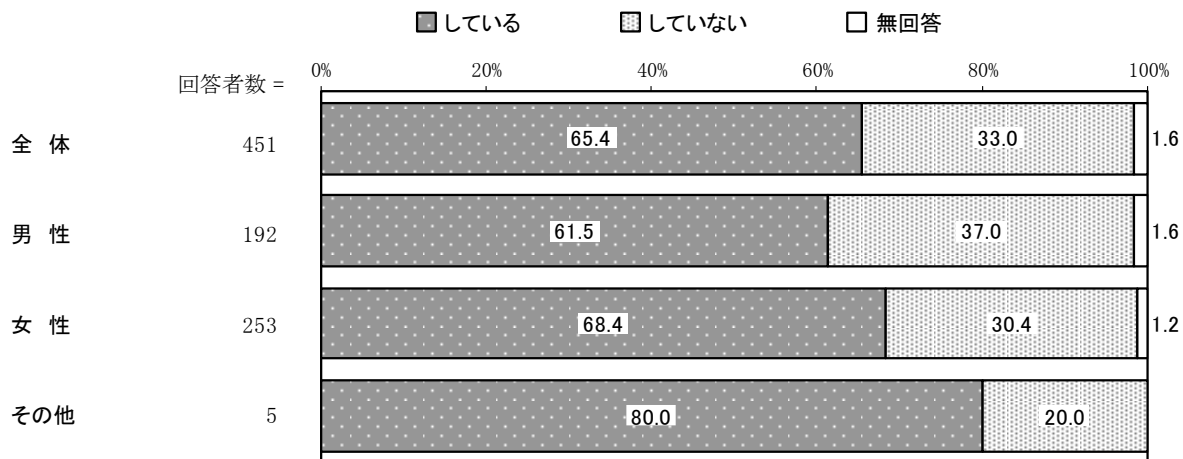
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



F 4 - 1は、F 4で「既婚」と答えた方にお聞きします。

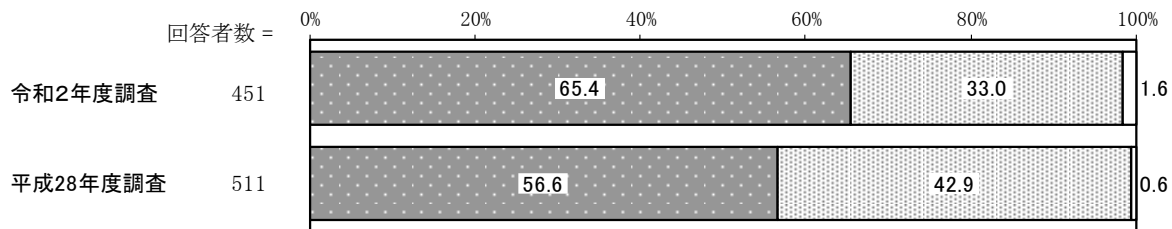
F 4 - 1 共働きをしていますか。(どちらかに○)

「している」の割合が65.4%、「していない」の割合が33.0%となっています。
性別で見ると、女性で「している」の割合が高くなっています。



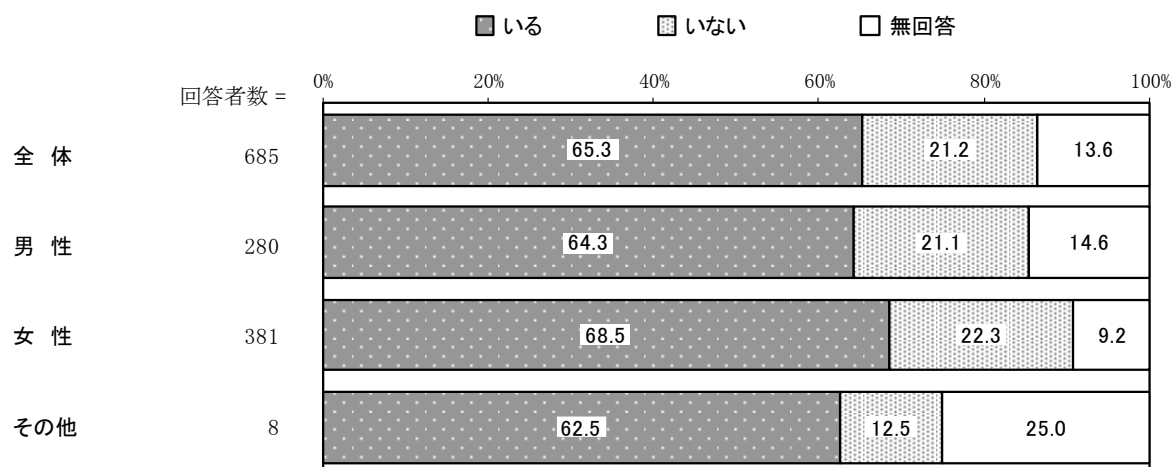
【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「している」の割合が増加しています。



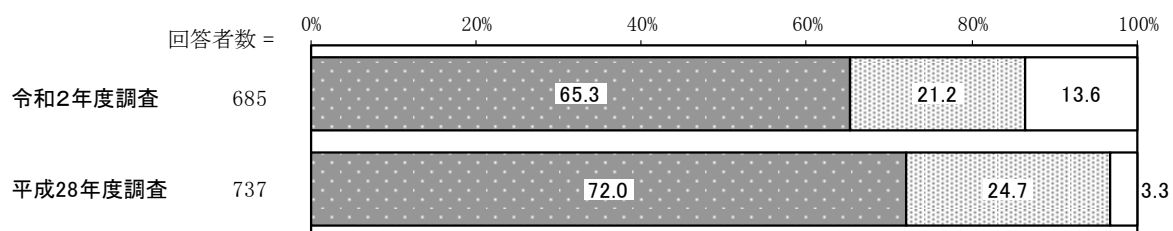
F 5 お子さんはいますか。(どちらかに○)

「いる」の割合が65.3%、「いない」の割合が21.2%となっています。
性別でみると、大きな差異はみられません。



【平成 28 年度調査との比較】

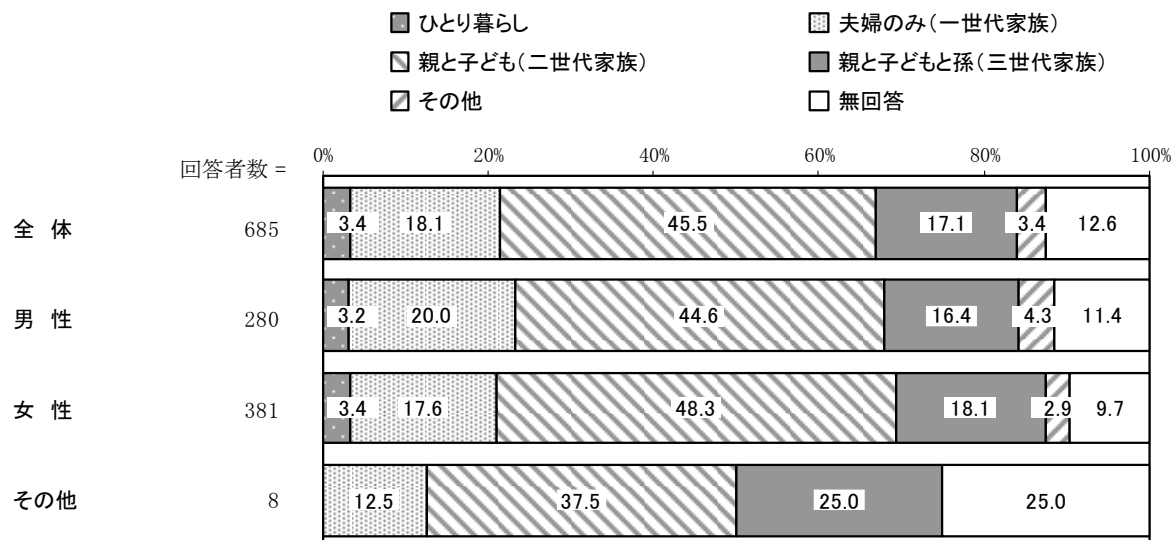
平成 28 年度調査と比較すると、「いる」の割合が減少しています。



F 6 家族構成をお答えください。(1つに〇)

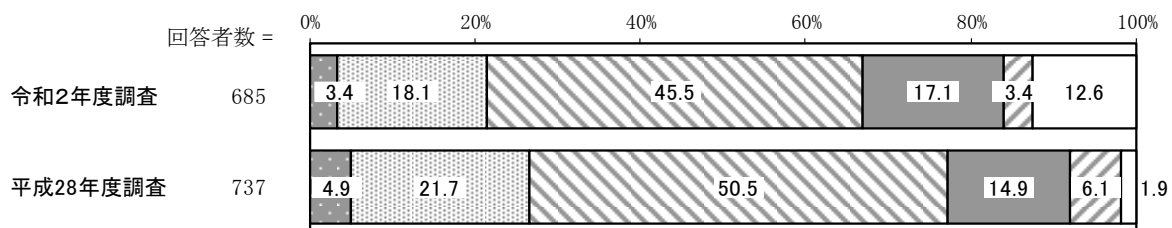
「親と子ども（二世世代家族）」の割合が45.5%と最も高く、次いで「夫婦のみ（一世世代家族）」の割合が18.1%、「親と子どもと孫（三世世代家族）」の割合が17.1%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



【平成28年度調査との比較】

平成28年度調査と比較すると、「親と子ども（二世世代家族）」の割合が減少しています。

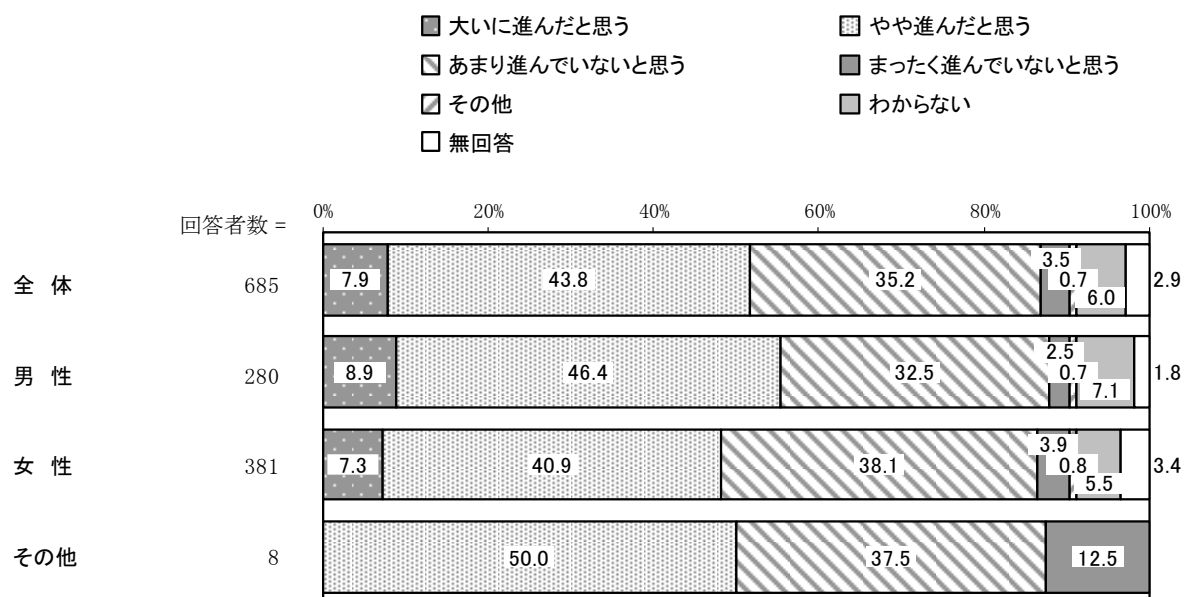


2 男女の平等感について

問1 あなたは、10年前に比べて男女平等が進んだと思いますか。(1つに○)

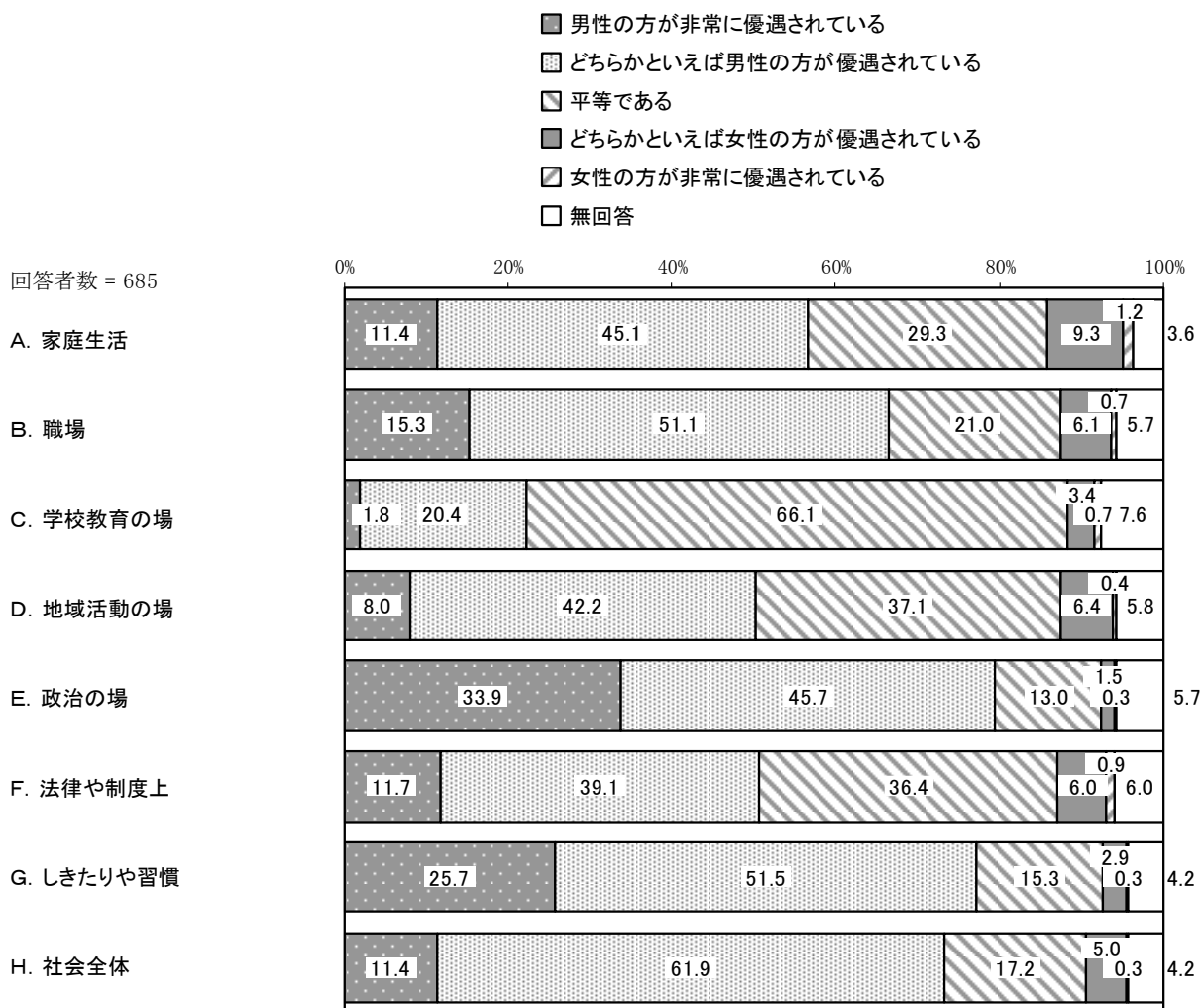
「大いに進んだと思う」と「やや進んだと思う」をあわせた“進んだと思う”の割合が51.7%、「あまり進んでいないと思う」と「まったく進んでいないと思う」をあわせた“進んでいないと思う”の割合が38.7%となっています。

性別でみると、男性で“進んだと思う”の割合が高くなっています。また、女性で“進んでいないと思う”の割合が高くなっています。



問2 あなたは、次のA～Hのそれぞれの項目について、男女の地位は平等になっていると思いますか。（それぞれ1つに○）

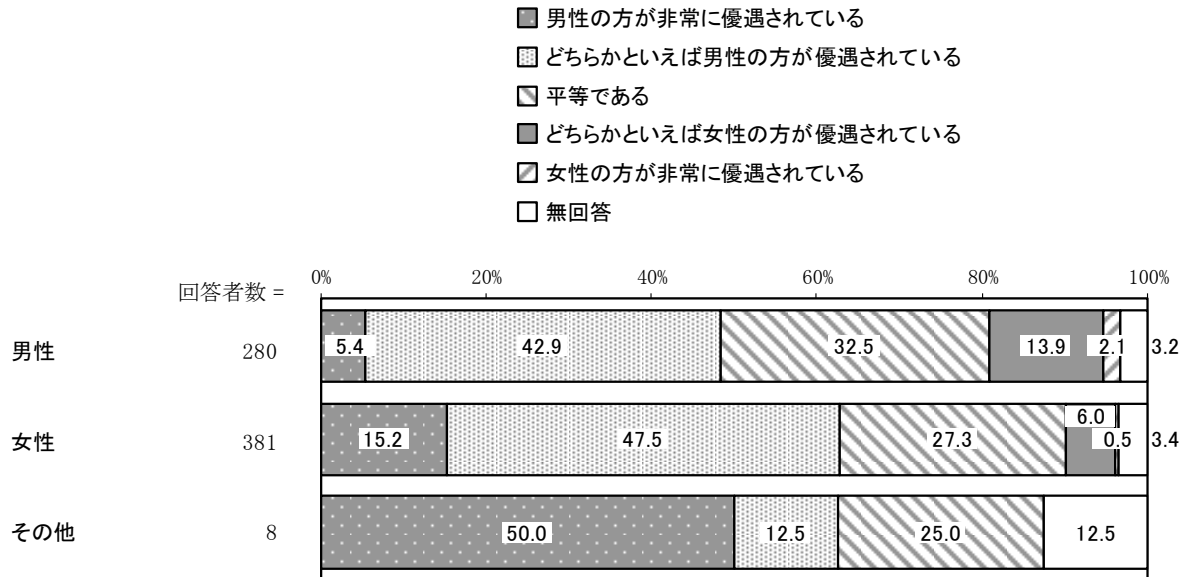
『E. 政治の場』『G. しきたりや習慣』で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約8割となっています。また、『C. 学校教育の場』で「平等である」の割合が高く、6割半ばとなっています。



A. 家庭生活

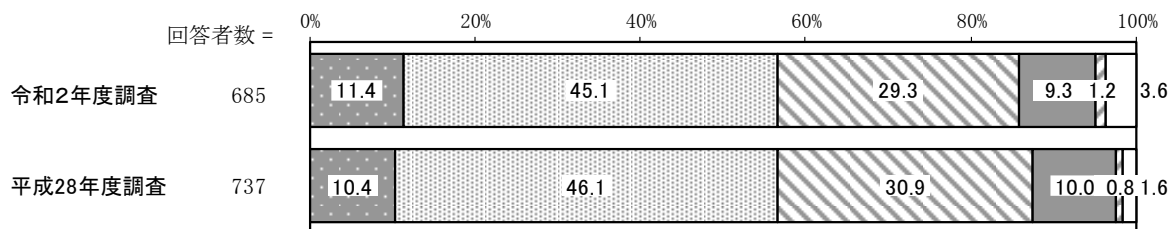
【性別】

性別でみると、男性で「平等である」の割合、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

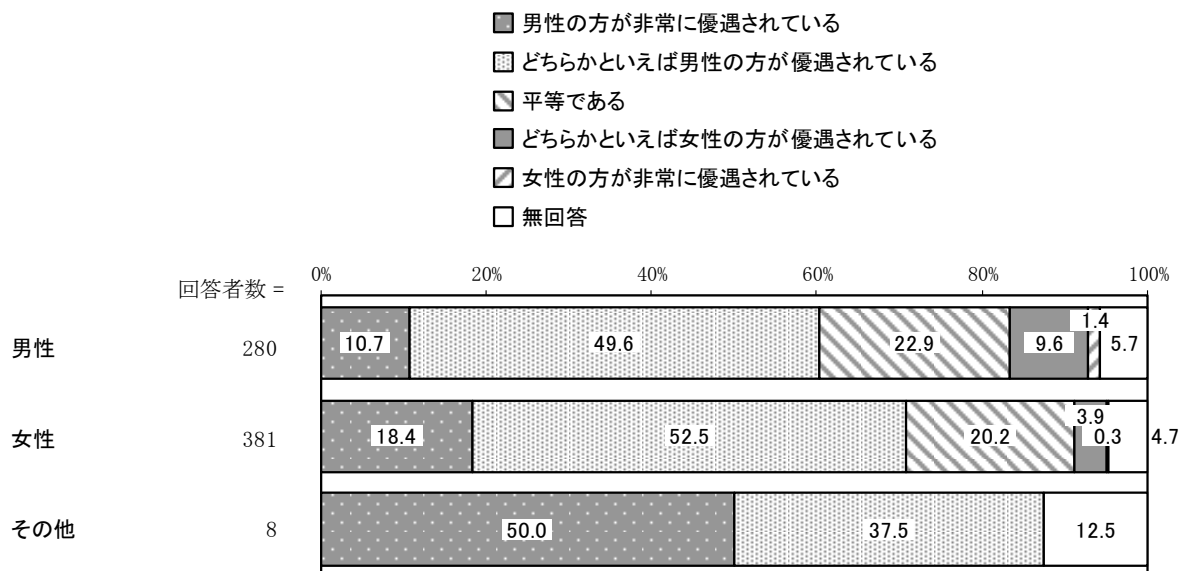
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



B. 職場

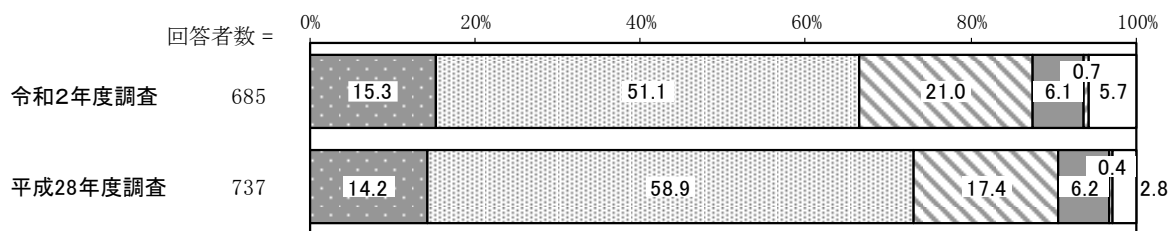
【性別】

性別で見ると、男性で“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

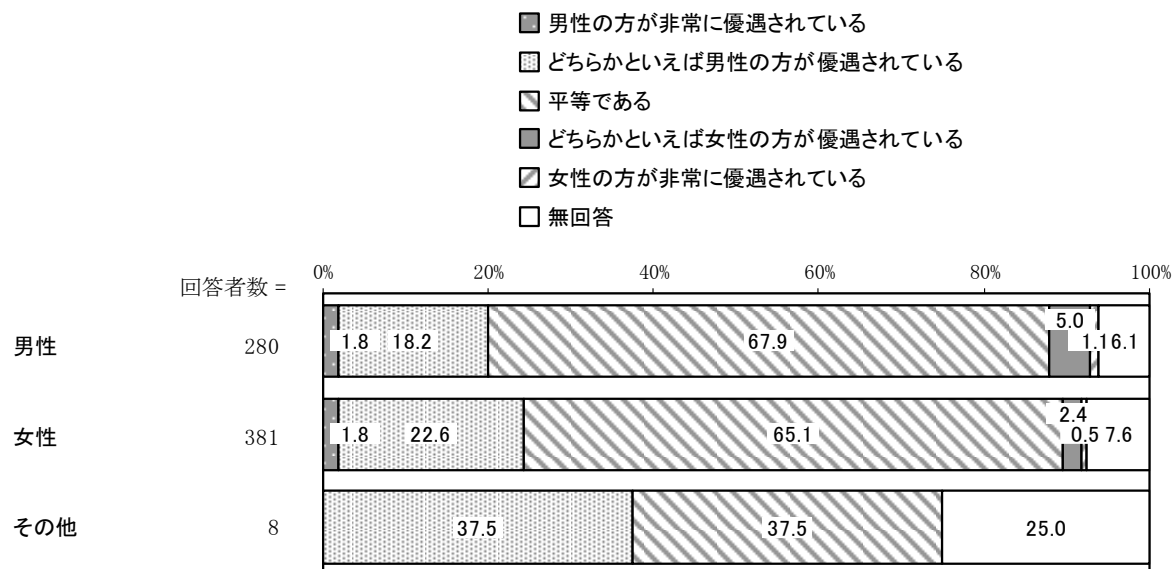
平成 28 年度調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が減少しています。



C. 学校教育の場

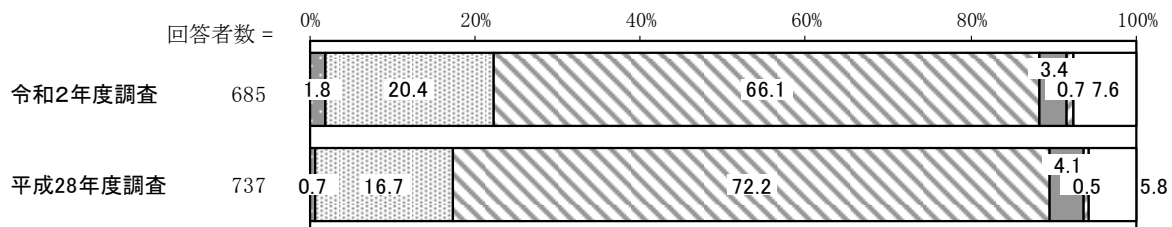
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【平成28年度調査との比較】

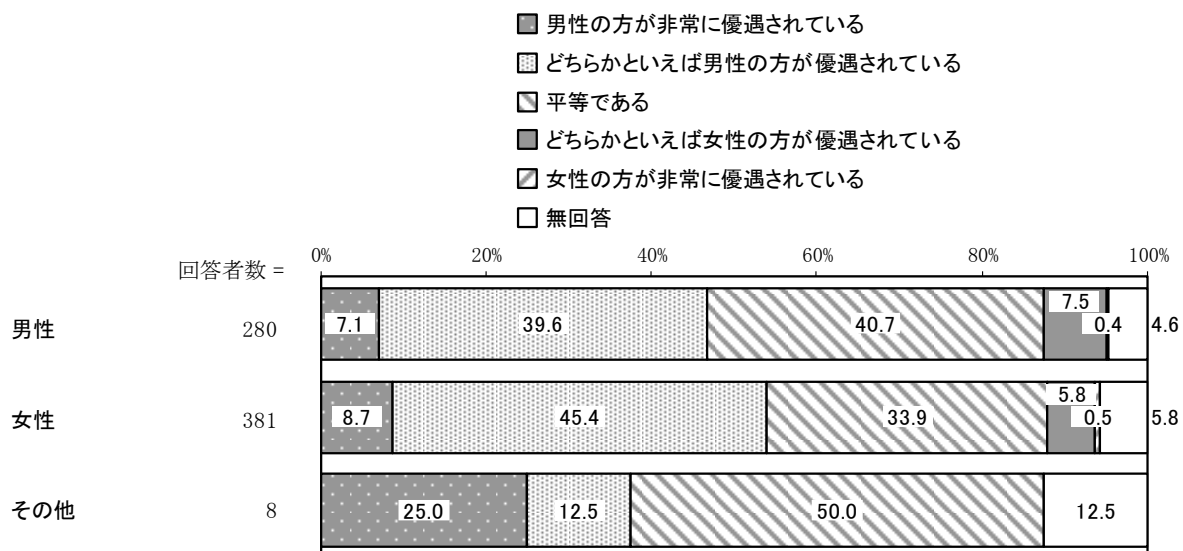
平成28年度調査と比較すると、「平等である」の割合が減少しています。



D. 地域活動の場

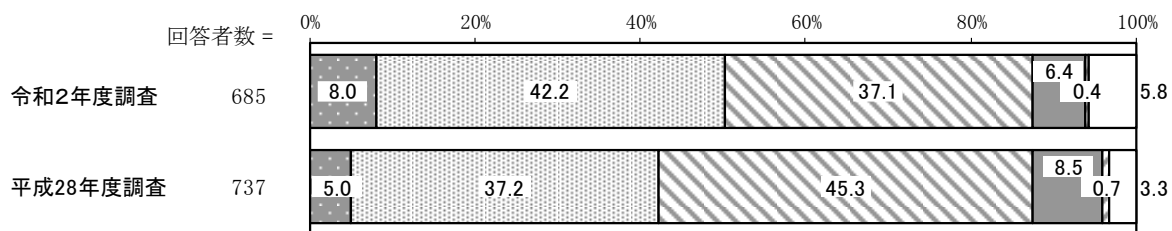
【性別】

性別で見ると、男性で「平等である」の割合が高くなっています。また、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

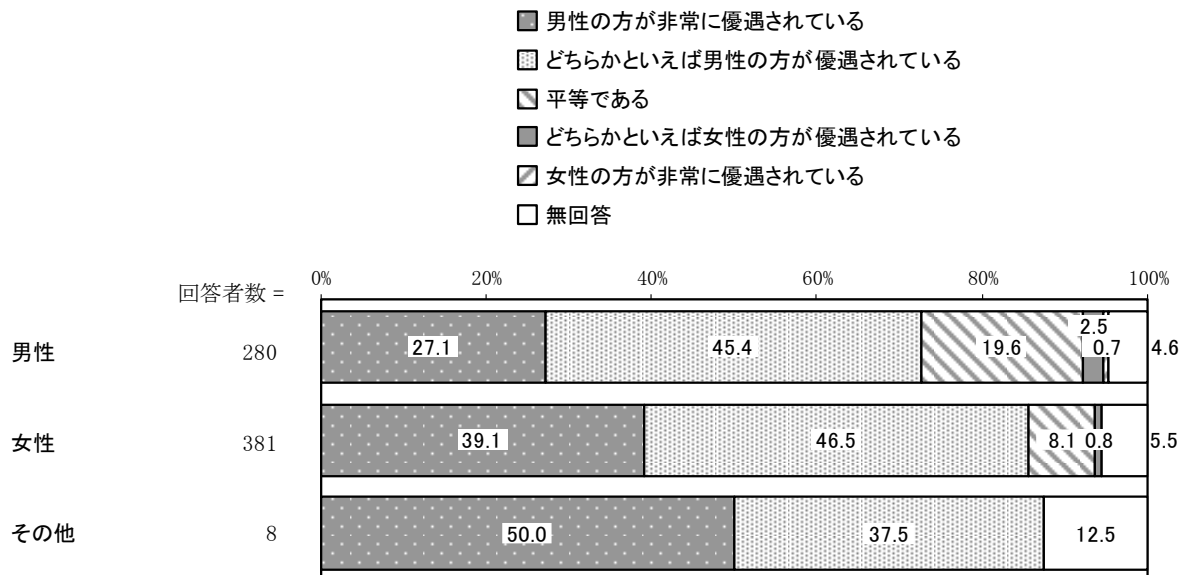
平成 28 年度調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合が増加し、「平等である」の割合が減少しています。



E. 政治の場

【性別】

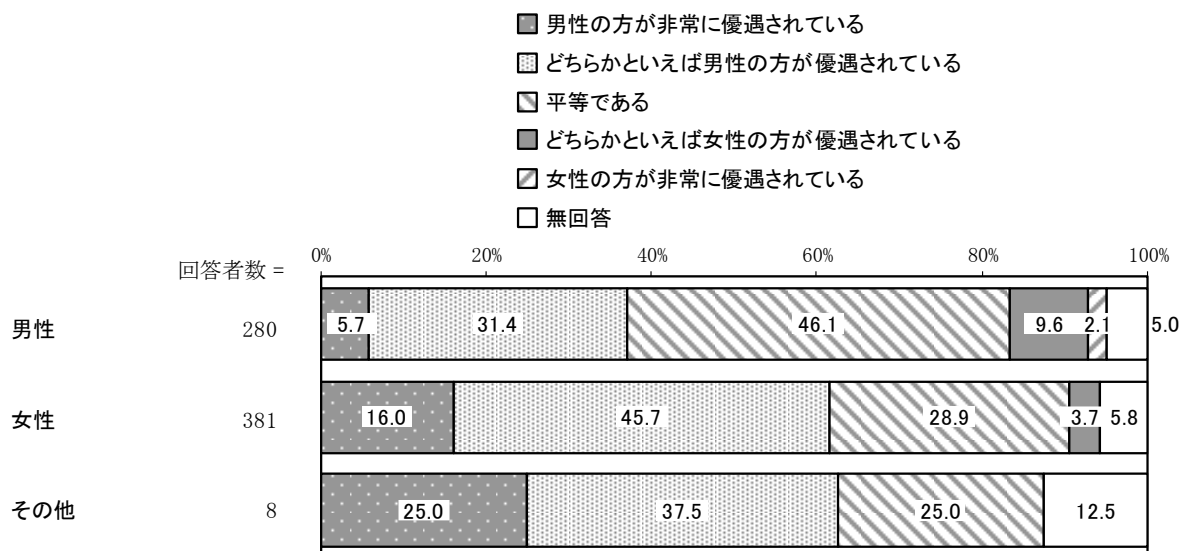
性別で見ると、男性で「平等である」の割合が高くなっています。また、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



F. 法律や制度上

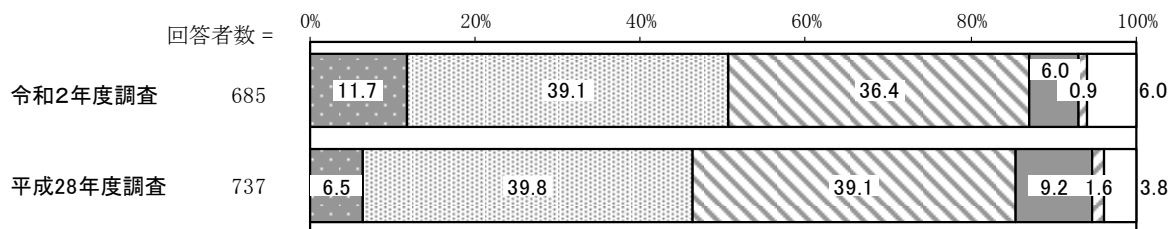
【性別】

性別で見ると、男性で「平等である」「女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。また、女性で「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

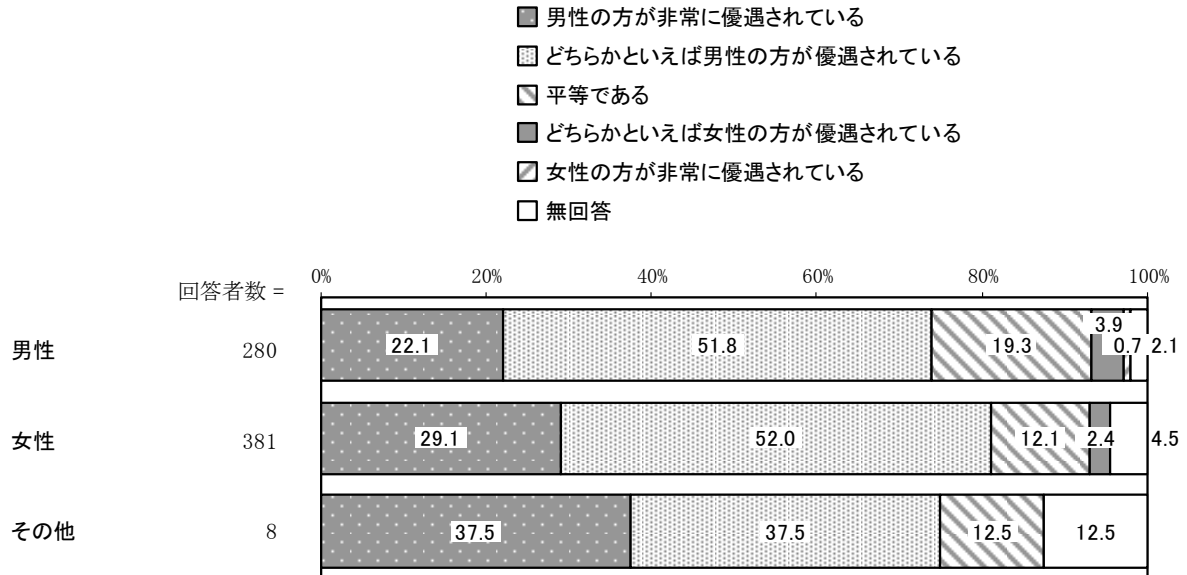
平成 28 年度調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が増加しています。



G. しきたりや習慣

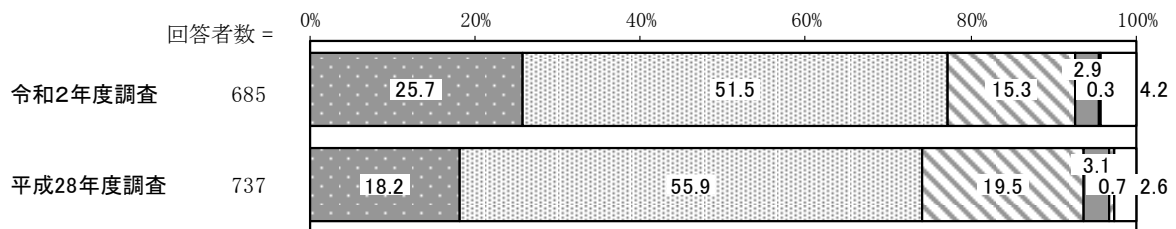
【性別】

性別で見ると、男性で「平等である」の割合が高くなっています。また、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

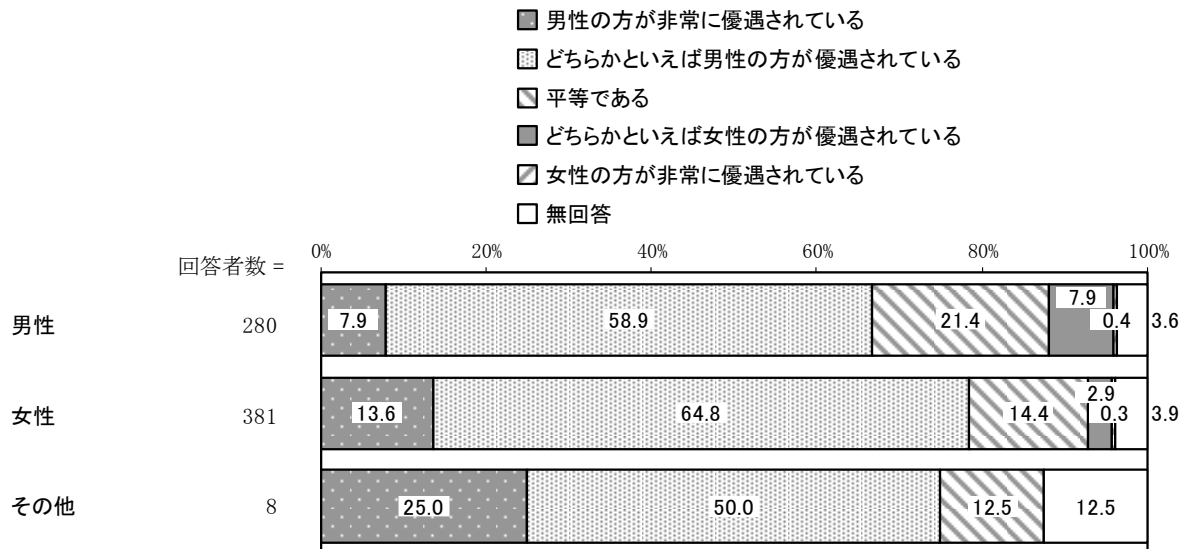
平成 28 年度調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が増加しています。



H. 社会全体

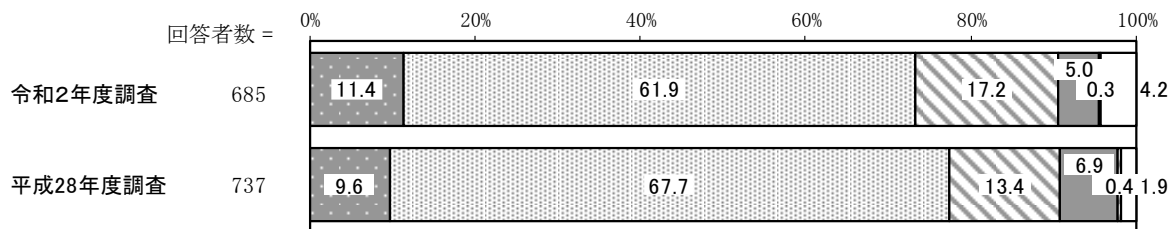
【性別】

性別でみると、男性で「平等である」「女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。また、女性で「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。



【平成28年度調査との比較】

平成28年度調査と比較すると、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が減少しています。

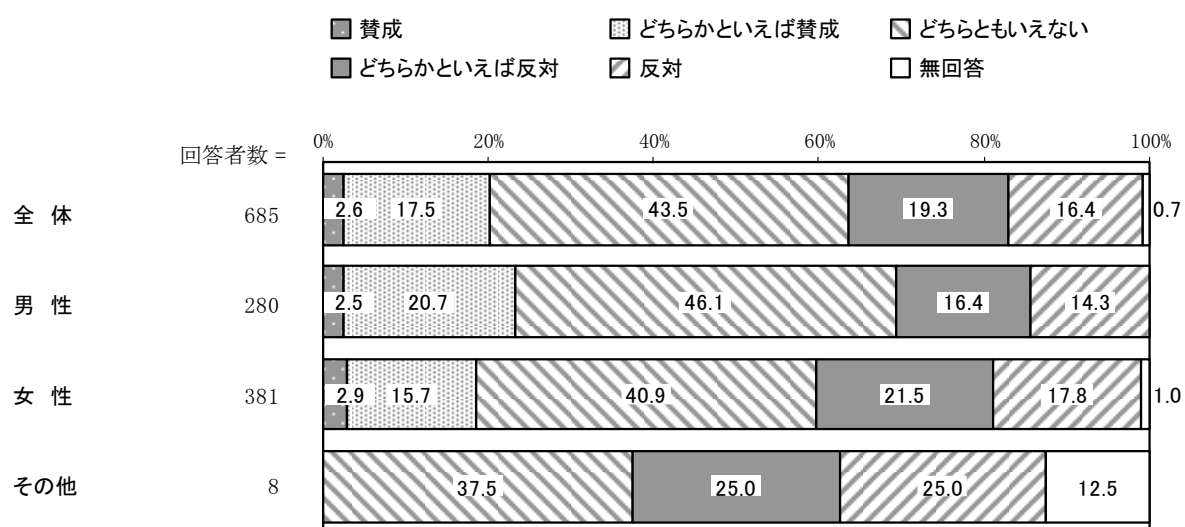


3 生活・教育などについて

問3 あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どのように思いますか。(1つに○)

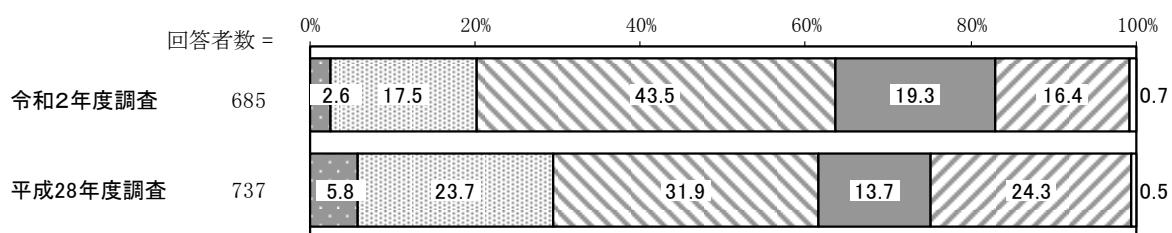
「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が20.1%、「どちらともいえない」の割合が43.5%、「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた“反対”の割合が35.7%となっています。

性別でみると、男性で“賛成”の割合が高くなっています。また、女性で“反対”の割合が高くなっています。



【平成28年度調査との比較】

平成28年度調査と比較すると、“賛成”の割合が減少し、「どちらともいえない」の割合が増加しています。

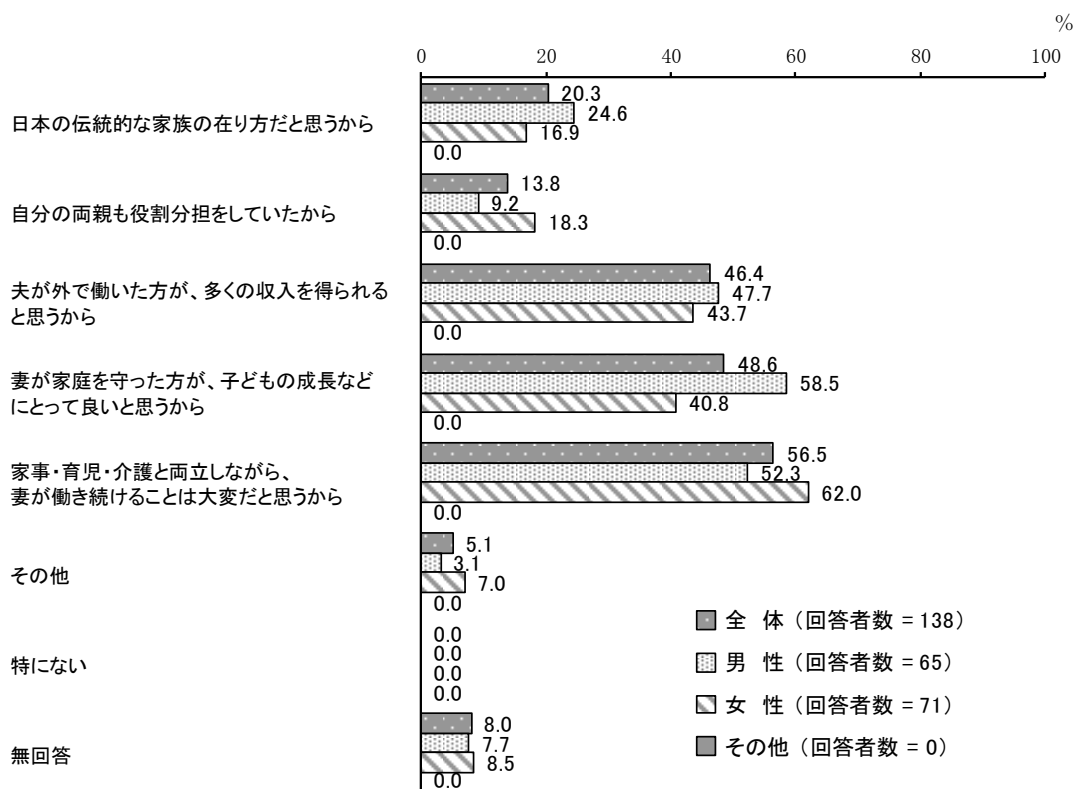


問3-1は、問3で「賛成」「どちらかといえば賛成」と答えた方にお聞きします。

問3-1 それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

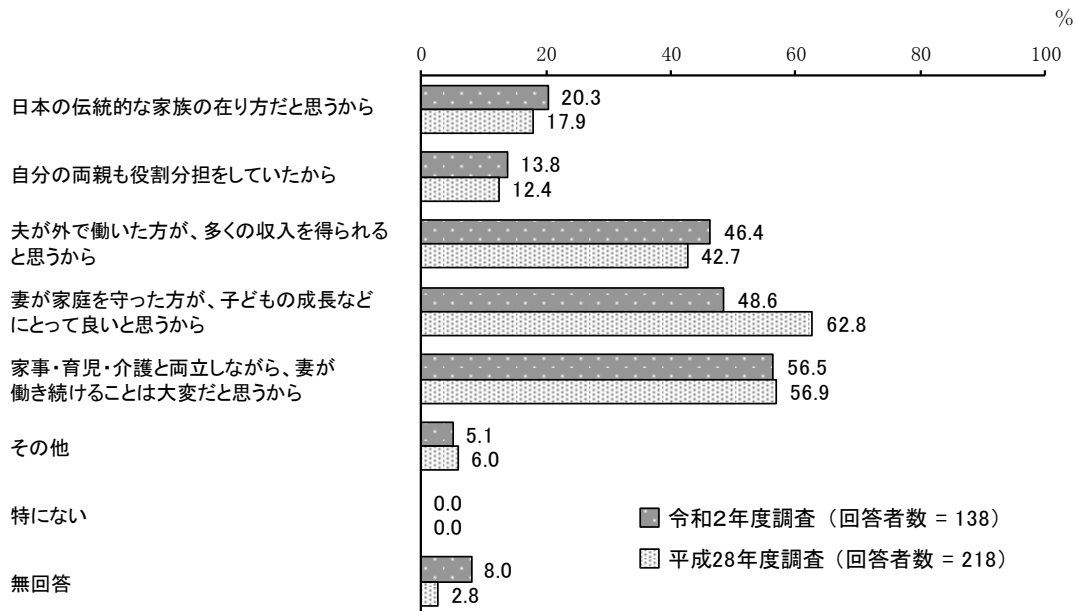
「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が56.5%と最も高く、次いで「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が48.6%、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が46.4%となっています。

性別でみると、男性で「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が高くなっています。また、女性で「自分の両親も役割分担をしていたから」「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから」の割合が減少しています。

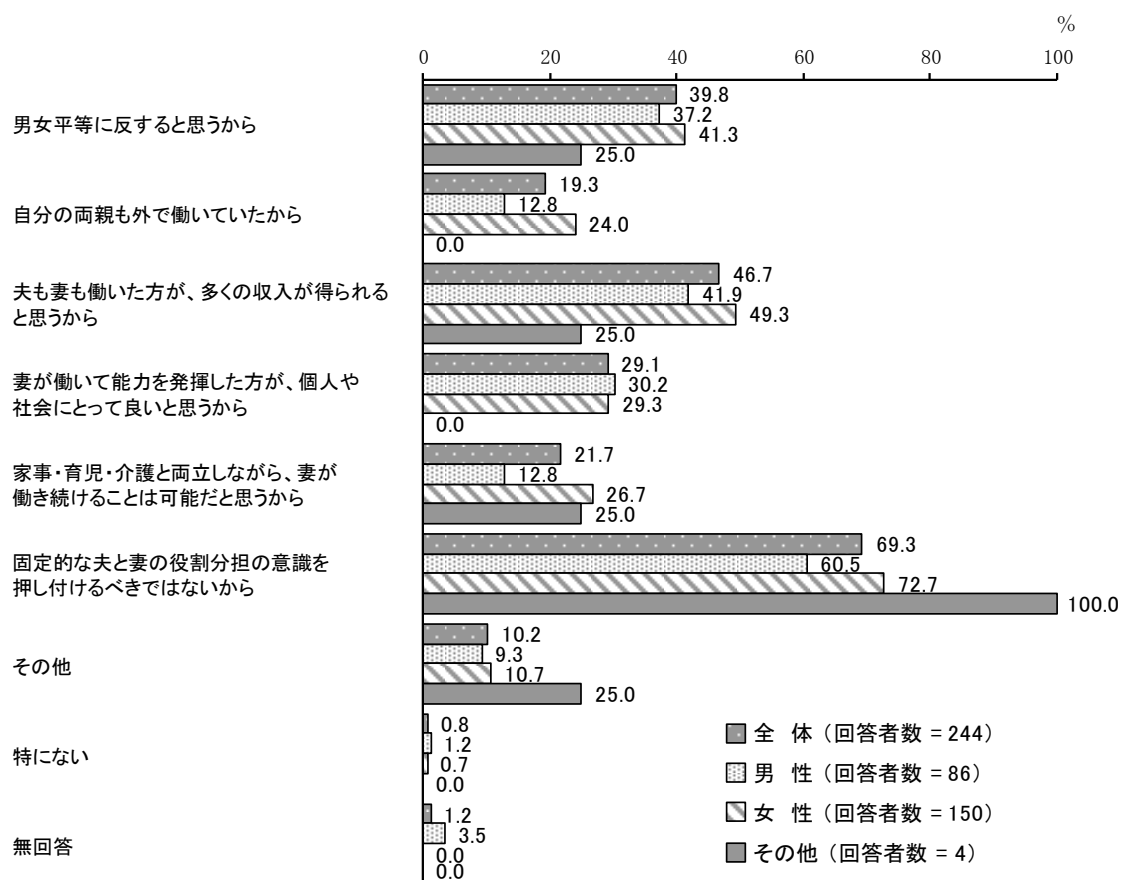


問3-2は、問3で「どちらかといえば反対」「反対」と答えた方にお聞きします。

問3-2 それはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

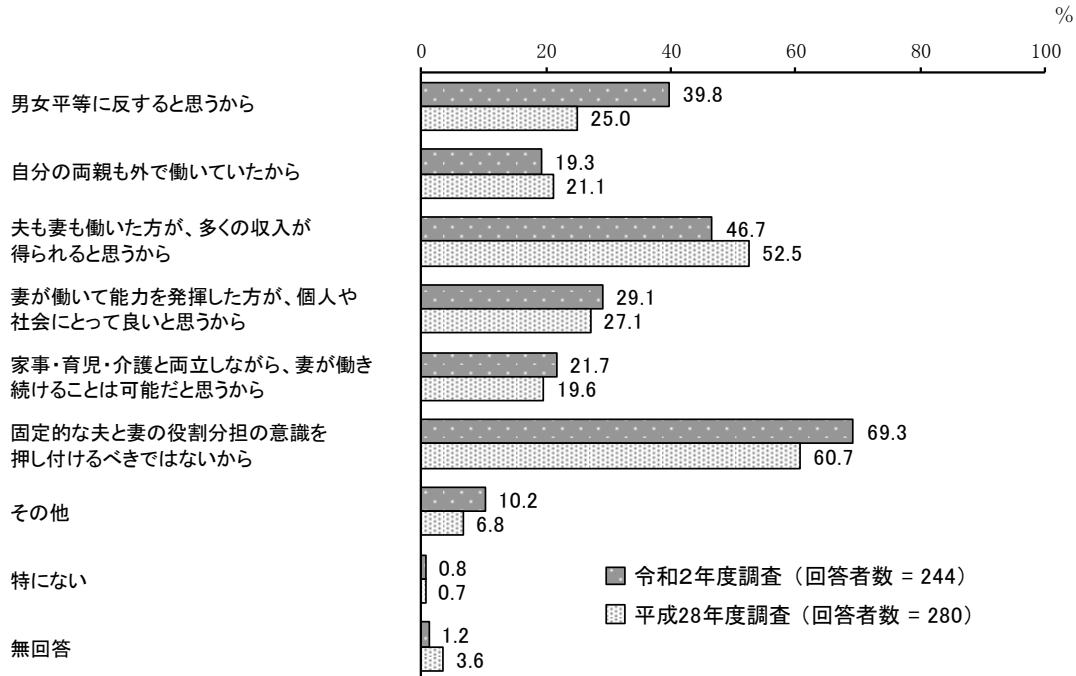
「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が69.3%と最も高く、次いで「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」の割合が46.7%、「男女平等に反すると思うから」の割合が39.8%となっています。

性別でみると、女性で「自分の両親も外で働いていたから」「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから」「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

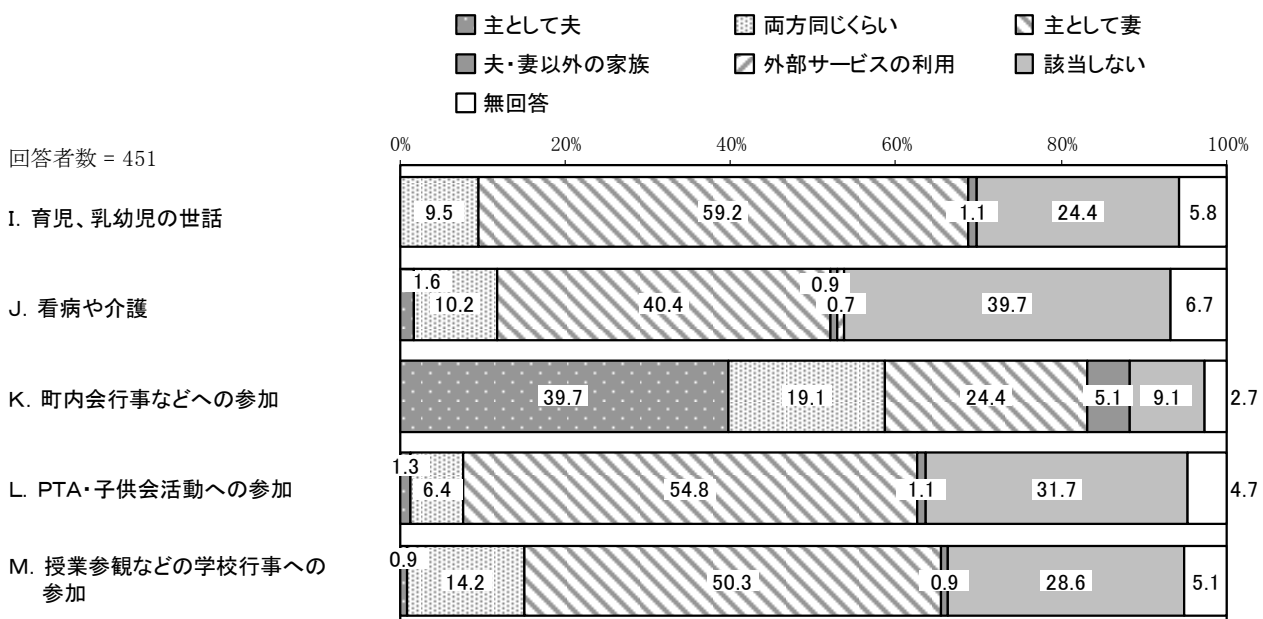
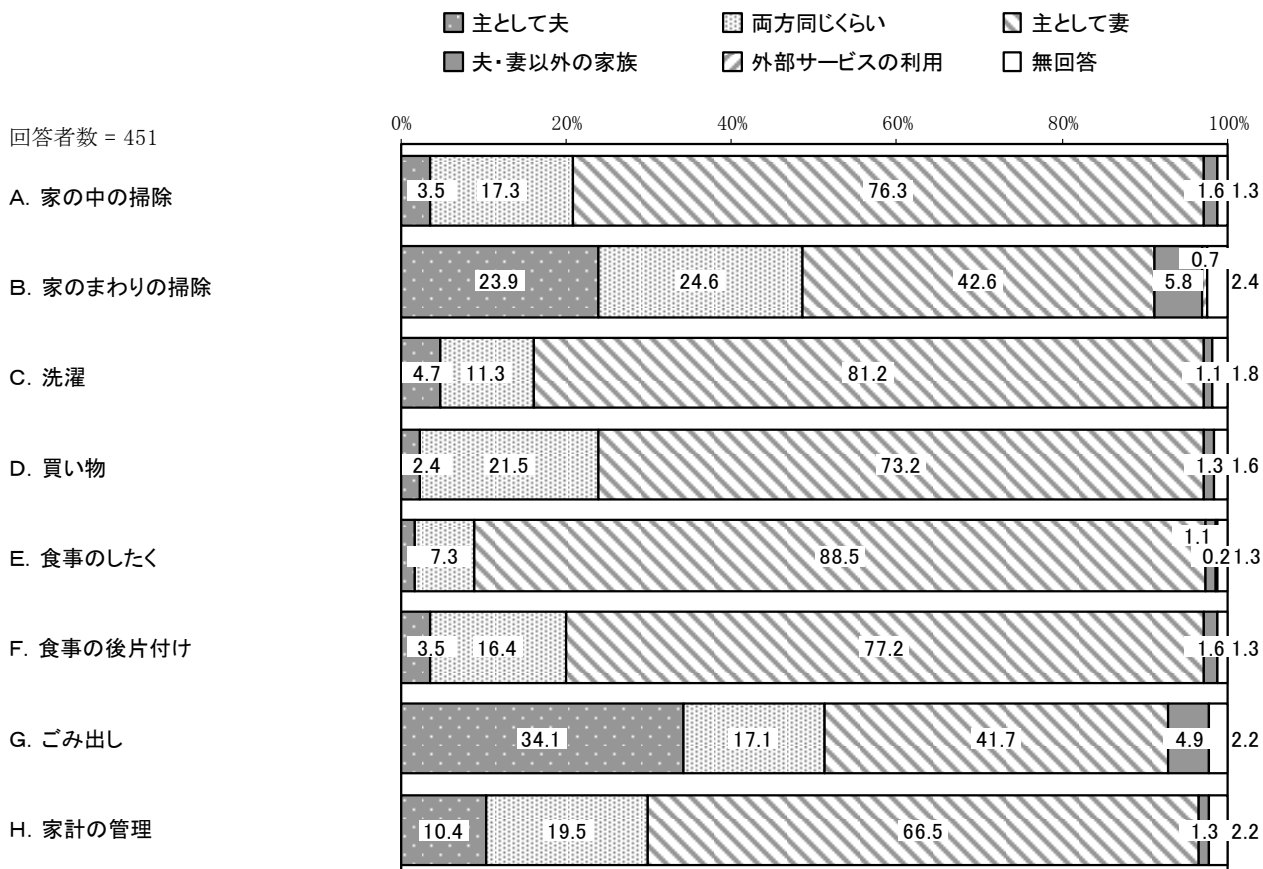
平成 28 年度調査と比較すると、「男女平等に反すると思うから」「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」の割合が増加し、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」の割合が減少しています。



現在結婚している方（又はパートナーと暮らしている方）にお聞きます。

問4 あなたの家庭では、次のA～Mのそれぞれの項目について、主に誰が行っていますか。（それぞれ1つに○）

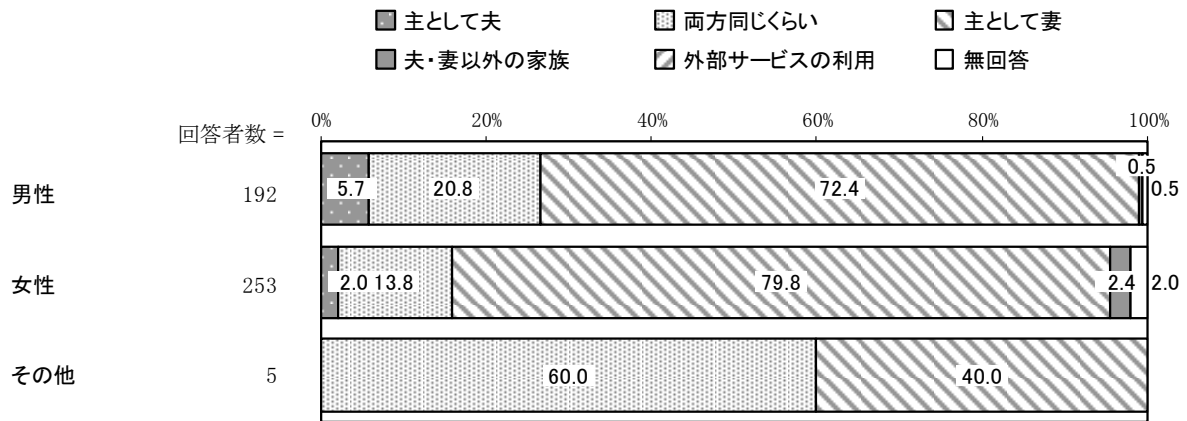
『K. 町内会行事などへの参加』を除くすべての項目で「主として妻」の割合が最も高くなっており、特に『C. 洗濯』『E. 食事のしたく』で8割を超えています。また、『K. 町内会行事などへの参加』で「主として夫」の割合が高く、約4割となっています。



A. 家の中の掃除

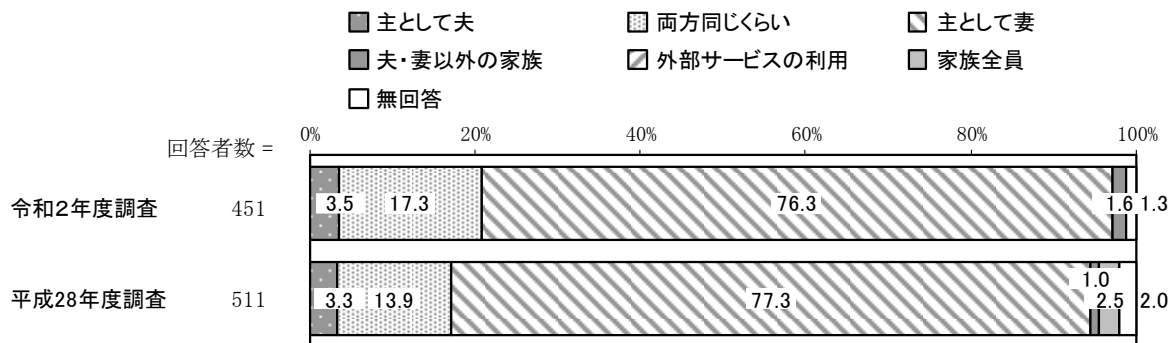
【性別】

性別で見ると、男性で「両方同じくらい」の割合が高くなっています。また、女性で「主として妻」の割合が高くなっています。



【平成28年度調査との比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

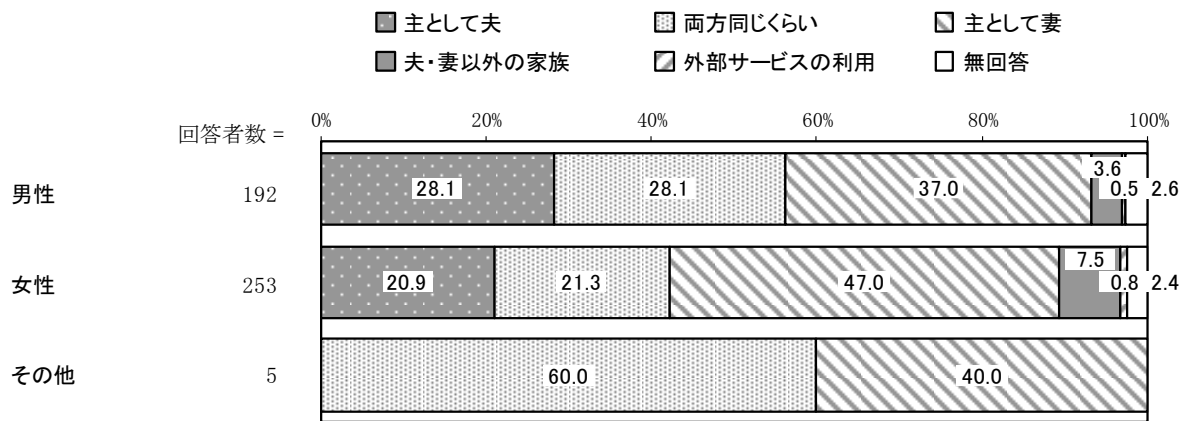


※「外部サービスの利用」の選択肢は、令和2年度調査で追加されました。また、「家族全員」の選択肢は、令和2年度調査にはありません。

B. 家のまわりの掃除

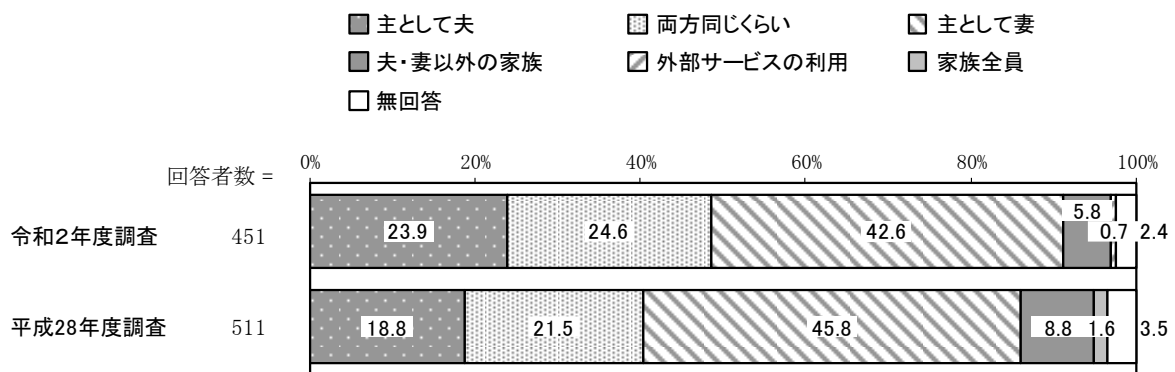
【性別】

性別で見ると、男性で「主として夫」「両方同じくらい」の割合が高くなっています。また、女性で「主として妻」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「主として夫」の割合が増加しています。

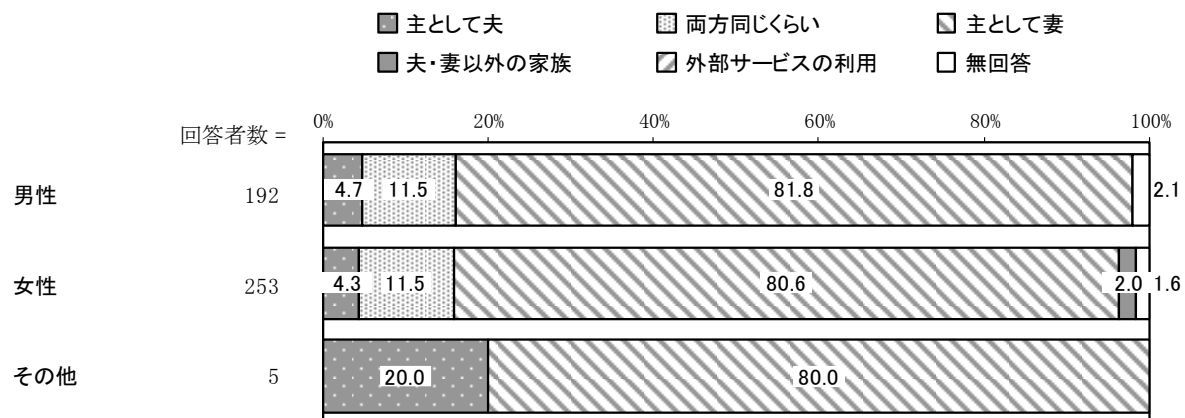


※「外部サービスの利用」の選択肢は、令和2年度調査で追加されました。また、「家族全員」の選択肢は、令和2年度調査にはありません。

C. 洗濯

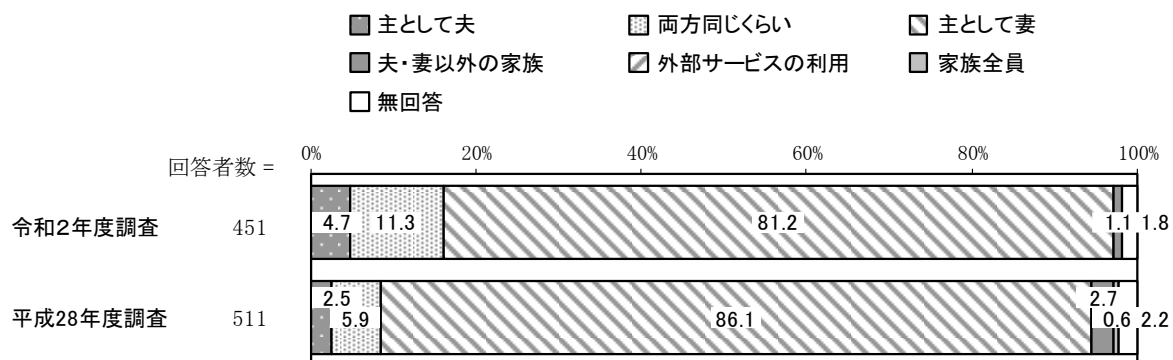
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【平成28年度調査との比較】

平成28年度調査と比較すると、「両方同じくらい」の割合が増加しています。

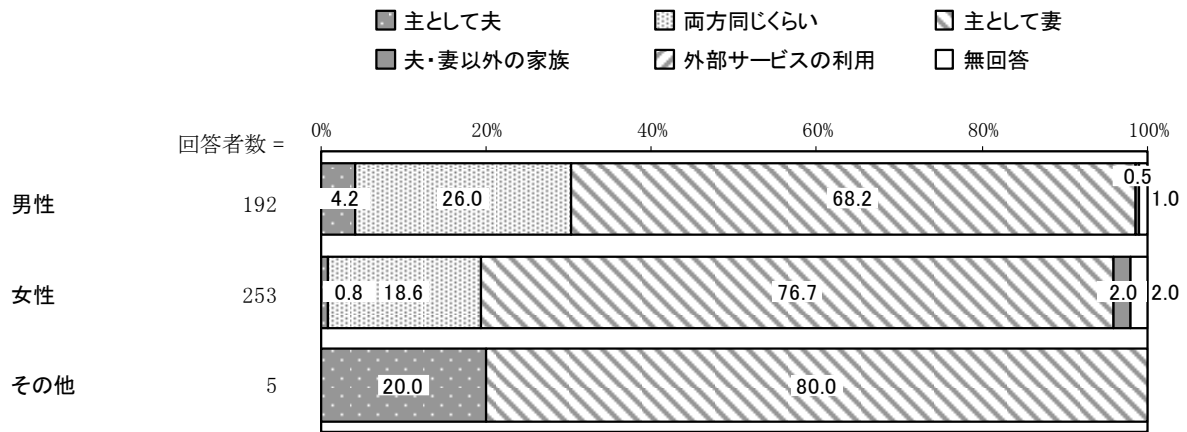


※「外部サービスの利用」の選択肢は、令和2年度調査で追加されました。また、「家族全員」の選択肢は、令和2年度調査にはありません。

D. 買い物

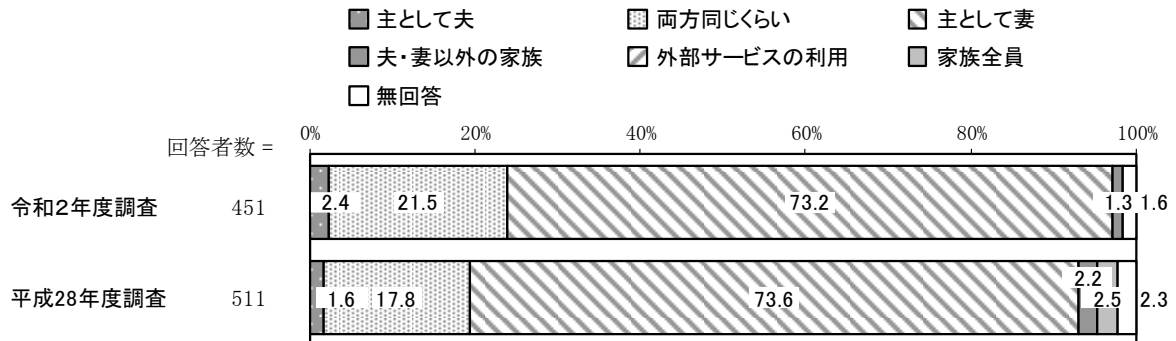
【性別】

性別で見ると、男性で「両方同じくらい」の割合が高くなっています。また、女性で「主として妻」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

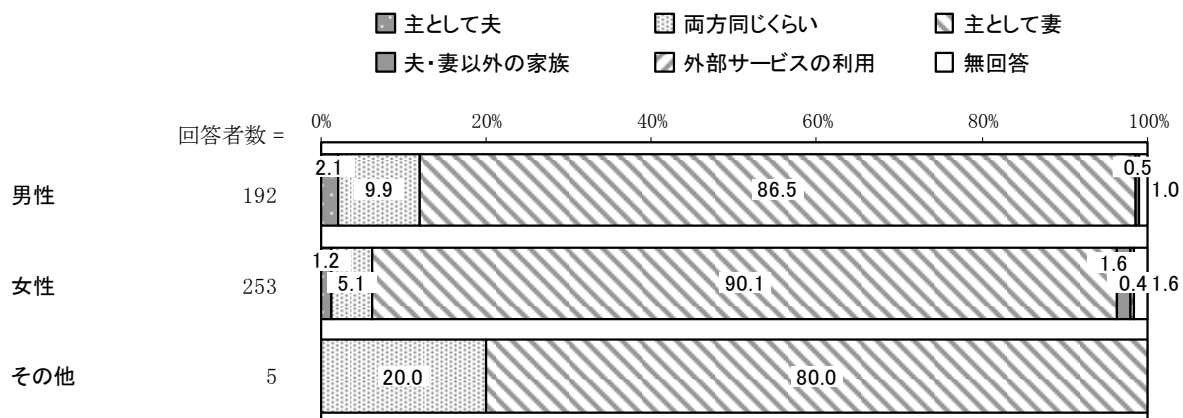


※「外部サービスの利用」の選択肢は、令和2年度調査で追加されました。また、「家族全員」の選択肢は、令和2年度調査にはありません。

E. 食事のしたく

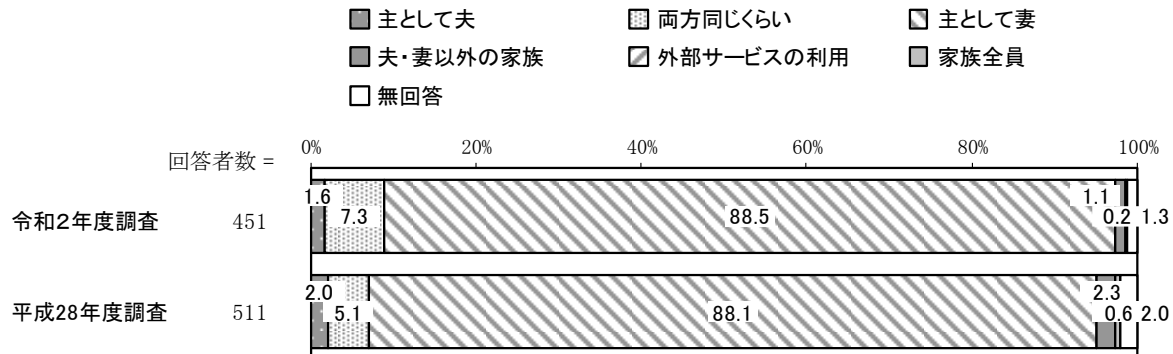
【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

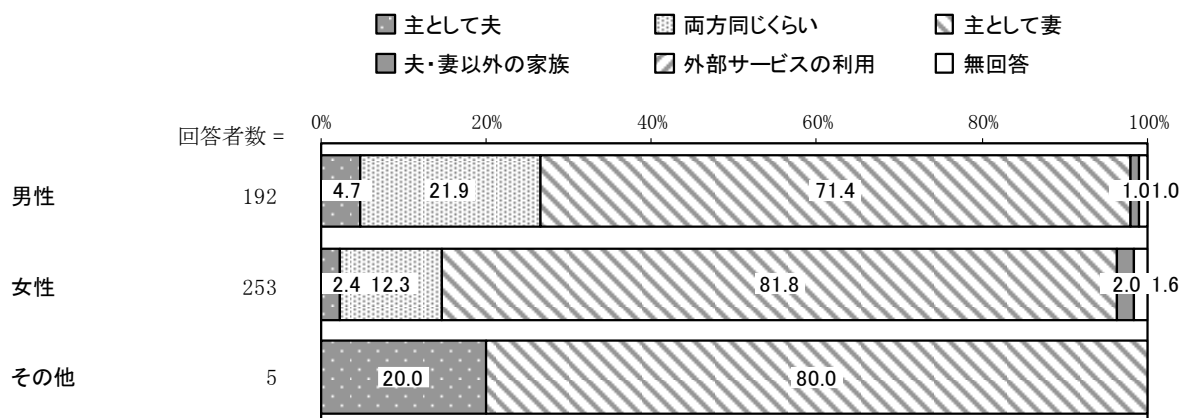


※「外部サービスの利用」の選択肢は、令和2年度調査で追加されました。また、「家族全員」の選択肢は、令和2年度調査にはありません。

F. 食事の後片付け

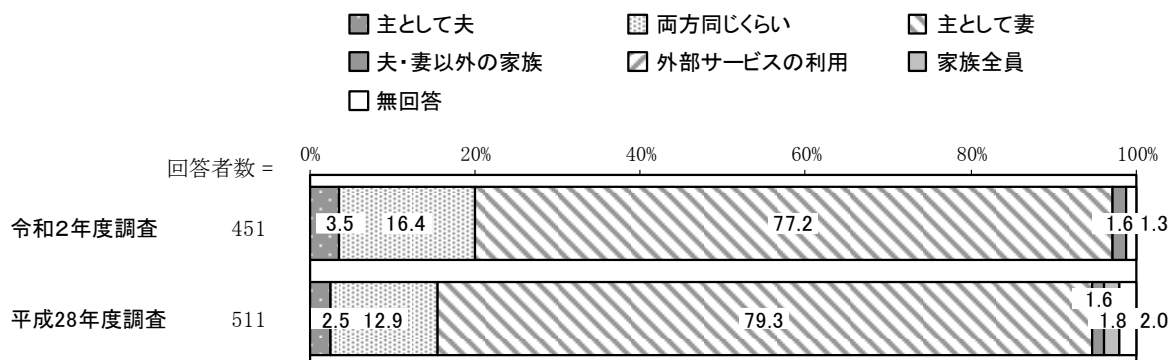
【性別】

性別でみると、男性で「両方同じくらい」の割合が高くなっています。また、女性で「主として妻」の割合が高くなっています。



【平成28年度調査との比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

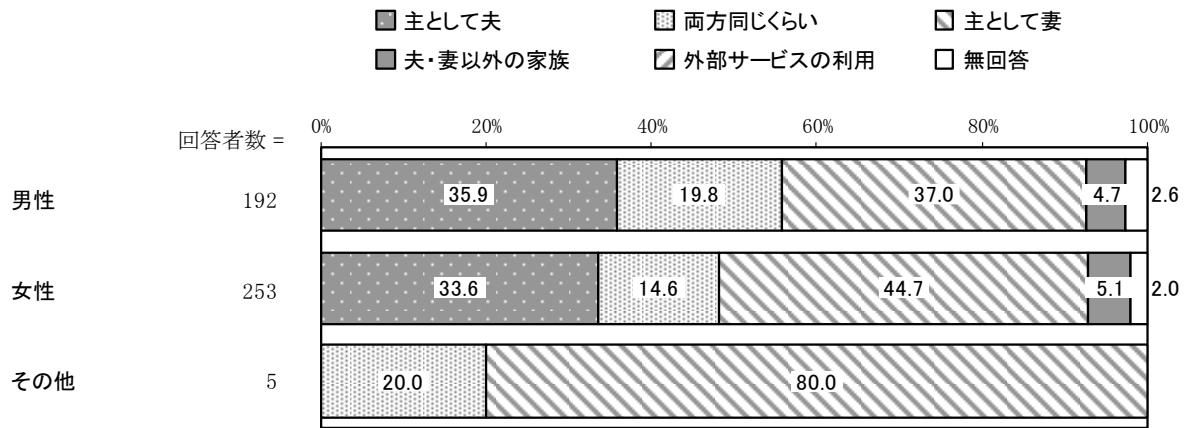


※「外部サービスの利用」の選択肢は、令和2年度調査で追加されました。また、「家族全員」の選択肢は、令和2年度調査にはありません。

G. ごみ出し

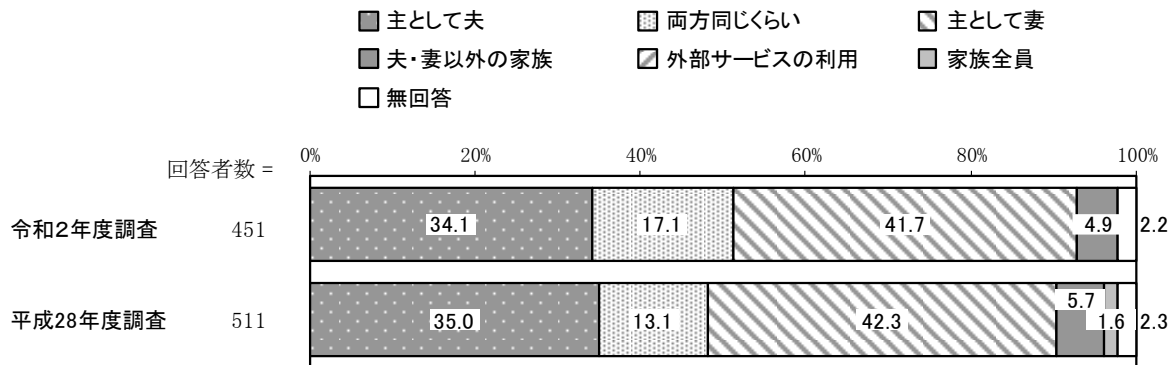
【性別】

性別で見ると、男性で「両方同じくらい」の割合が高くなっています。また、女性で「主として妻」の割合が高くなっています。



【平成28年度調査との比較】

平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

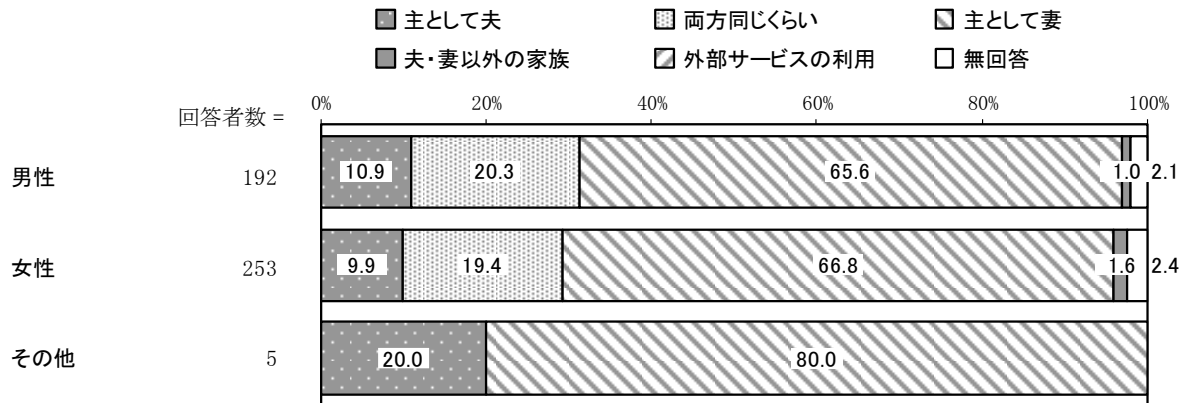


※「外部サービスの利用」の選択肢は、令和2年度調査で追加されました。また、「家族全員」の選択肢は、令和2年度調査にはありません。

H. 家計の管理

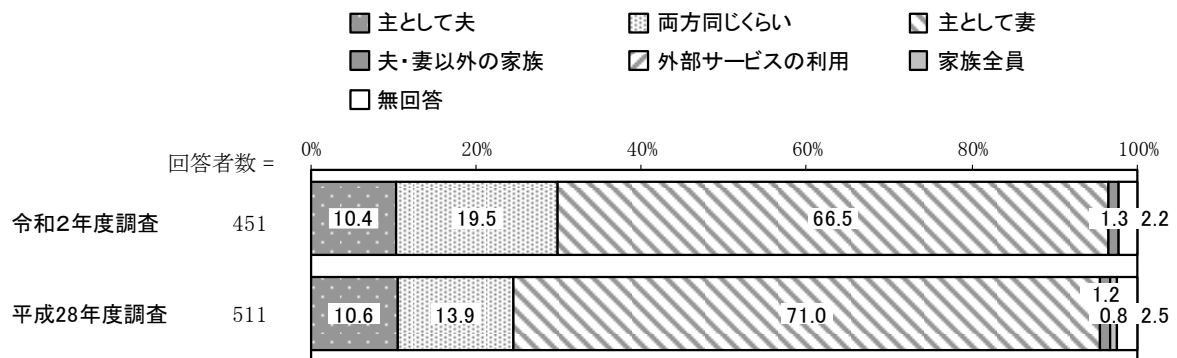
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「両方同じくらい」の割合が増加しています。

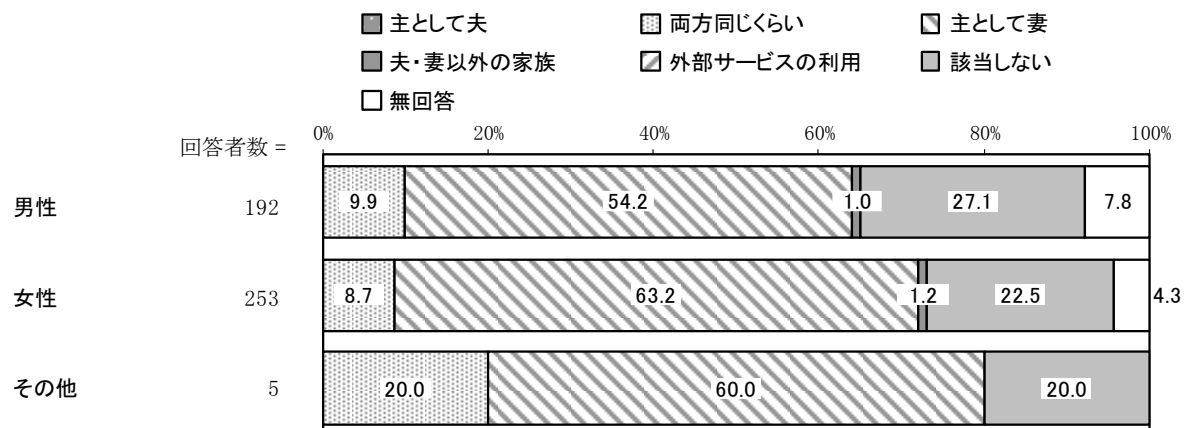


※「外部サービスの利用」の選択肢は、令和 2 年度調査で追加されました。また、「家族全員」の選択肢は、令和 2 年度調査にはありません。

I. 育児、乳幼児の世話

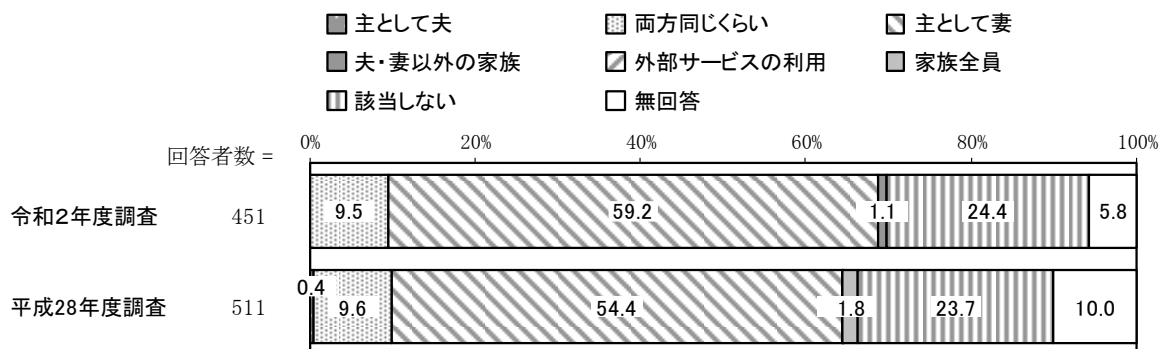
【性別】

性別で見ると、女性で「主として妻」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

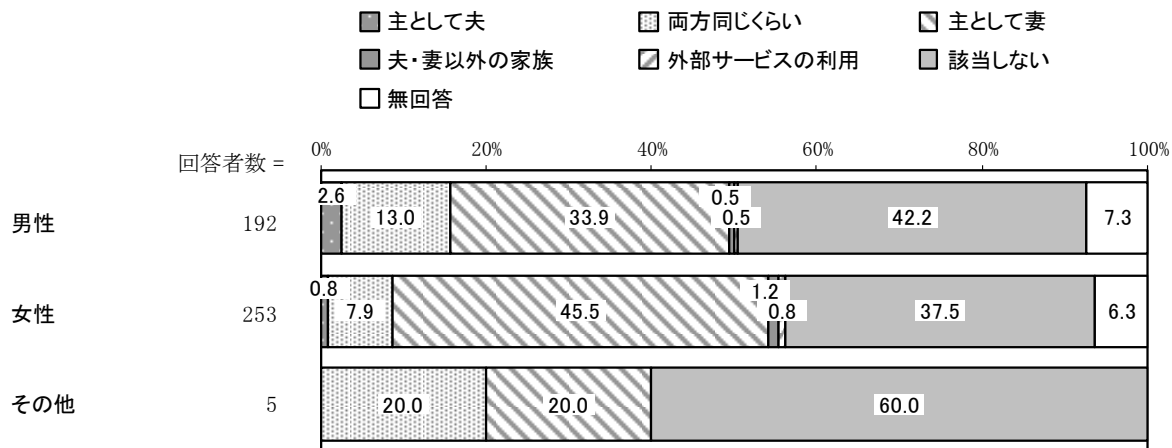


※「外部サービスの利用」の選択肢は、令和2年度調査で追加されました。また、「家族全員」の選択肢は、令和2年度調査にはありません。

J. 看病や介護

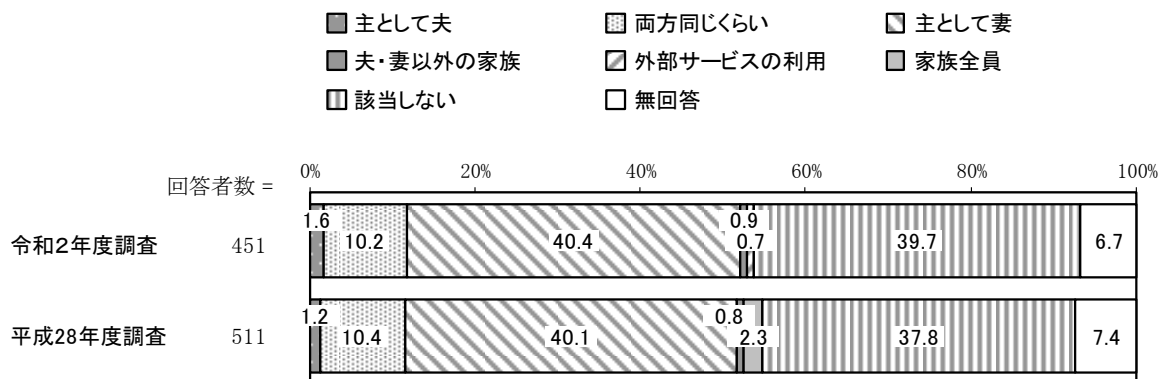
【性別】

性別で見ると、男性で「両方同じくらい」の割合が高くなっています。また、女性で「主として妻」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

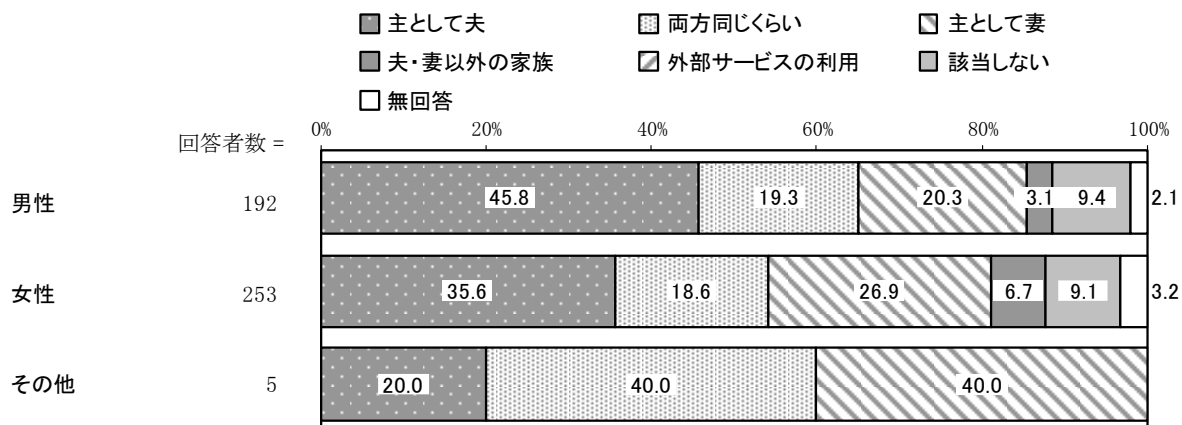


※「外部サービスの利用」の選択肢は、令和2年度調査で追加されました。また、「家族全員」の選択肢は、令和2年度調査にはありません。

K. 町内会行事などへの参加

【性別】

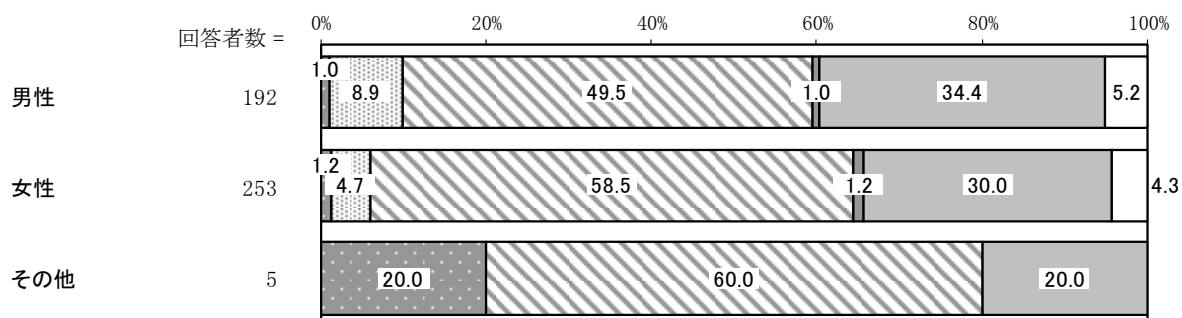
性別で見ると、男性で「主として夫」の割合が高くなっています。また、女性で「主として妻」の割合が高くなっています。



L. P T A ・ 子供会活動への参加

【性別】

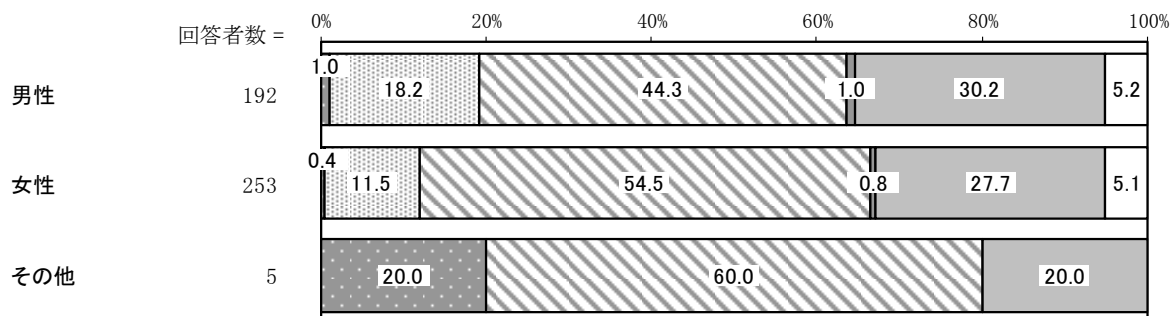
性別で見ると、女性で「主として妻」の割合が高くなっています。



M. 授業参観などの学校行事への参加

【性別】

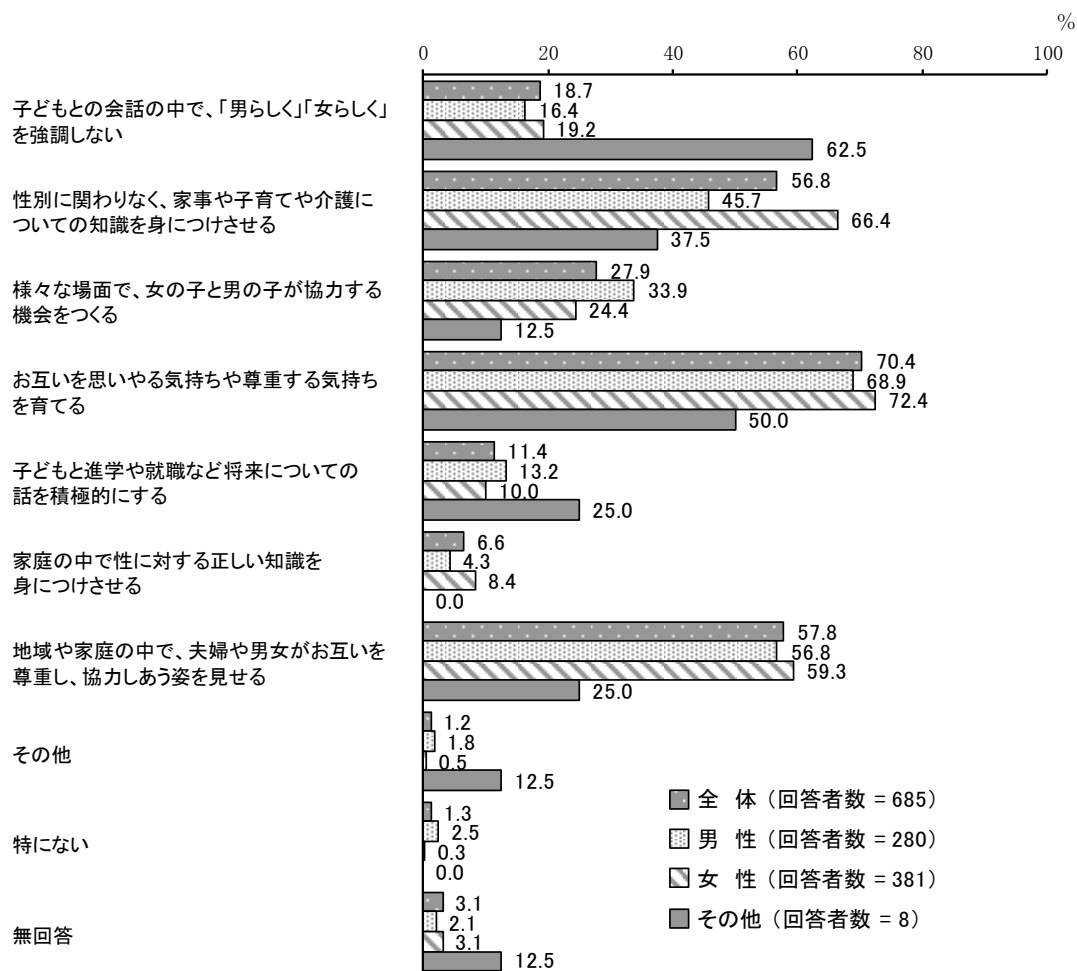
性別で見ると、男性で「両方同じくらい」の割合が高くなっています。また、女性で「主として妻」の割合が高くなっています。



問5 あなたは、子どもたちが男女平等の人間関係をつくっていくために、親や大人はどのようなことを心がけるとよいと思いますか。（3つまでに○）

「お互いを思いやる気持ちや尊重する気持ちを育てる」の割合が70.4%と最も高く、次いで「地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力しあう姿を見せる」の割合が57.8%、「性別に関わりなく、家事や子育てや介護についての知識を身につけさせる」の割合が56.8%となっています。

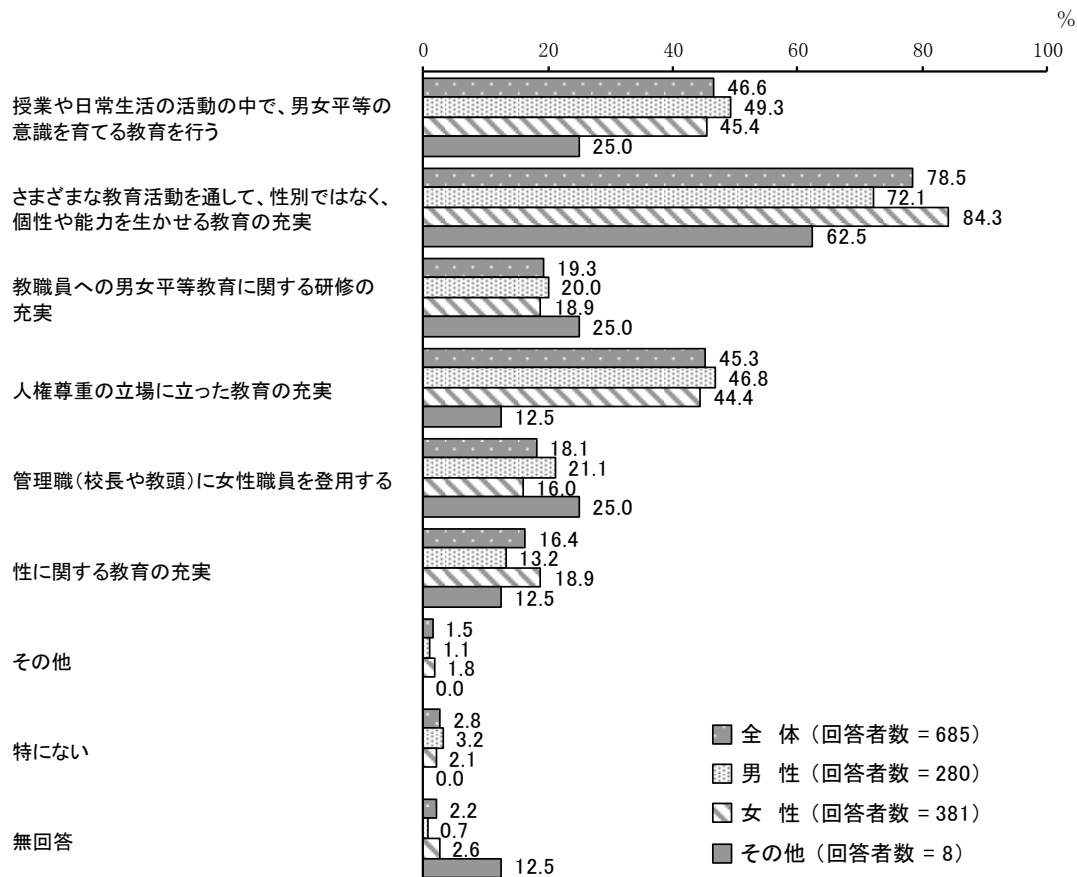
性別でみると、男性で「様々な場面で、女の子と男の子が協力する機会をつくる」の割合が高くなっています。また、女性で「性別に関わりなく、家事や子育てや介護についての知識を身につけさせる」の割合が高くなっています。



問6 あなたは、男女平等の人間関係をつくるために、学校教育の場で力を入れることは何だと思いますか。（3つまでに○）

「さまざまな教育活動を通して、性別ではなく、個性や能力を生かせる教育の充実」の割合が78.5%と最も高く、次いで「授業や日常生活の活動の中で、男女平等の意識を育てる教育を行う」の割合が46.6%、「人権尊重の立場に立った教育の充実」の割合が45.3%となっています。

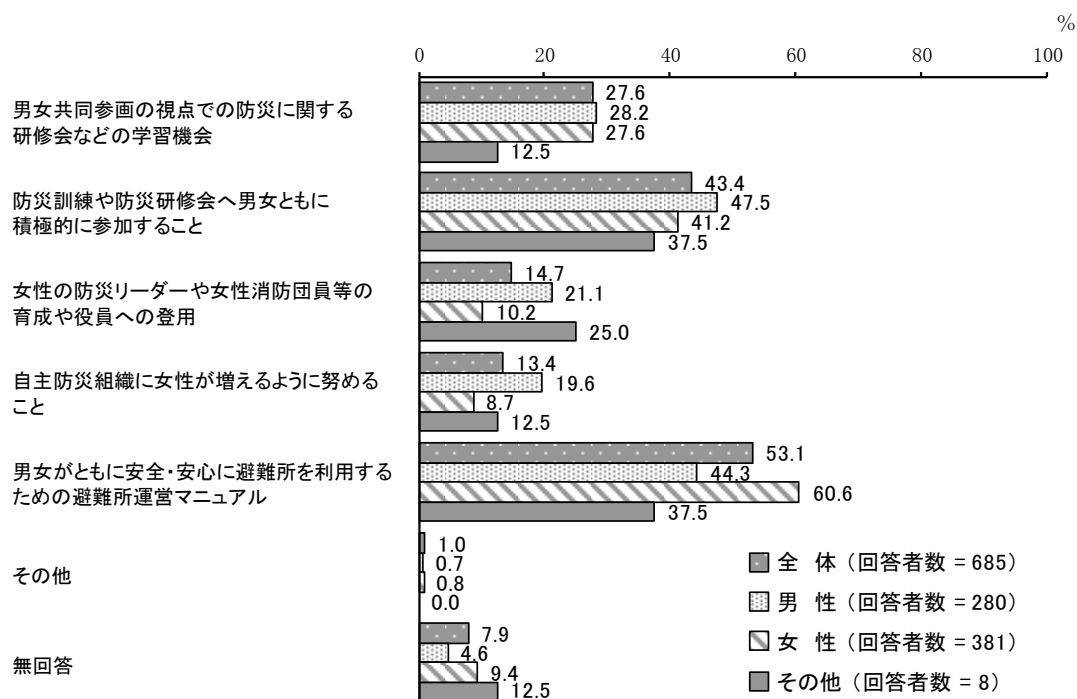
性別でみると、男性で「管理職（校長や教頭）に女性職員を登用する」の割合が高くなっています。また、女性で「さまざまな教育活動を通して、性別ではなく、個性や能力を生かせる教育の充実」「性に関する教育の充実」の割合が高くなっています。



問7 あなたは、地域の防災・災害対策の体制づくりにおいて、男女共同参画の視点で特に何が必要であると思いますか。（2つまでに○）

「男女がともに安全・安心に避難所を利用するための避難所運営マニュアル」の割合が53.1%と最も高く、次いで「防災訓練や防災研修会へ男女ともに積極的に参加すること」の割合が43.4%、「男女共同参画の視点での防災に関する研修会などの学習機会」の割合が27.6%となっています。

性別でみると、男性で「防災訓練や防災研修会へ男女ともに積極的に参加すること」「女性の防災リーダーや女性消防団員等の育成や役員への登用」「自主防災組織に女性が增えるように努めること」の割合が高くなっています。また、女性で「男女がともに安全・安心に避難所を利用するための避難所運営マニュアル」の割合が高くなっています。

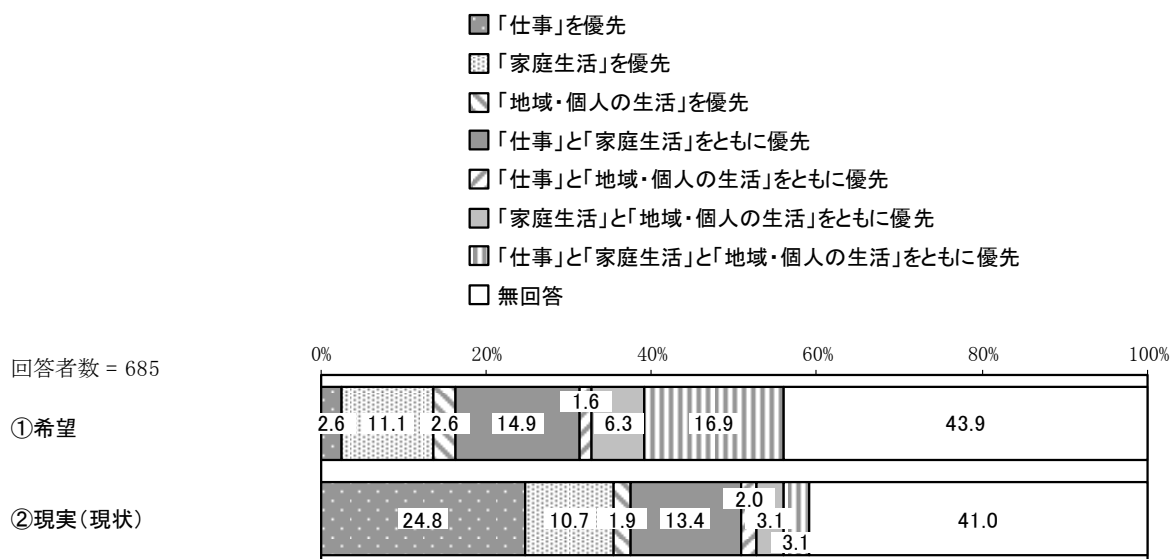


4 社会参加について

問8 生活の中での「仕事」・「家庭生活」・「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についてお聞きします。あなたの「①希望」、「②現実（現状）」に最も近いものを、それぞれ1つだけ選んでください。（それぞれ1つに○）

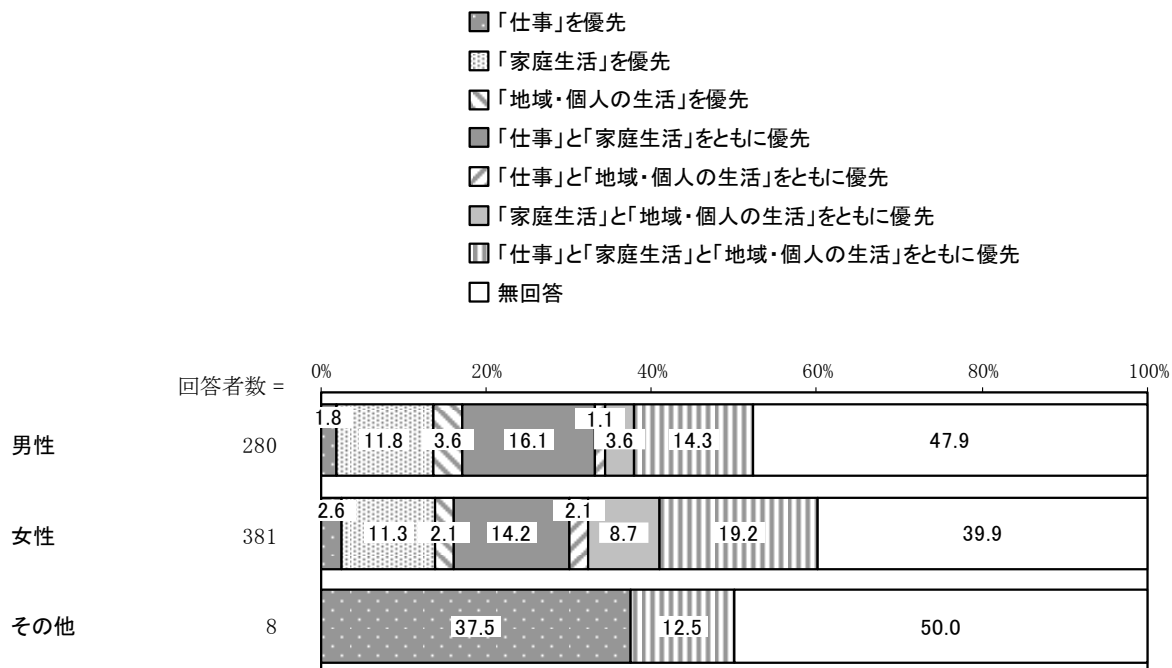
①希望では、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」の割合が16.9%と最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先」の割合が14.9%、『家庭生活』を優先」の割合が11.1%となっています。

②現実（現状）では、『仕事』を優先」の割合が24.8%と最も高く、次いで『仕事』と『家庭生活』をともに優先」の割合が13.4%、『家庭生活』を優先」の割合が10.7%となっています。



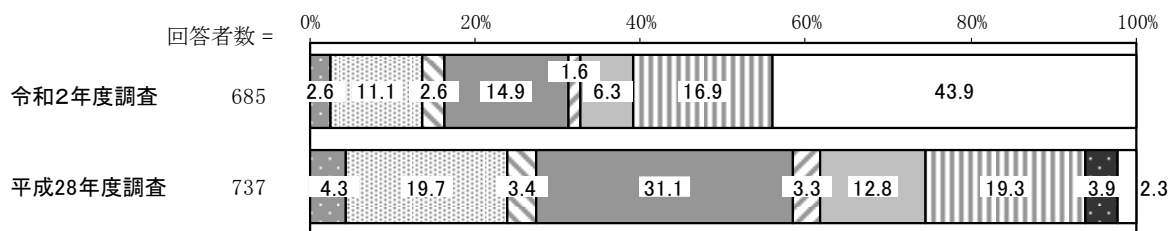
①希望（それぞれ1つに○）

性別でみると、女性で『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先の割合が高くなっています。



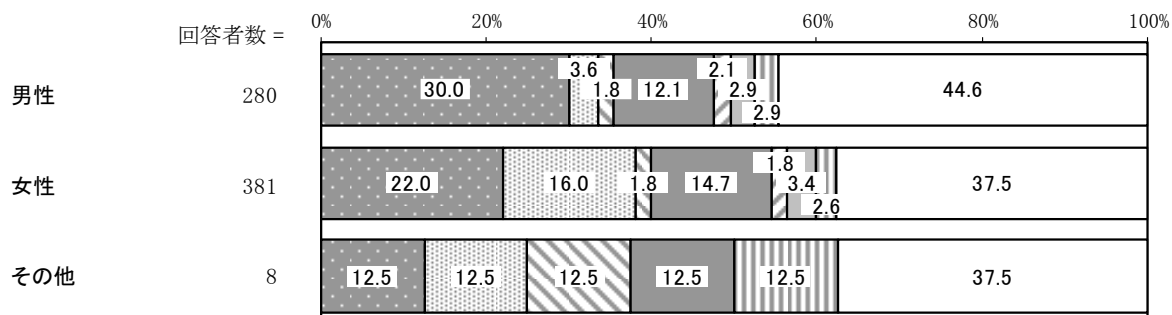
【平成28年度調査との比較】

平成28年度調査と比較すると、『家庭生活』を優先、『仕事』と『家庭生活』をともに優先、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先の割合が減少しています。



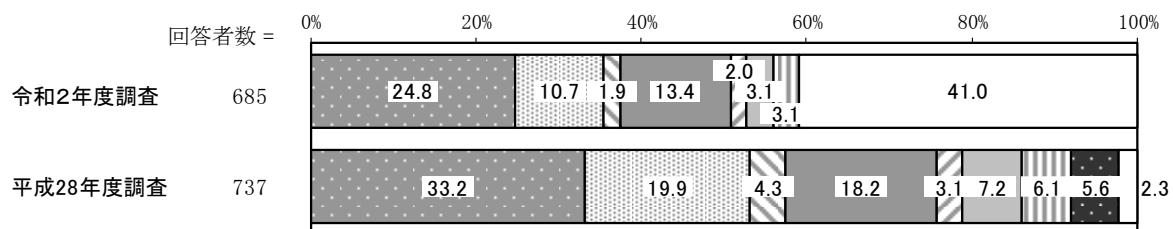
②現実（現状）（それぞれ1つに○）

性別でみると、男性で『仕事』を優先の割合が高くなっています。また、女性で『家庭生活』を優先の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

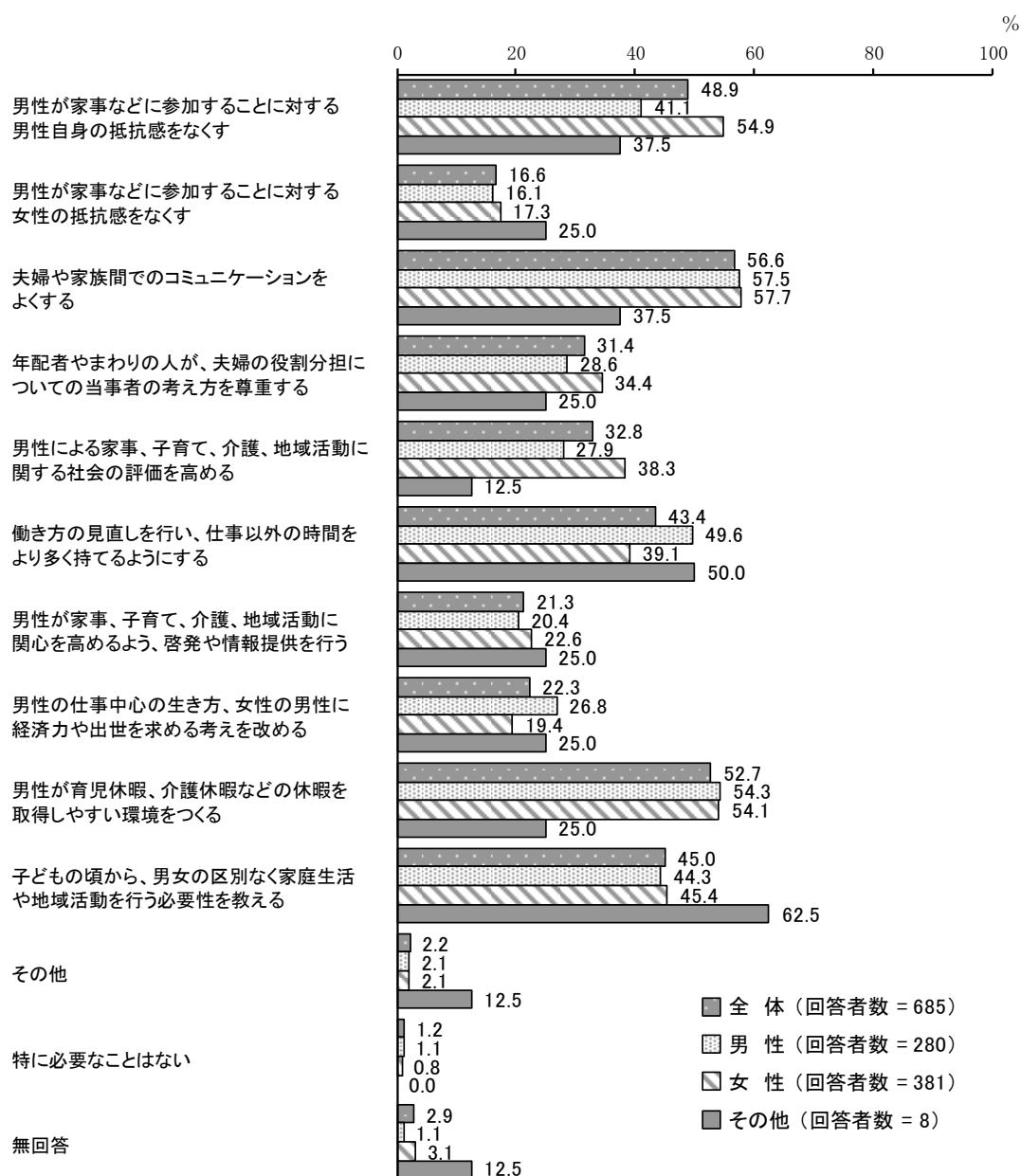
平成 28 年度調査と比較すると、『仕事』を優先『家庭生活』を優先の割合が減少しています。



問9 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

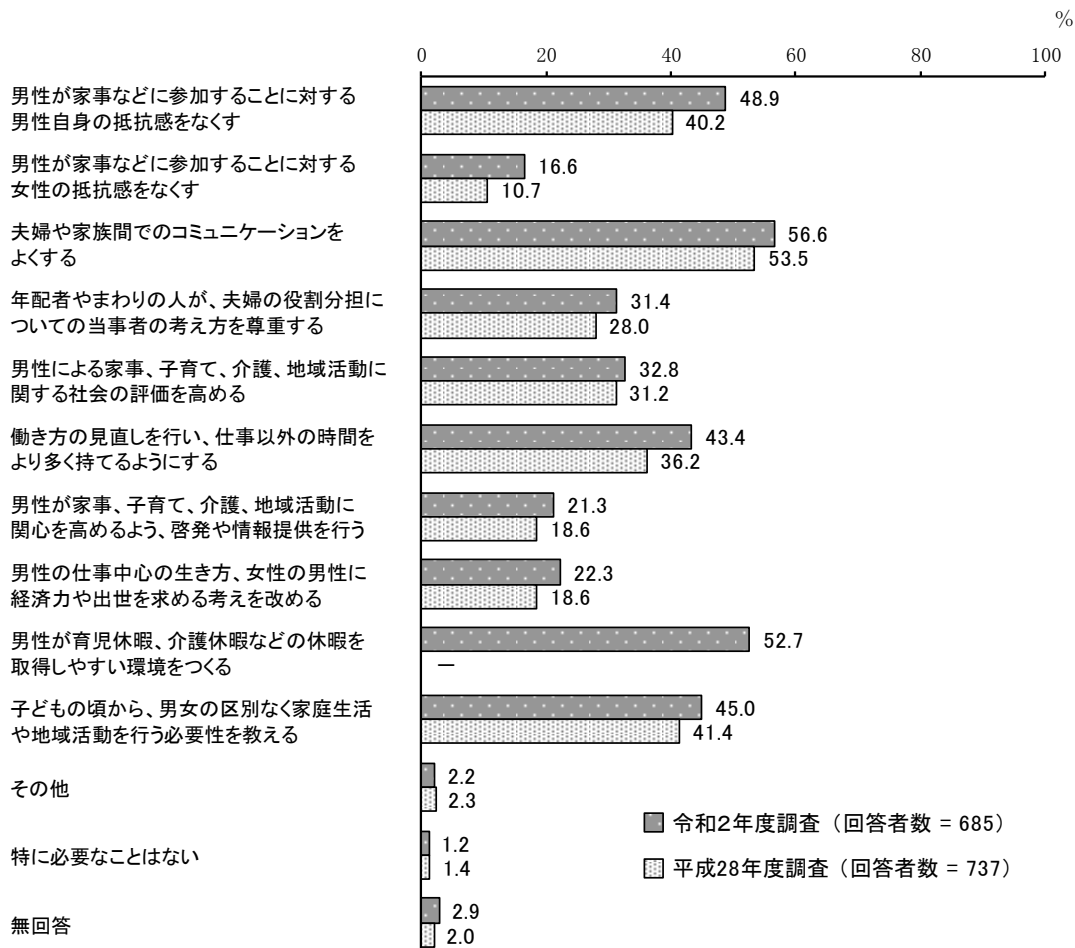
「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくする」の割合が56.6%と最も高く、次いで「男性が育児休暇、介護休暇などの休暇を取得しやすい環境をつくる」の割合が52.7%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」の割合が48.9%となっています。

性別で見ると、男性で「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」「男性の仕事中心の生き方、女性の男性に経済力や出世を求める考えを改める」の割合が高くなっています。また、女性で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する」「男性による家事、子育て、介護、地域活動に関する社会の評価を高める」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす」「働き方の見直しを行い、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」の割合が増加しています。

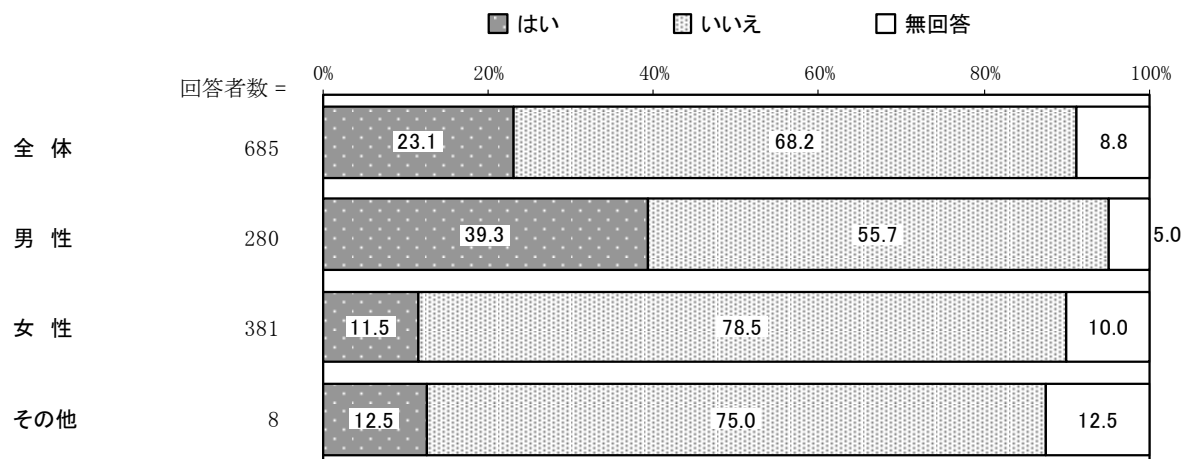


※「男性が育児休暇、介護休暇などの休暇を取得しやすい環境をつくる」の選択肢は、令和 2 年度調査で追加されました。

5 仕事について

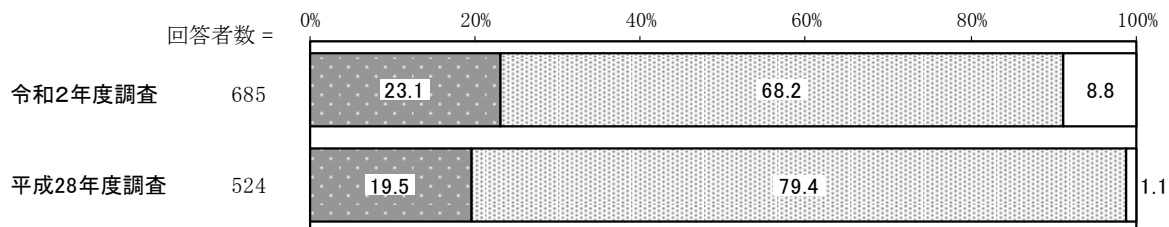
問10 あなたは、役職（管理職以上）に就いていますか（就いていましたか）。
（どちらかに○）

「はい」の割合が23.1%、「いいえ」の割合が68.2%となっています。
性別でみると、女性で「いいえ」の割合が高くなっています。



【平成28年度調査との比較】

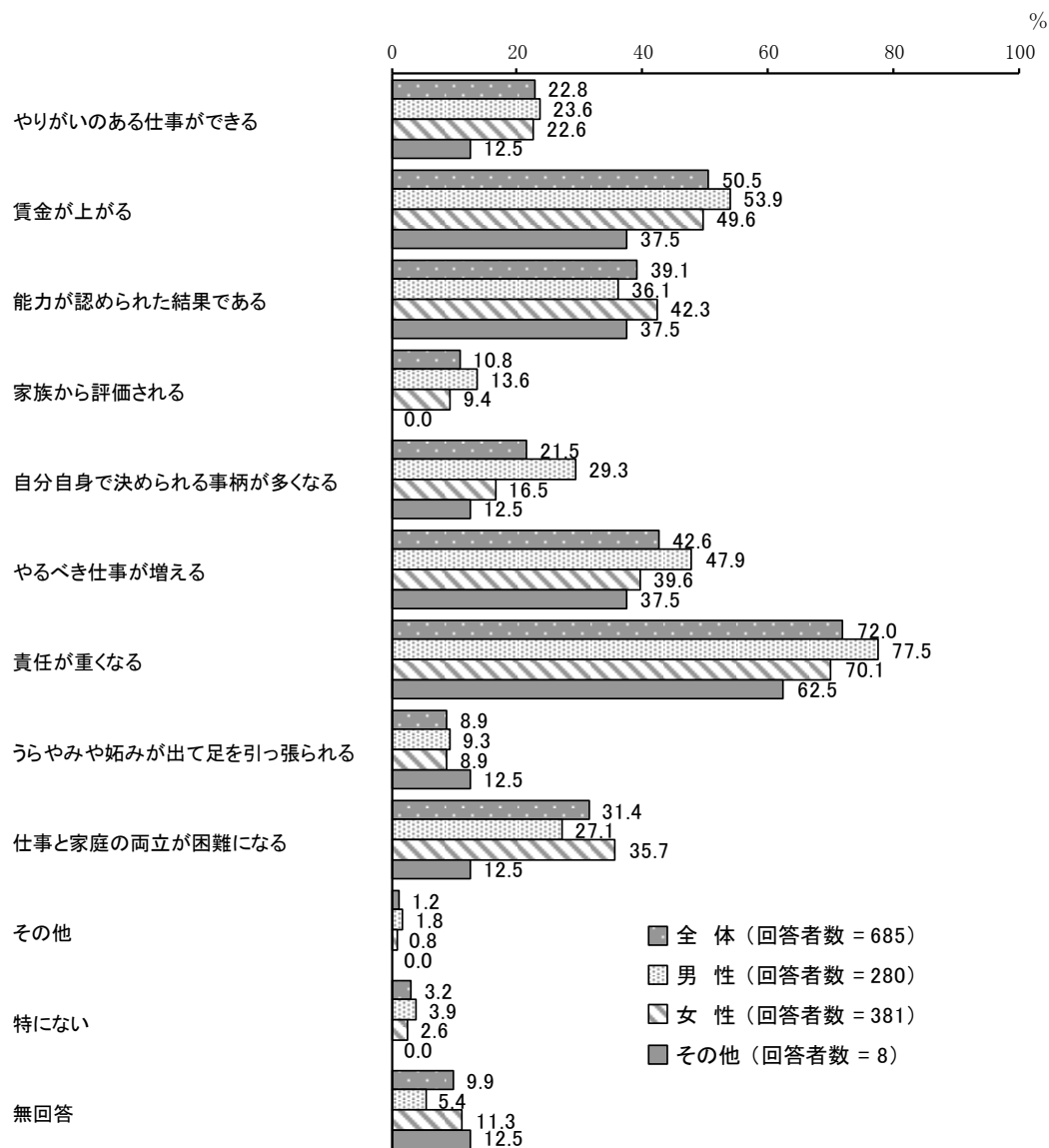
平成28年度調査と比較すると、「いいえ」の割合が減少しています。



問 11 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。(あてはまるものすべてに○)

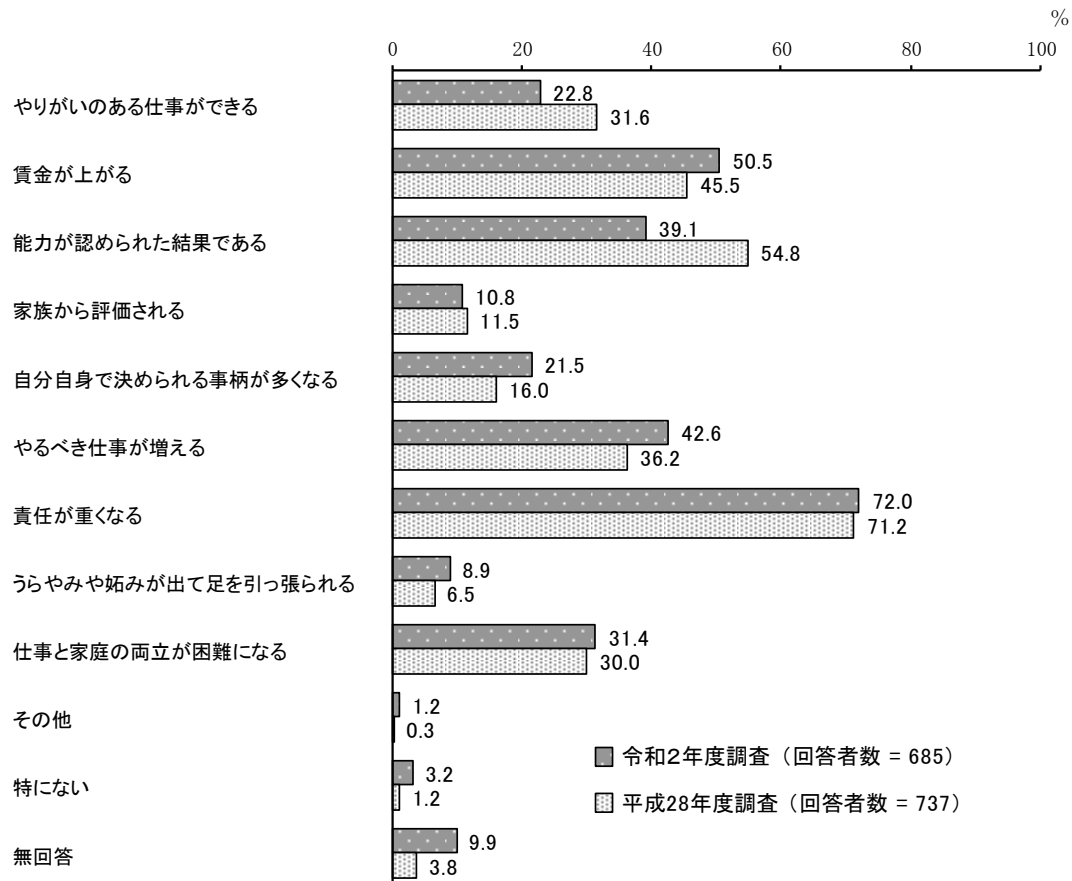
「責任が重くなる」の割合が72.0%と最も高く、次いで「賃金が上がる」の割合が50.5%、「やるべき仕事が増える」の割合が42.6%となっています。

性別でみると、男性で「自分自身で決められる事柄が多くなる」「やるべき仕事が増える」「責任が重くなる」の割合が高くなっています。また、女性で「能力が認められた結果である」「仕事と家庭の両立が困難になる」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「賃金上がる」「自分自身で決められる事柄が多くなる」「やるべき仕事が増える」の割合が増加し、「やりがいのある仕事ができる」「能力が認められた結果である」の割合が減少しています。

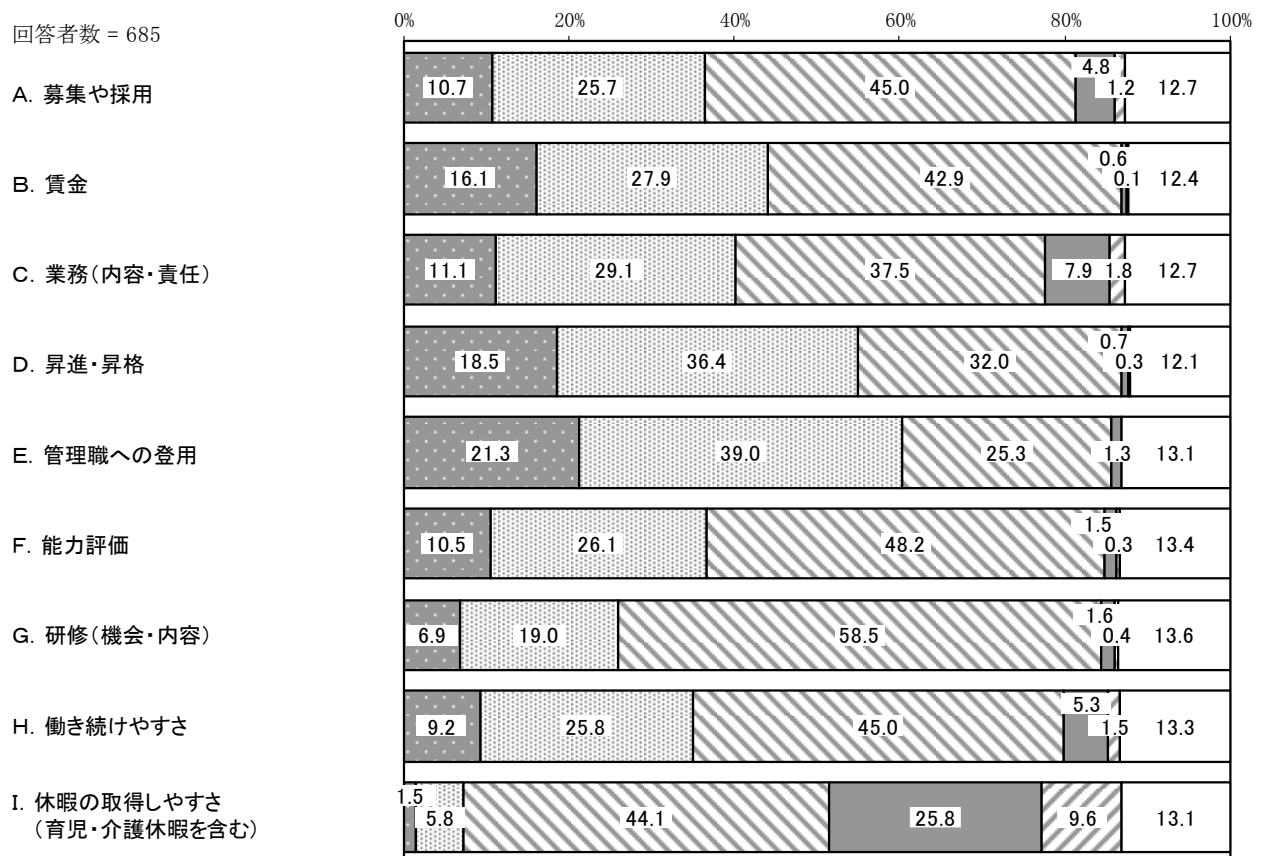


問 12 あなたの職場（元職場）では、次のA～Iの項目について、男女の扱いが平等になっていると思いますか。（それぞれ1つに○）

『D. 昇進・昇格』『E. 管理職への登用』で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が高く、5割を超えています。また、『G. 研修（機会・内容）』で「平等である」の割合が高く、約6割となっています。

- 男性の方が優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▩ 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が優遇されている
- 無回答

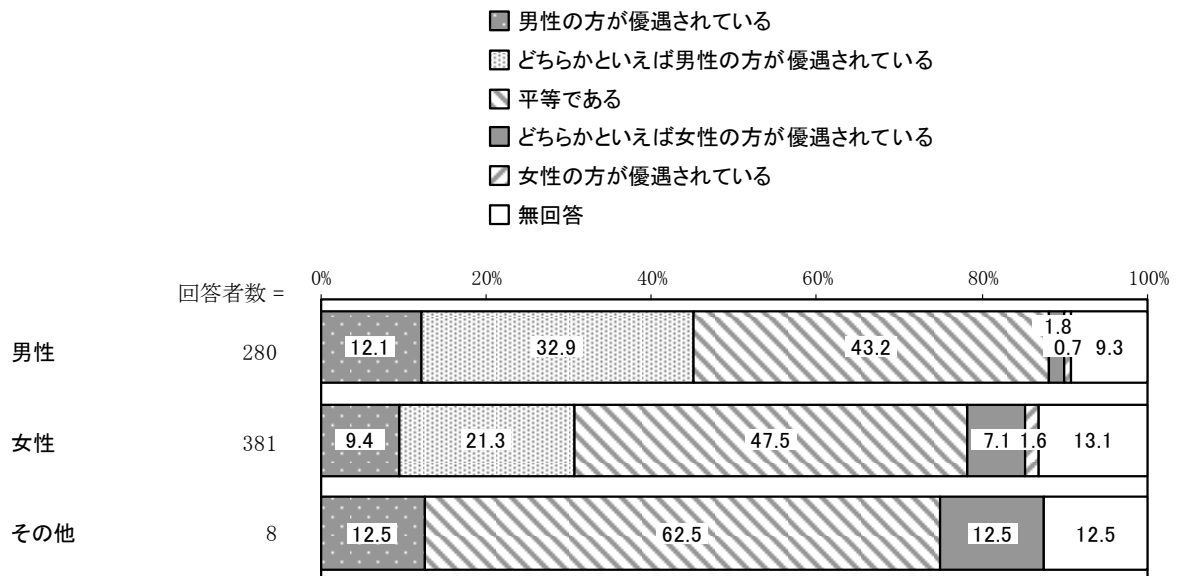
回答者数 = 685



A. 募集や採用

【性別】

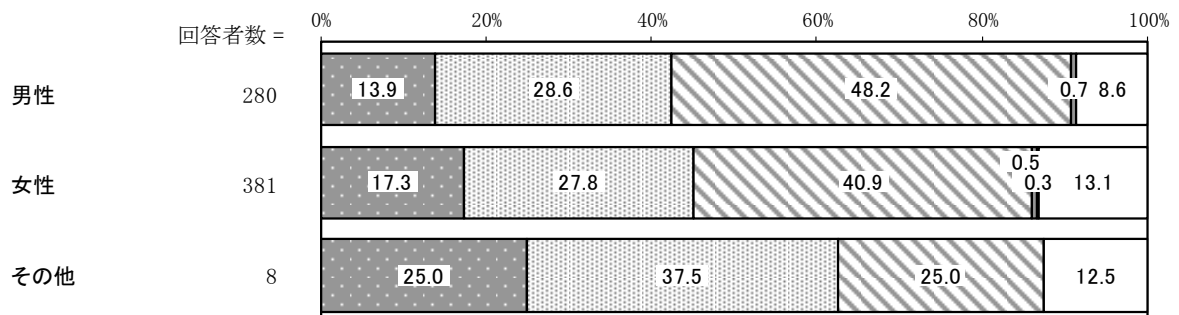
性別で見ると、男性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。また、女性で“女性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



B. 賃金

【性別】

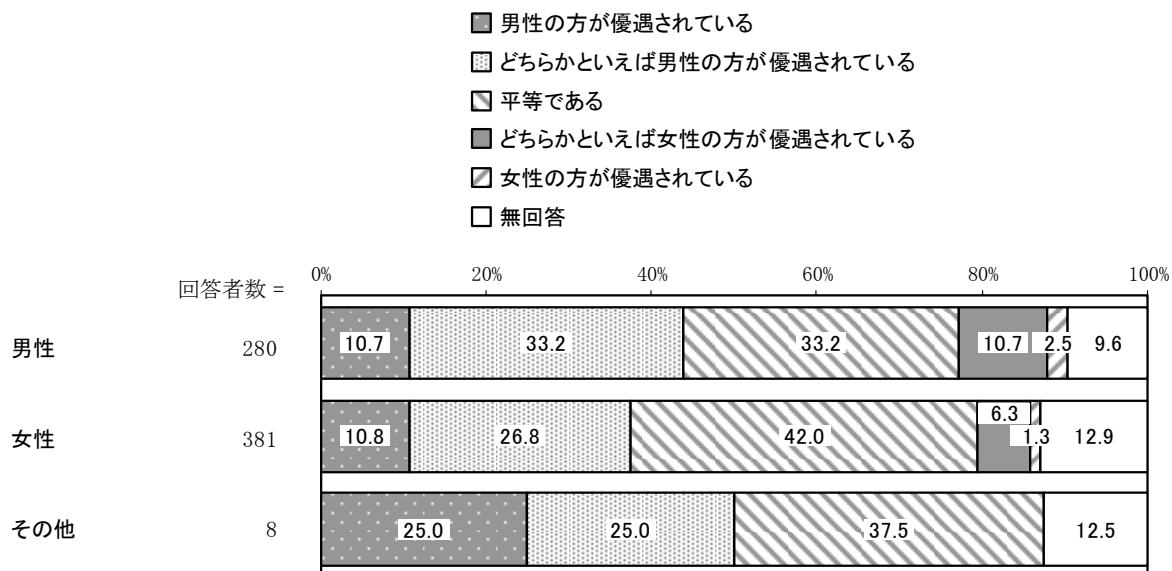
性別で見ると、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



C. 業務（内容・責任）

【性別】

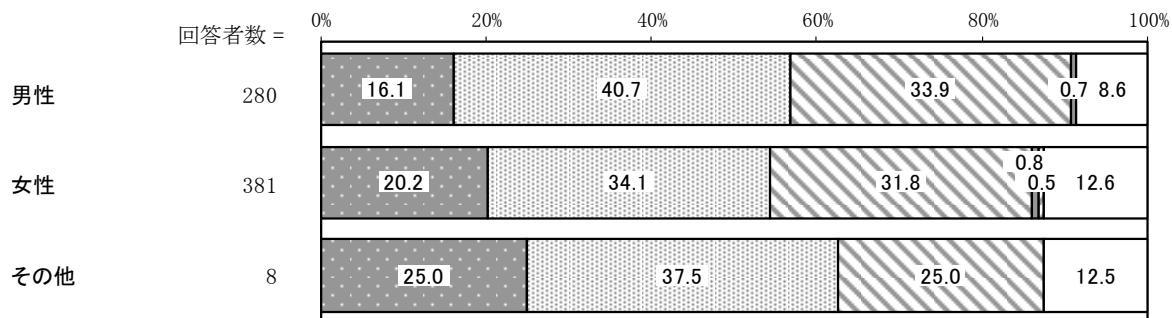
性別で見ると、男性で「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。また、女性で平等である」の割合が高くなっています。



D. 昇進・昇格

【性別】

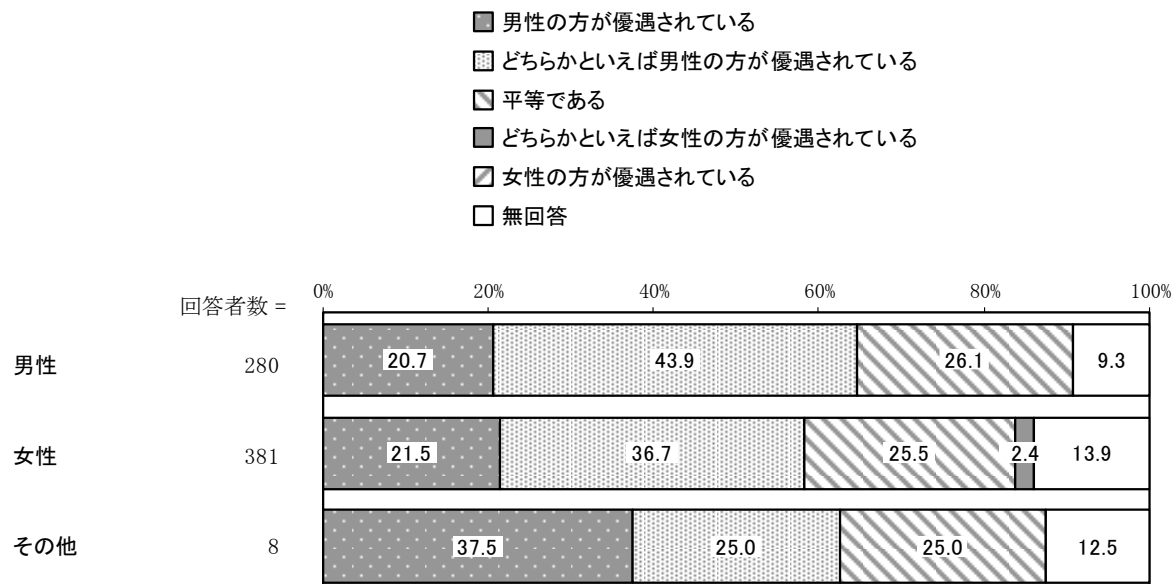
性別で見ると、男性で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。



E. 管理職への登用

【性別】

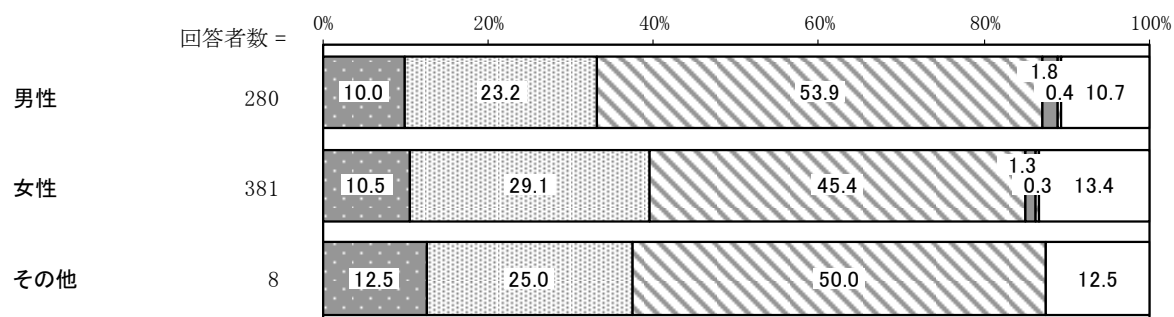
性別で見ると、男性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



F. 能力評価

【性別】

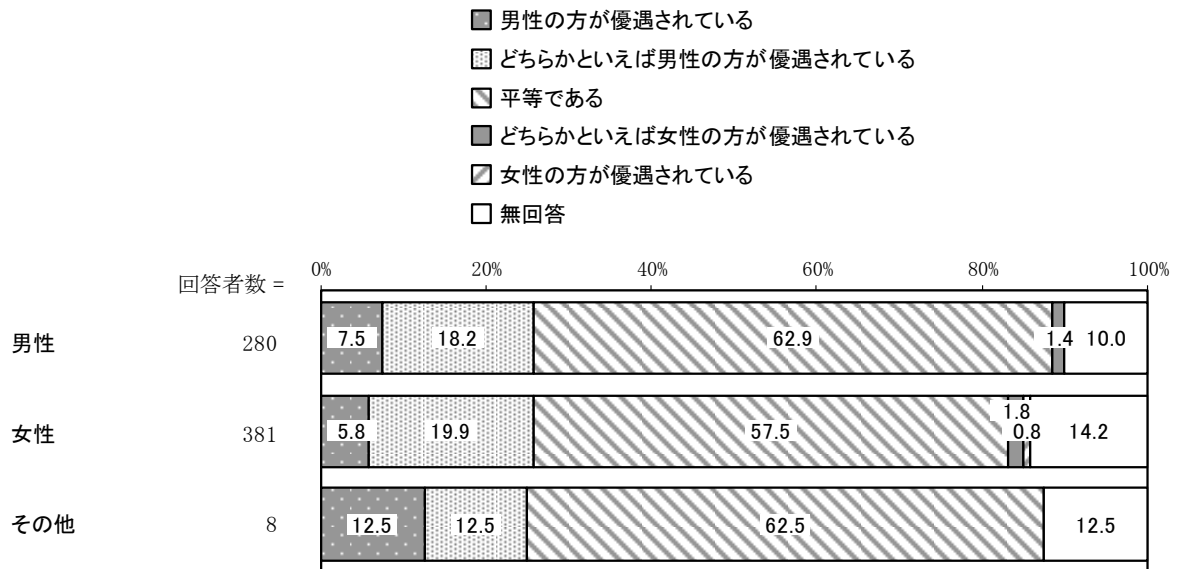
性別で見ると、男性で「平等である」の割合が高くなっています。また、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。



G. 研修（機会・内容）

【性別】

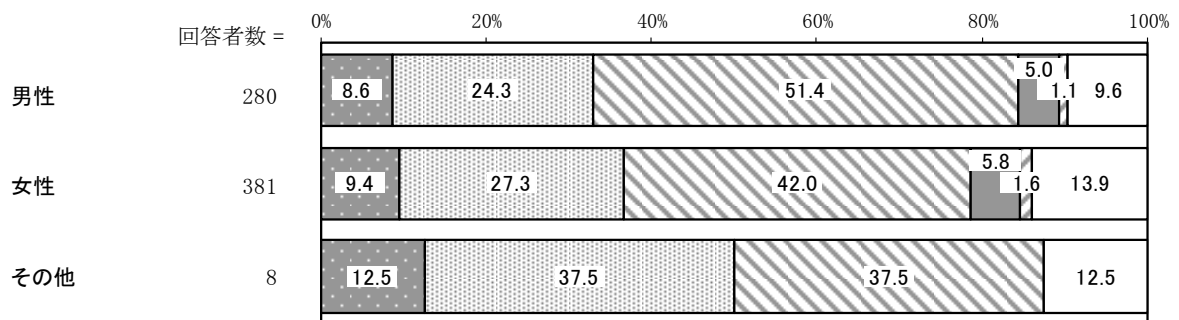
性別で見ると、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



H. 働き続けやすさ

【性別】

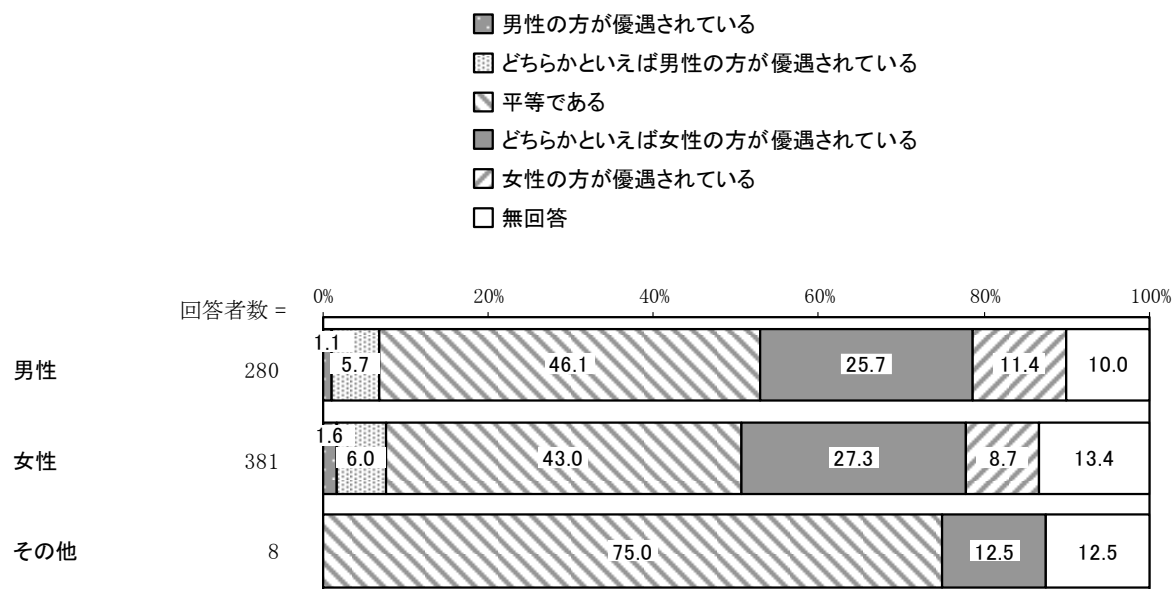
性別で見ると、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



I. 休暇の取得しやすさ（育児・介護休暇を含む）

【性別】

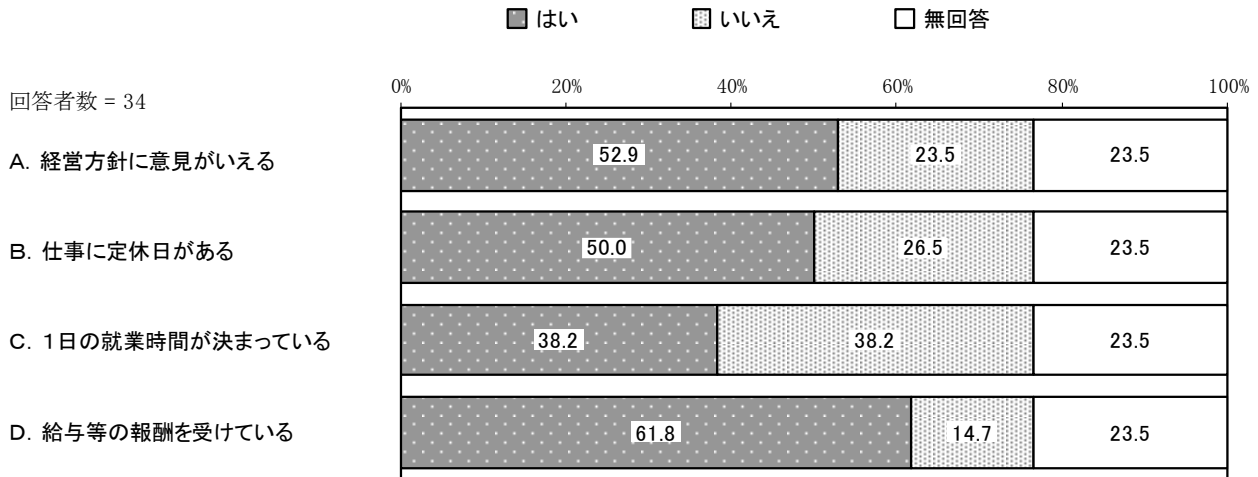
性別で見ると、大きな差異はみられません。



自営業で、家族従業者として働いている方にお聞きします。

問 13 あなたの職場では、次のA～Dのそれぞれの項目について、どのような状況になっていますか。(それぞれ1つに○)

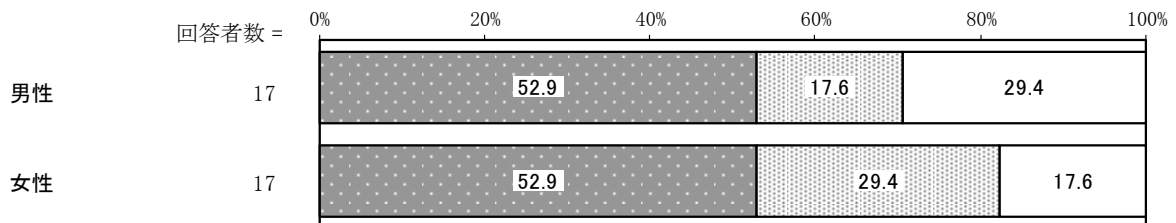
『D. 給与等の報酬を受けている』で「はい」の割合が高く、約6割となっています。一方、『C. 1日の就業時間が決まっている』で「いいえ」の割合が高く、約4割となっています。



A. 経営方針に意見がいえる

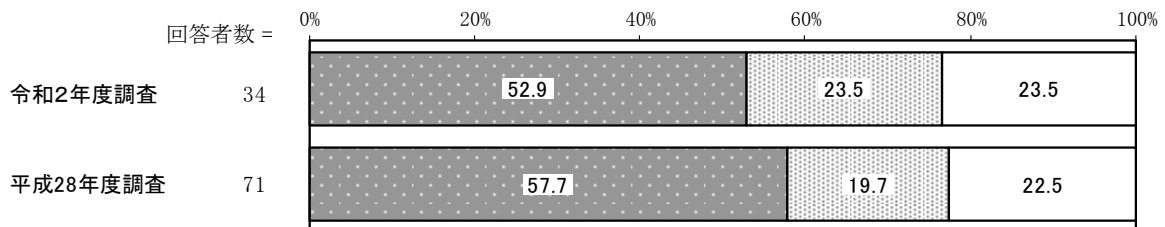
【性別】

性別でみると、女性で「いいえ」の割合が高くなっています。



【平成28年度調査との比較】

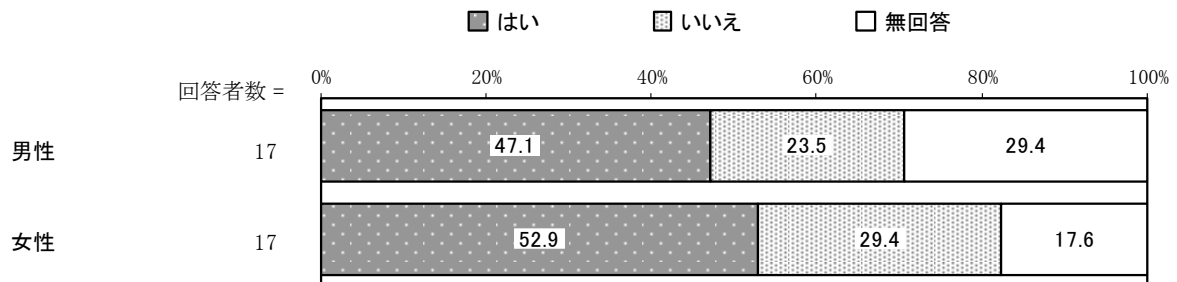
平成28年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



B. 仕事に定休日がある

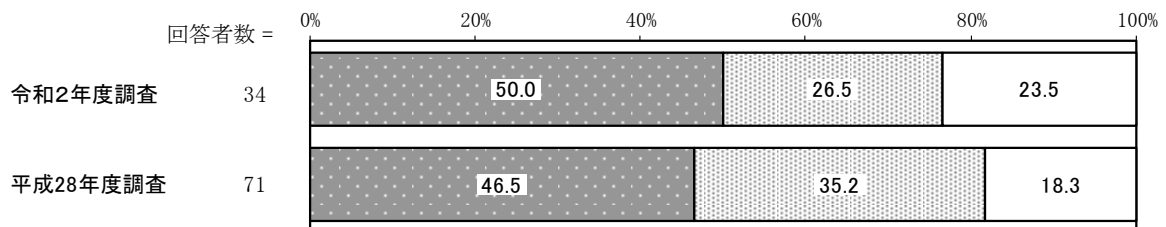
【性別】

性別で見ると、女性で「はい」「いいえ」の割合がともに高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

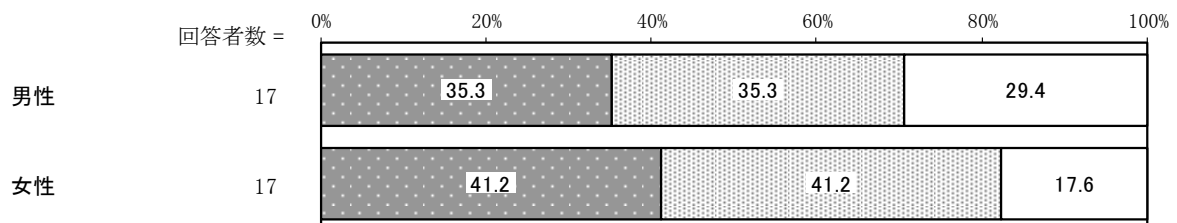
平成 28 年度調査と比較すると、「いいえ」の割合が減少しています。



C. 1日の就業時間が決まっている

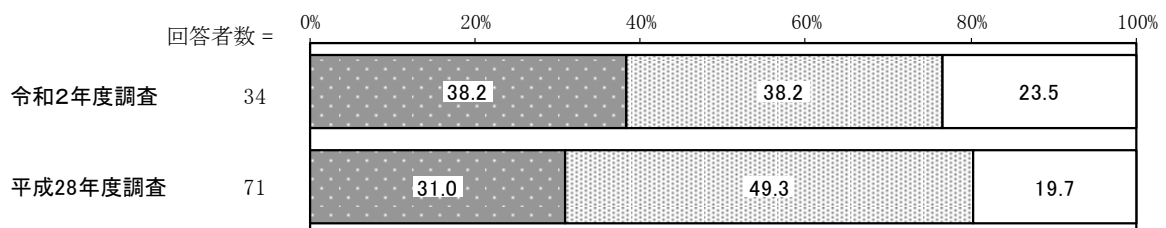
【性別】

性別で見ると、女性で「はい」「いいえ」の割合がともに高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

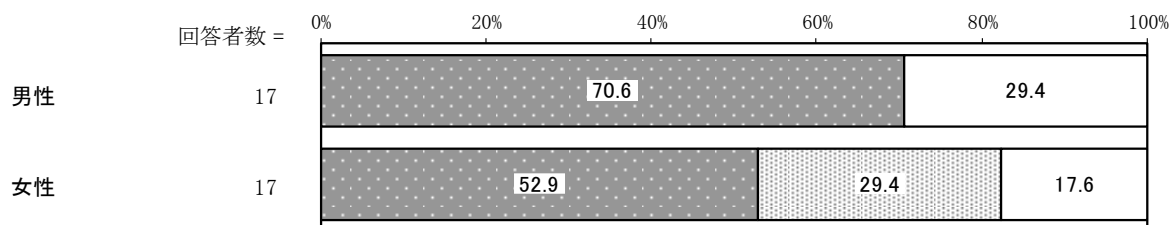
平成 28 年度調査と比較すると、「はい」の割合が増加しています。



D. 給与等の報酬を受けている

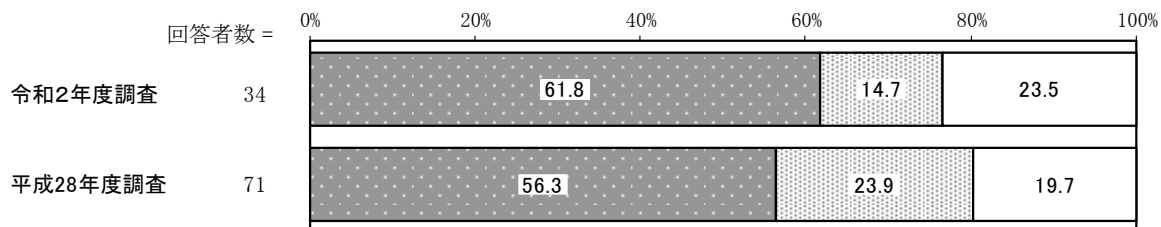
【性別】

性別でみると、男性で「はい」の割合が高くなっています。また、女性で「いいえ」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「はい」の割合が増加しています。



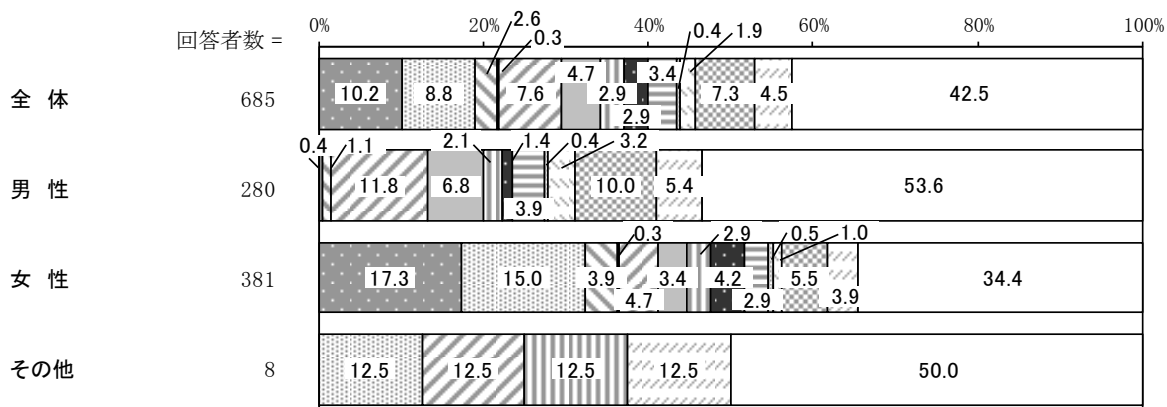
仕事をやめたことがある方にお聞きします。

問 14 あなたが、仕事をやめた理由は何ですか。(主なもの1つに○)

「結婚のため」の割合が 10.2%と最も高くなっています。

性別でみると、男性で「労働条件に不満があったから」の割合が高くなっています。また、女性で「結婚のため」「出産・育児のため」の割合が高くなっています。

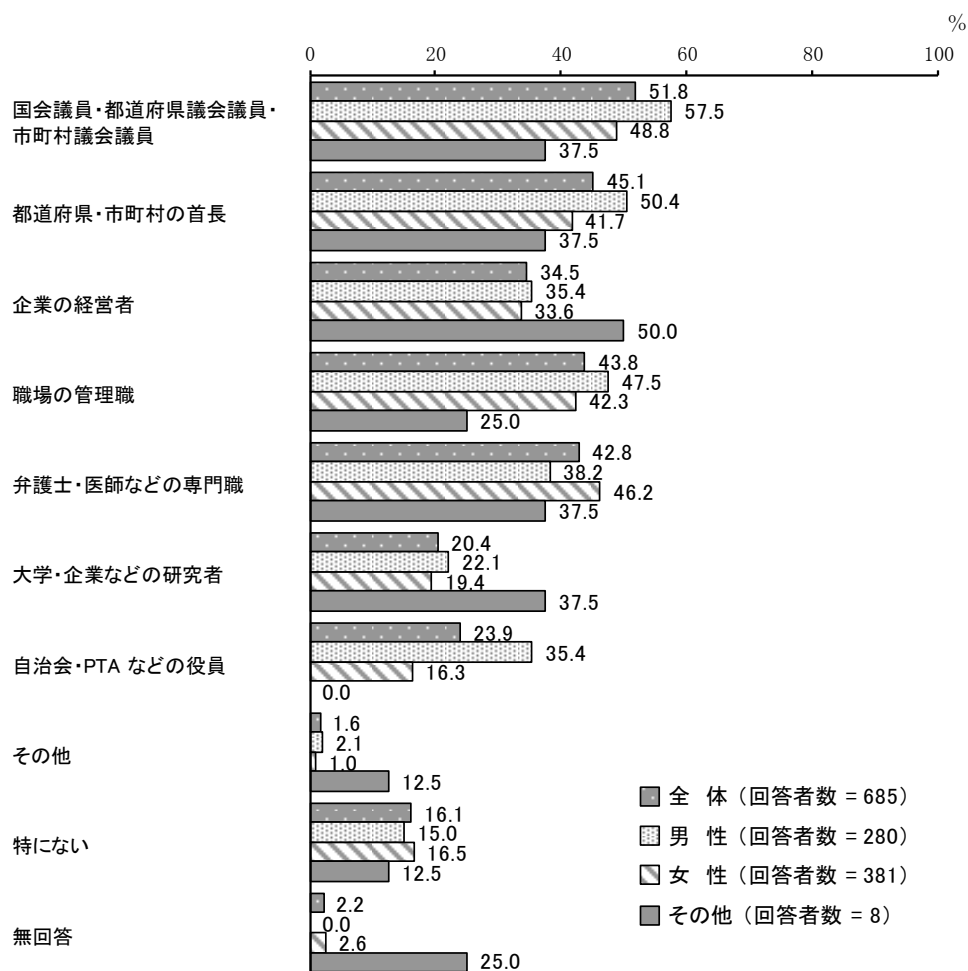
- 結婚のため
- 親や病気の家族の介護をするため
- 労働条件に不満があったから
- 病気や怪我のため
- 会社の都合で
- 家業に就くため
- その他
- 出産・育児のため
- 家族の理解・協力が得にくいから
- 仕事の内容が合わなかったから
- ハラスメント(嫌がらせ)を受けたため
- 大学などに行ったり資格を取るため
- 年になったから
- 無回答



問 15 あなたが、女性の割合が増える方がよいと思う職業や役職は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」の割合が51.8%と最も高く、次いで「都道府県・市町村の首長」の割合が45.1%、「職場の管理職」の割合が43.8%となっています。

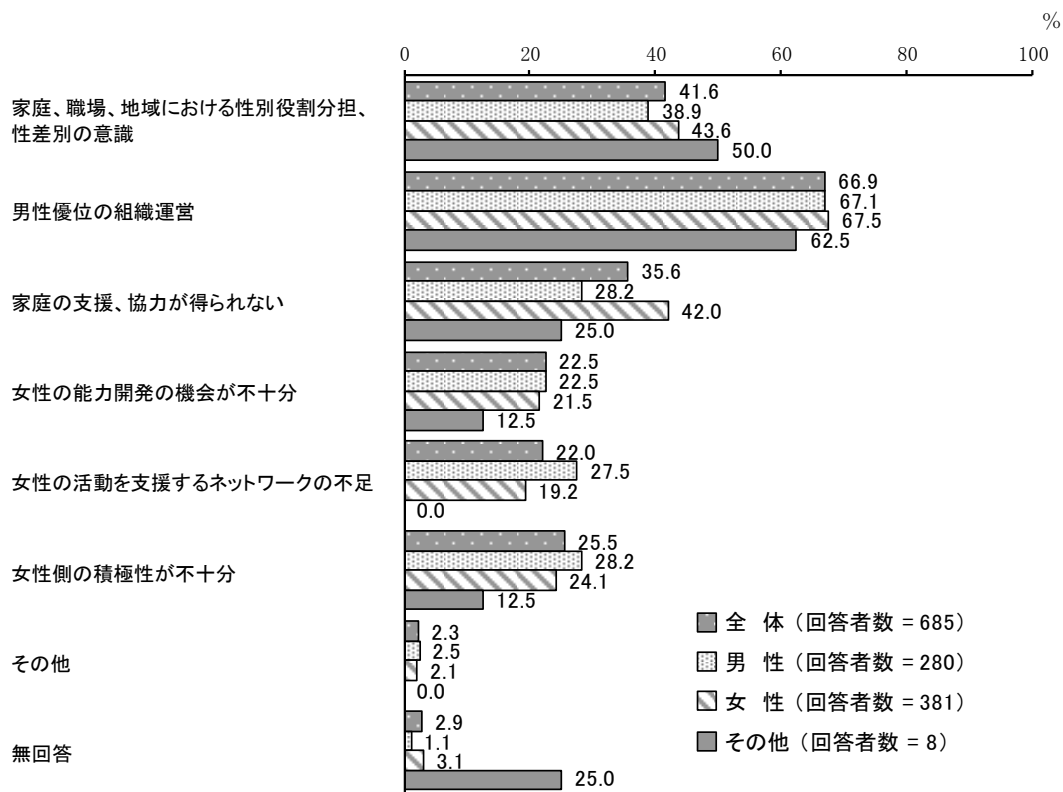
性別でみると、男性で「国会議員・都道府県議会議員・市町村議会議員」「都道府県・市町村の首長」「職場の管理職」「自治会・PTAなどの役員」の割合が高くなっています。また、女性で「弁護士・医師などの専門職」の割合が高くなっています。



問 16 あなたは、政治や行政において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が進んでいない理由は何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

「男性優位の組織運営」の割合が 66.9%と最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識」の割合が 41.6%、「家庭の支援、協力が得られない」の割合が 35.6%となっています。

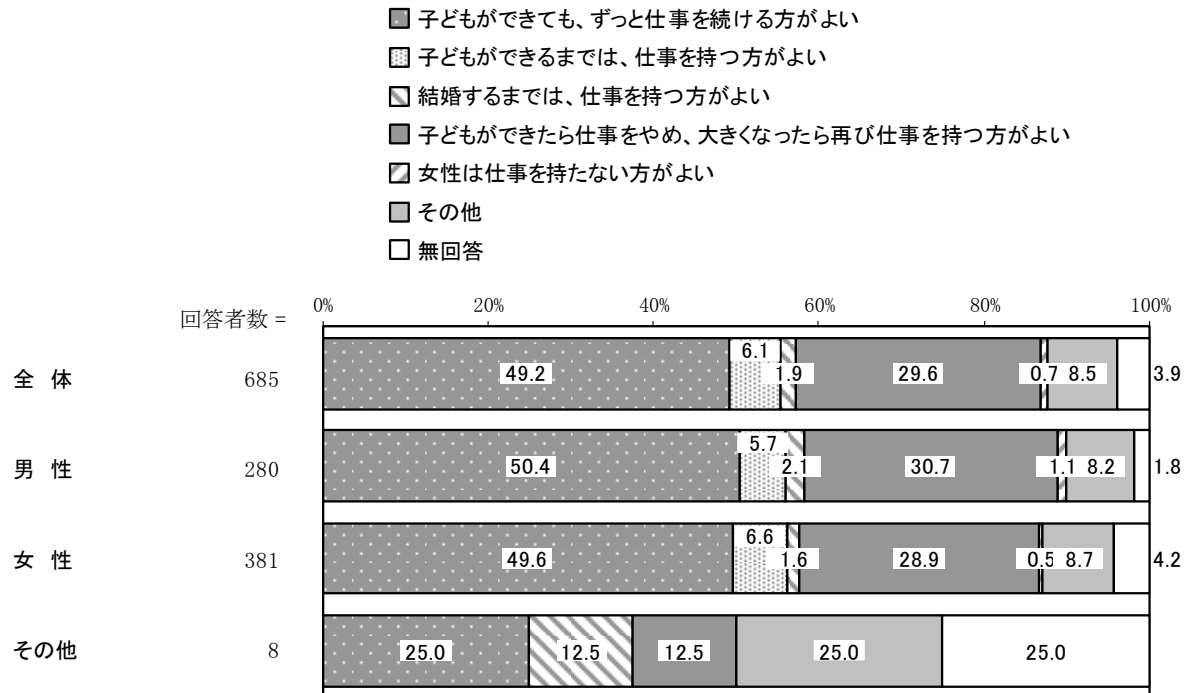
性別でみると、男性で「女性の活動を支援するネットワークの不足」の割合が高くなっています。また、女性で「家庭の支援、協力が得られない」の割合が高くなっています。



問 17 あなたは、女性が仕事を持つことについてどう思いますか。(1つに〇)

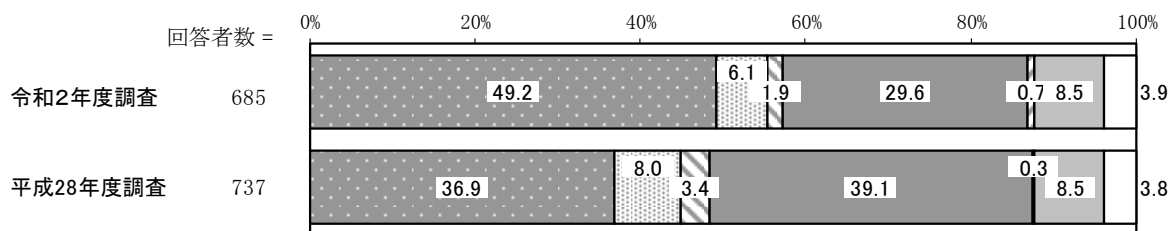
「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が49.2%と最も高く、次いで「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」の割合が29.6%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。



【平成 28 年度調査との比較】

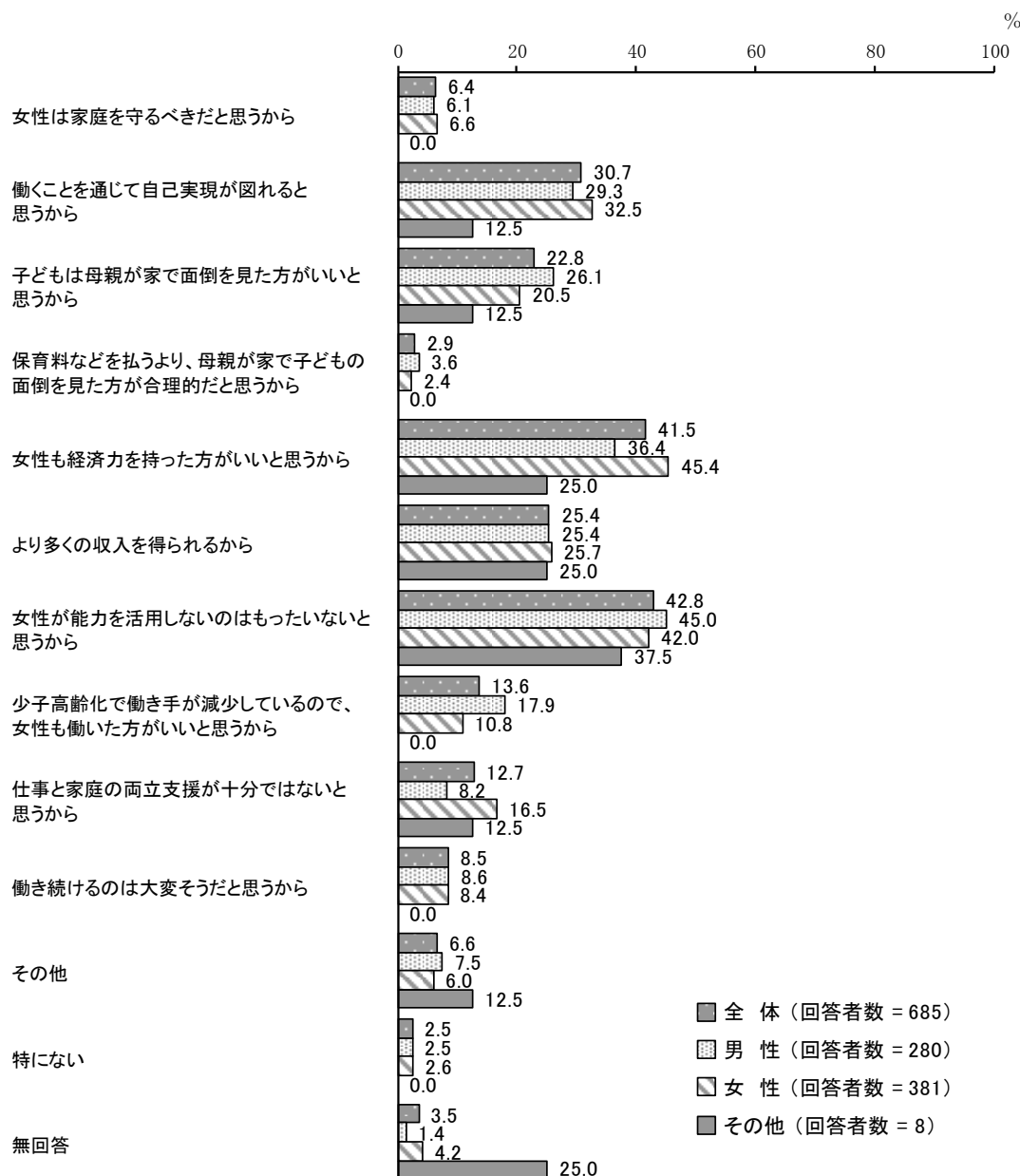
平成 28 年度調査と比較すると、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の割合が増加し、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」の割合が減少しています。



問 18 問 17 でお答えになった回答について、なぜそのように思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)

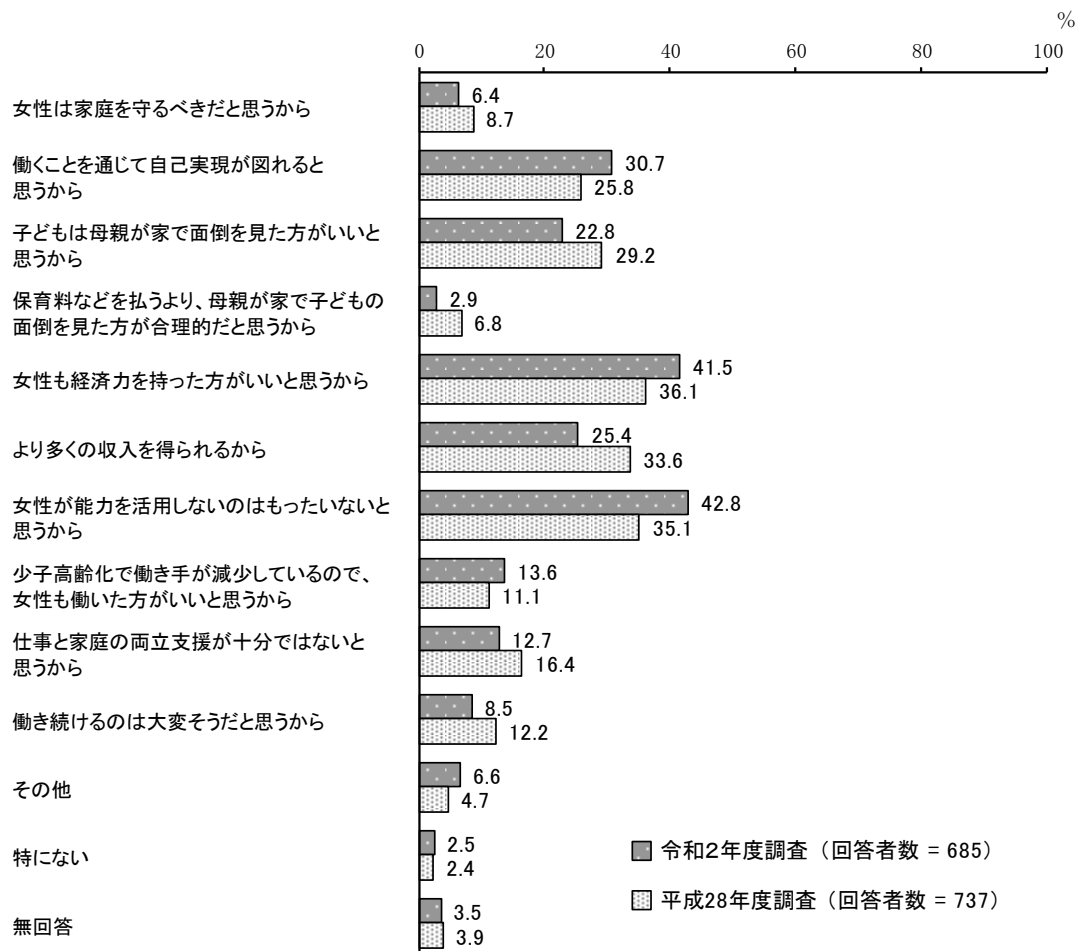
「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」の割合が 42.8%と最も高く、次いで「女性も経済力を持った方がいいと思うから」の割合が 41.5%、「働くことを通じて自己実現が図れると思うから」の割合が 30.7%となっています。

性別でみると、男性で「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」「少子高齢化で働き手が減少しているので、女性も働いた方がいいと思うから」の割合が高くなっています。また、女性で「女性も経済力を持った方がいいと思うから」「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

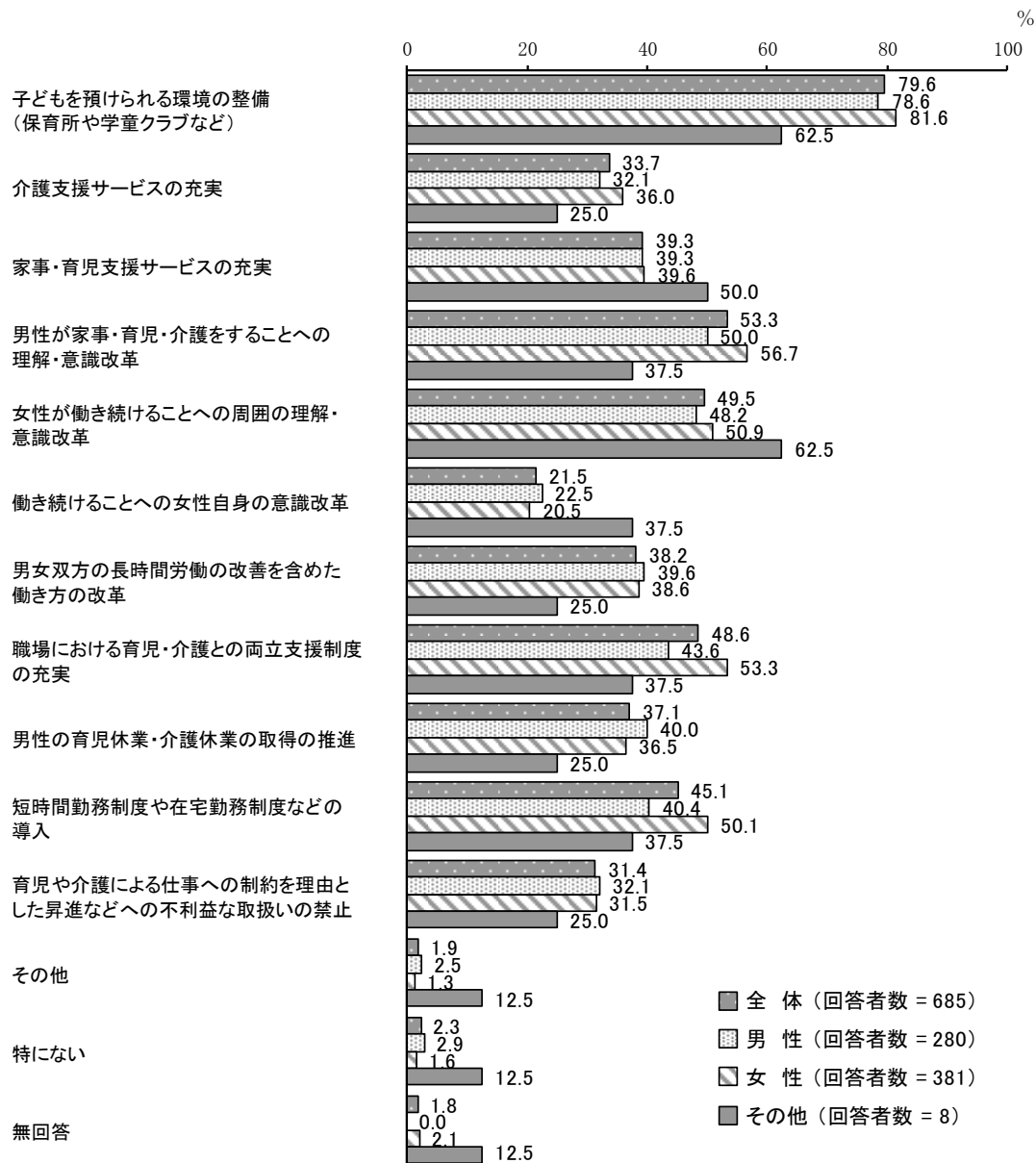
平成 28 年度調査と比較すると、「女性も経済力を持った方がいいと思うから」「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」の割合が増加し、「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」「より多くの収入を得られるから」の割合が減少しています。



問 19 あなたは、女性が出産後なども離職せずに働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

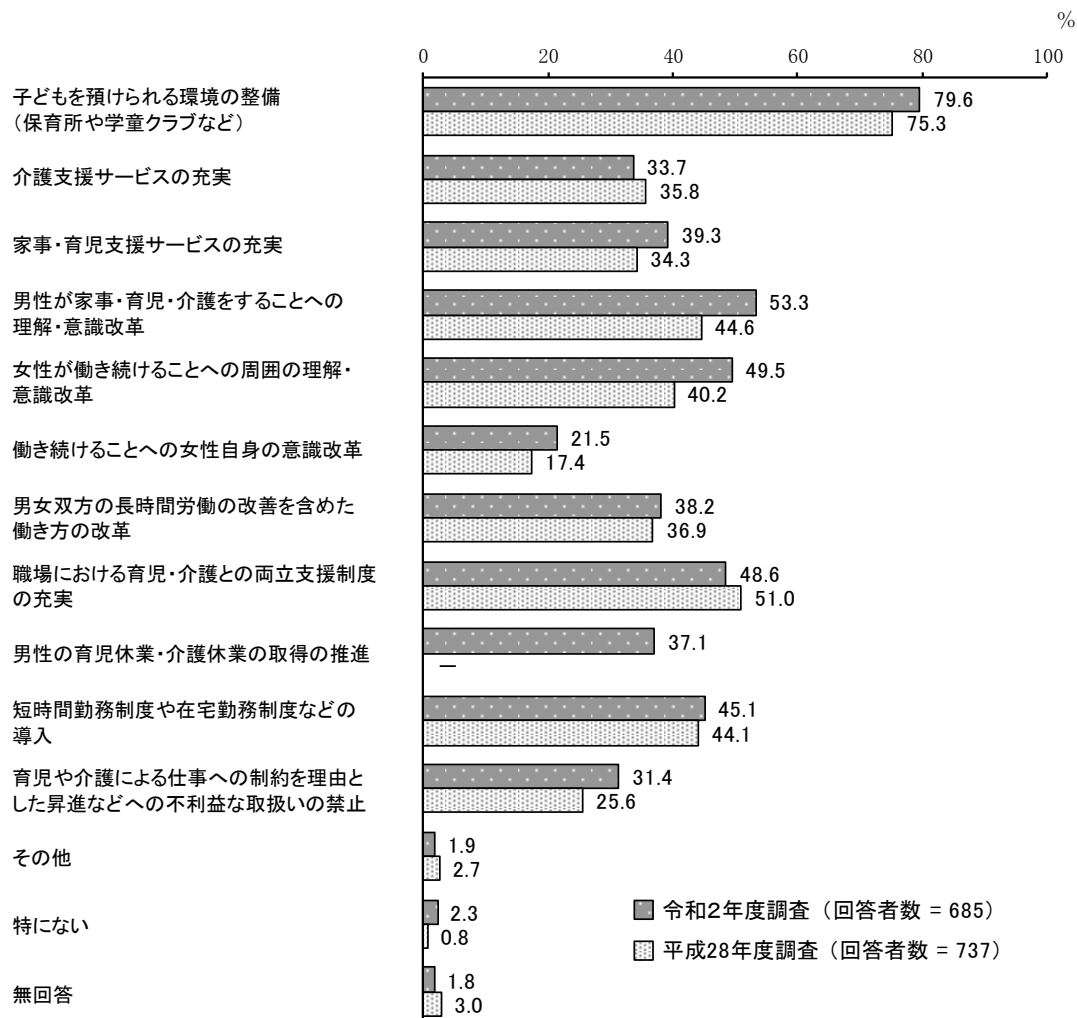
「子どもを預けられる環境の整備（保育所や学童クラブなど）」の割合が 79.6%と最も高く、次いで「男性が家事・育児・介護をすることへの理解・意識改革」の割合が 53.3%、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」の割合が 49.5%となっています。

性別でみると、女性で「男性が家事・育児・介護をすることへの理解・意識改革」「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「家事・育児支援サービスの充実」「男性が家事・育児・介護をすることへの理解・意識改革」「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止」の割合が増加しています。

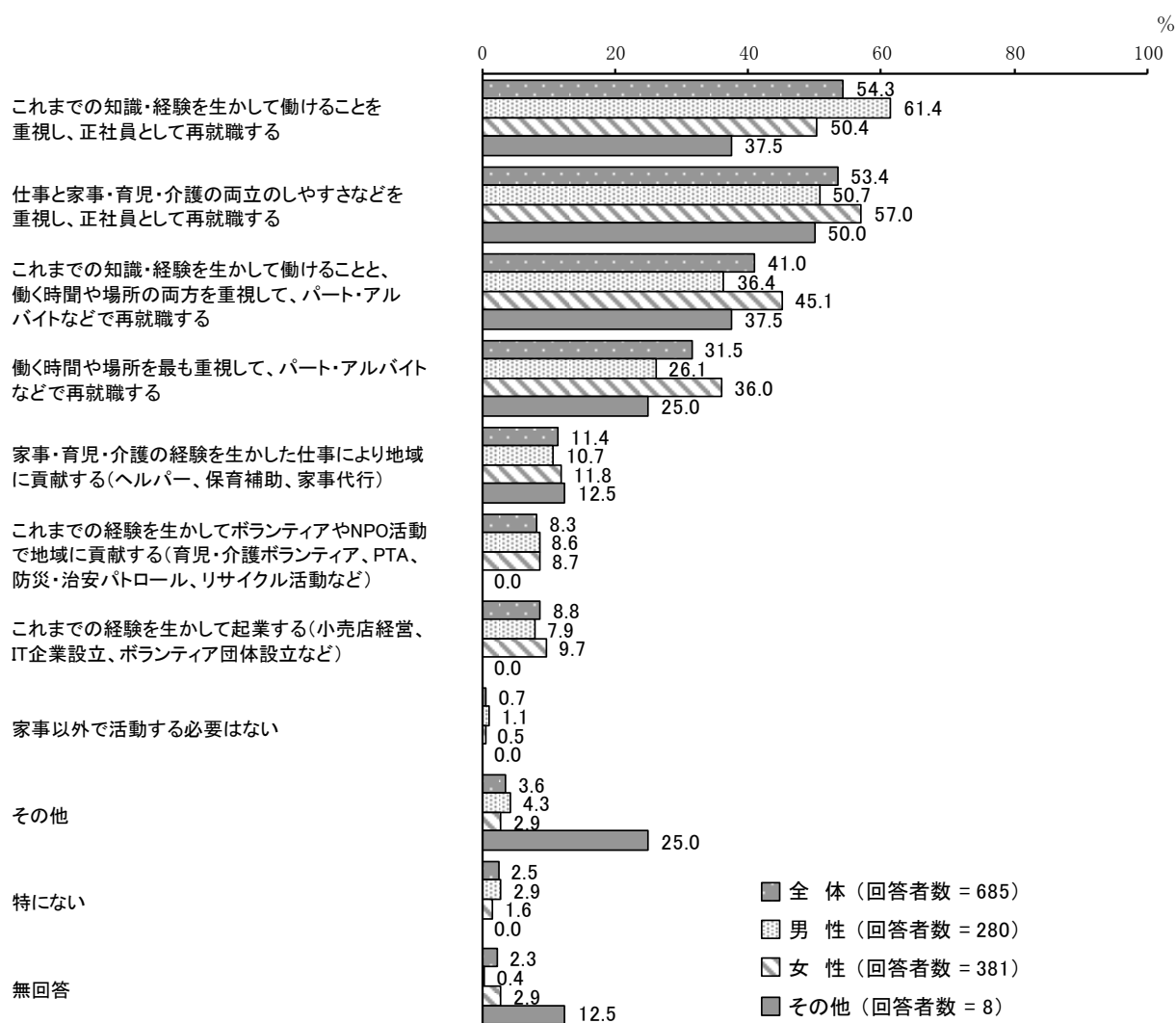


※「男性の育児休業・介護休業の取得の推進」の選択肢は、令和2年度調査で追加されました。

問 20 出産などでいったん離職した女性が、再び社会で活動する仕方として、あなたが
いいと思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「これまでの知識・経験を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」の割合が54.3%と最も高く、次いで「仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する」の割合が53.4%、「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」の割合が41.0%となっています。

性別でみると、男性で「これまでの知識・経験を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」の割合が高くなっています。また、女性で「仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する」「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」「働く時間や場所を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」の割合が高くなっています。

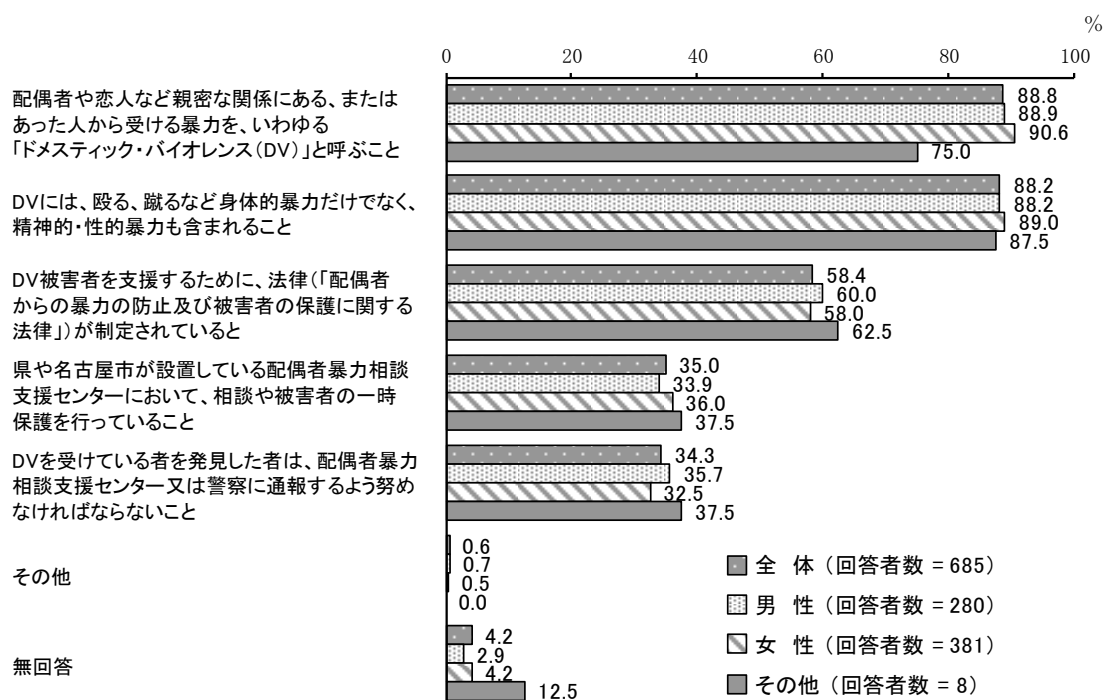


6 配偶者等からの暴力（DV）について

問 21 あなたは、DVに関する次のことについて知っていますか。
（あてはまるものすべてに○）

「配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあった人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス（DV）」と呼ぶこと」の割合が88.8%と最も高く、次いで「DVには、殴る、蹴るなど身体的暴力だけでなく、精神的・性的暴力も含まれること」の割合が88.2%、「DV被害者を支援するために、法律（「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」）が制定されていると」の割合が58.4%となっています。

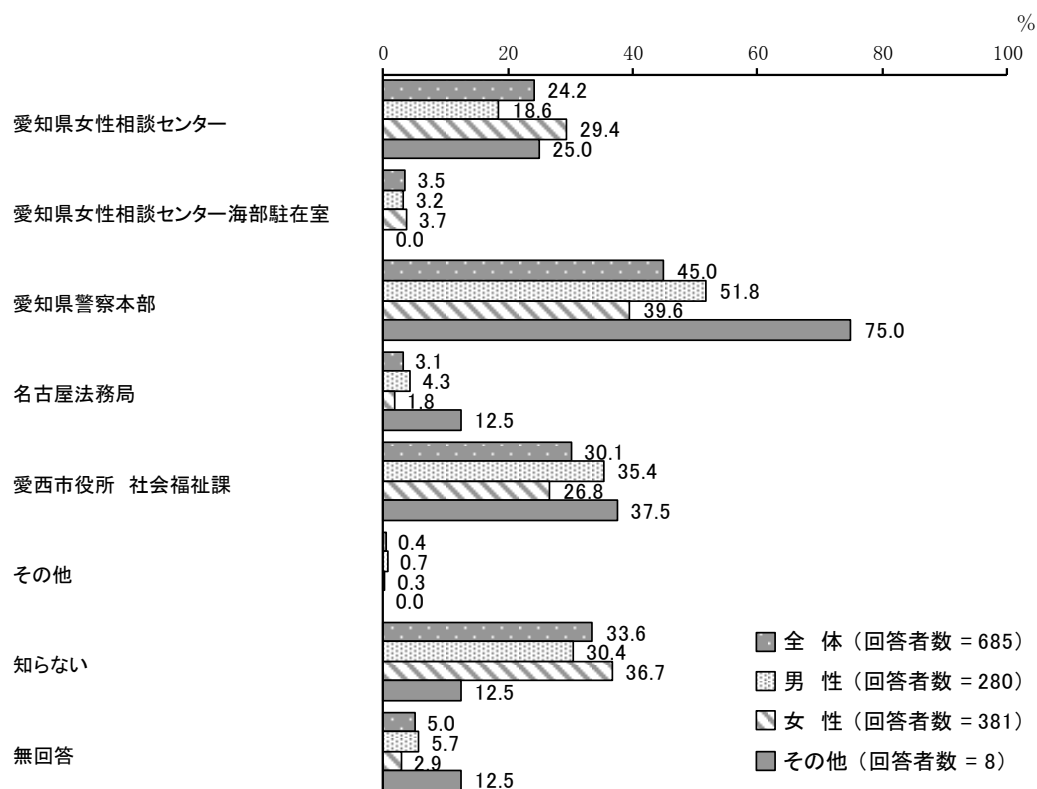
性別で見ると、大きな差異はみられません。



問 22 DV（ドメスティック・バイオレンス）の相談窓口について、あなたが知っているものは次のうちどれですか。（あてはまるものすべてに○）

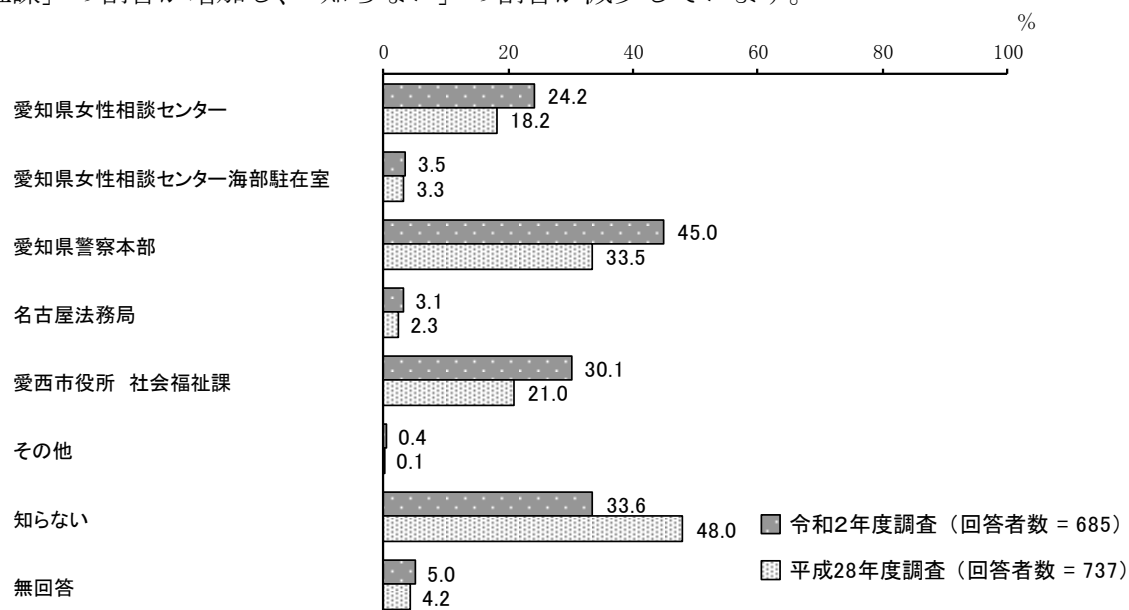
「愛知県警察本部」の割合が45.0%と最も高く、次いで「知らない」の割合が33.6%、「愛西市役所 社会福祉課」の割合が30.1%となっています。

性別でみると、男性で「愛知県警察本部」「愛西市役所 社会福祉課」の割合が高くなっています。また、女性で「愛知県女性相談センター」「知らない」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

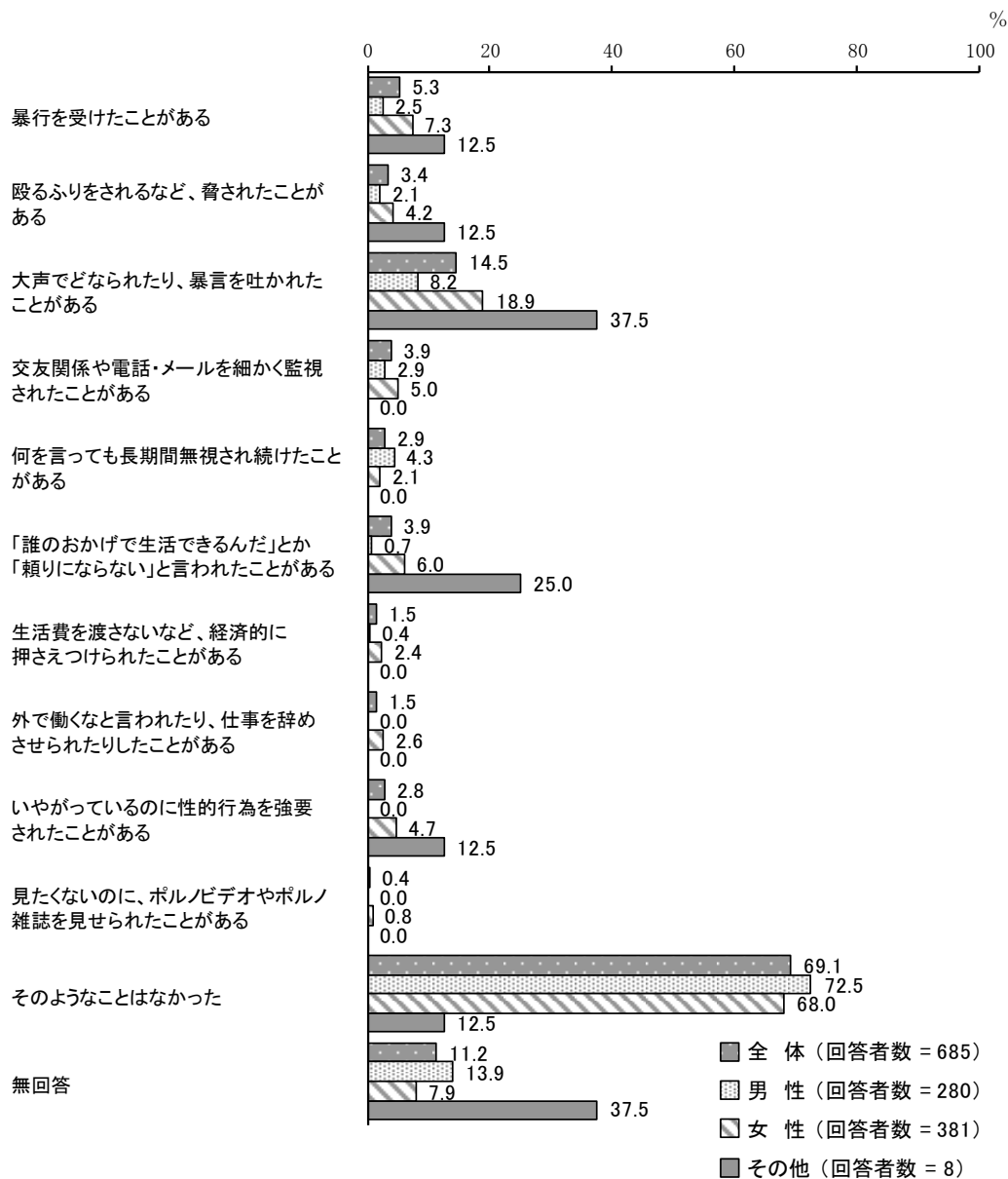
平成 28 年度調査と比較すると、「愛知県女性相談センター」「愛知県警察本部」「愛西市役所 社会福祉課」の割合が増加し、「知らない」の割合が減少しています。



問 23 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。(あてはまるものすべてに○)

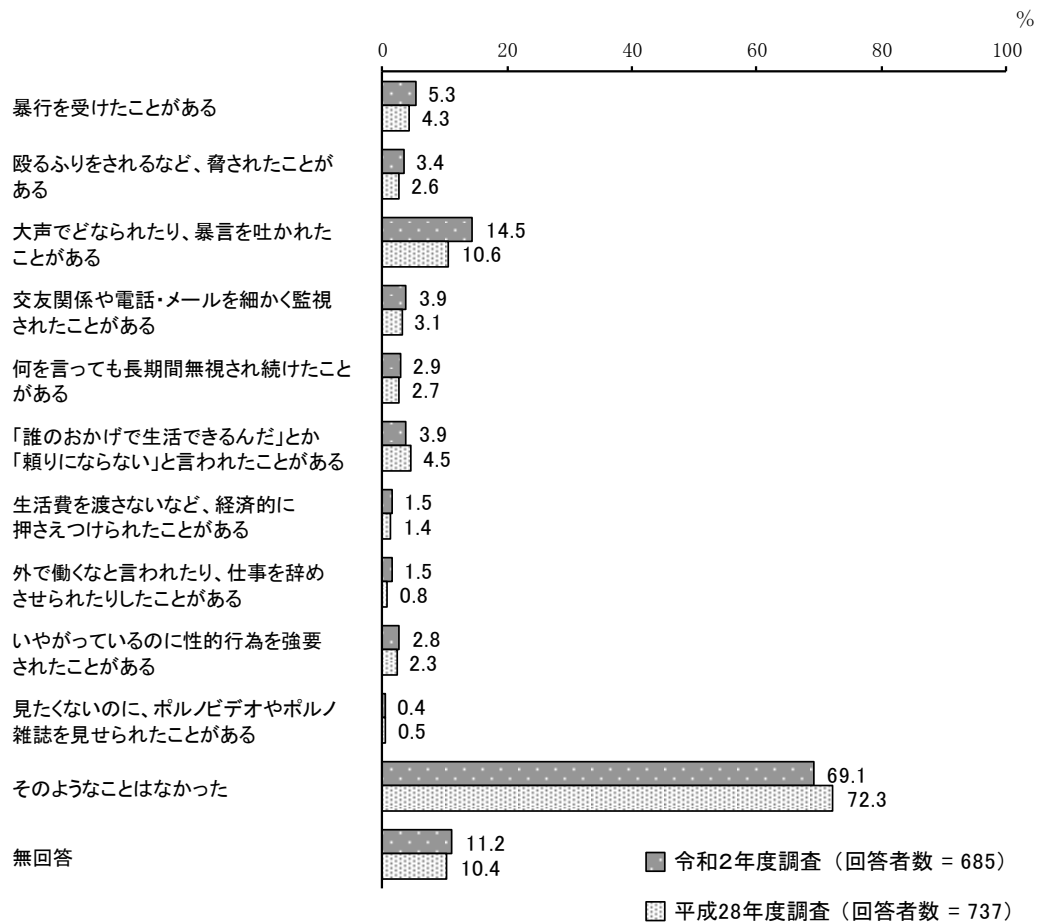
「そのようなことはなかった」の割合が69.1%と最も高く、次いで「大声でどなられたり、暴言を吐かれたことがある」の割合が14.5%となっています。

性別でみると、女性で「大声でどなられたり、暴言を吐かれたことがある」「『誰のおかげで生活できるんだ』とか『頼りにならない』と言われたことがある」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

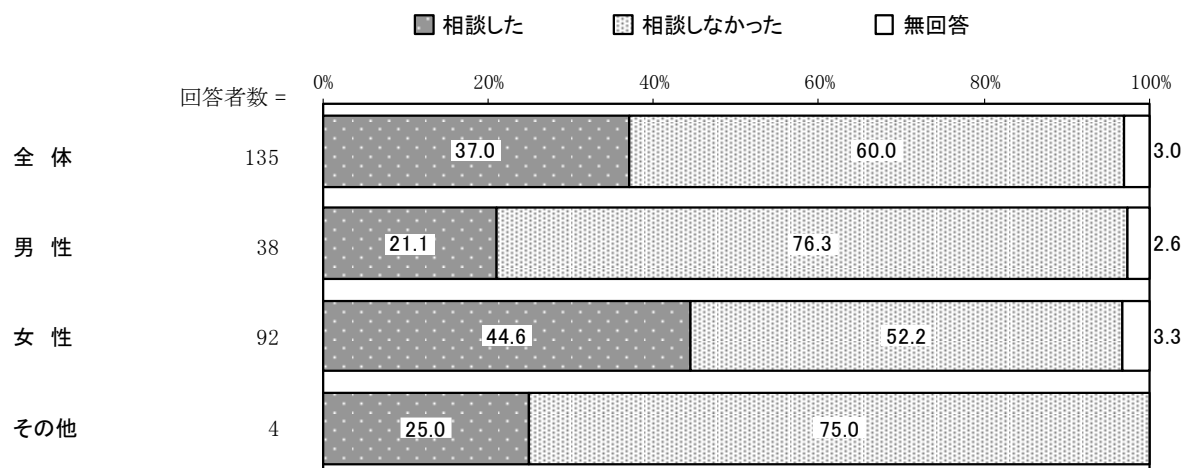


問 23-1 は、問 23 で「暴行を受けたことがある」～「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられたことがある」のいずれかに答えた方にお聞きします。

問 23-1 配偶者や恋人からの行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(どちらかに○)

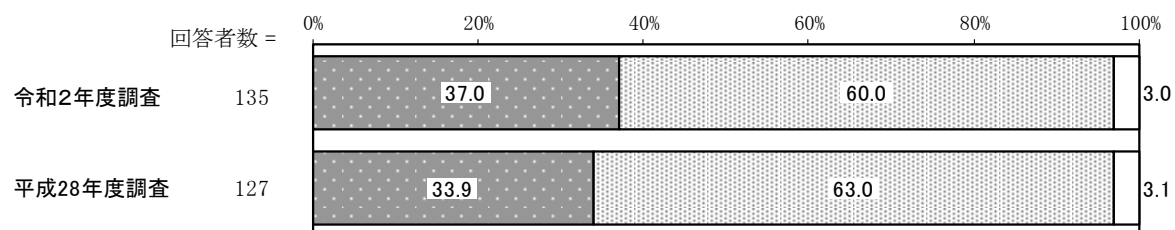
「相談した」の割合が 37.0%、「相談しなかった」の割合が 60.0%となっています。

性別でみると、男性で「相談しなかった」の割合が高くなっています。また、女性で「相談した」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

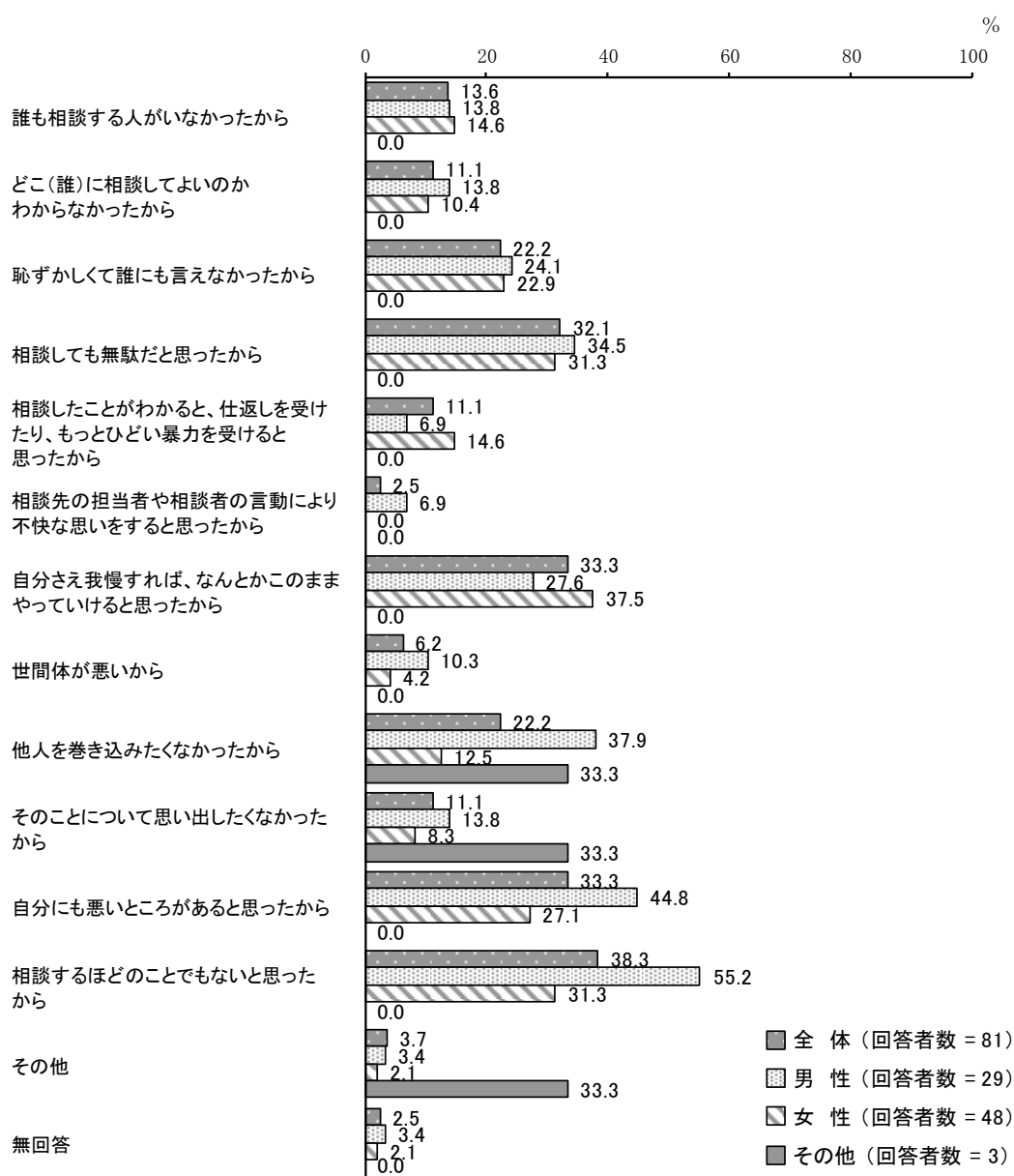


問 23-1 で「相談しなかった」と答えた方にお聞きします。

問 23-2 相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

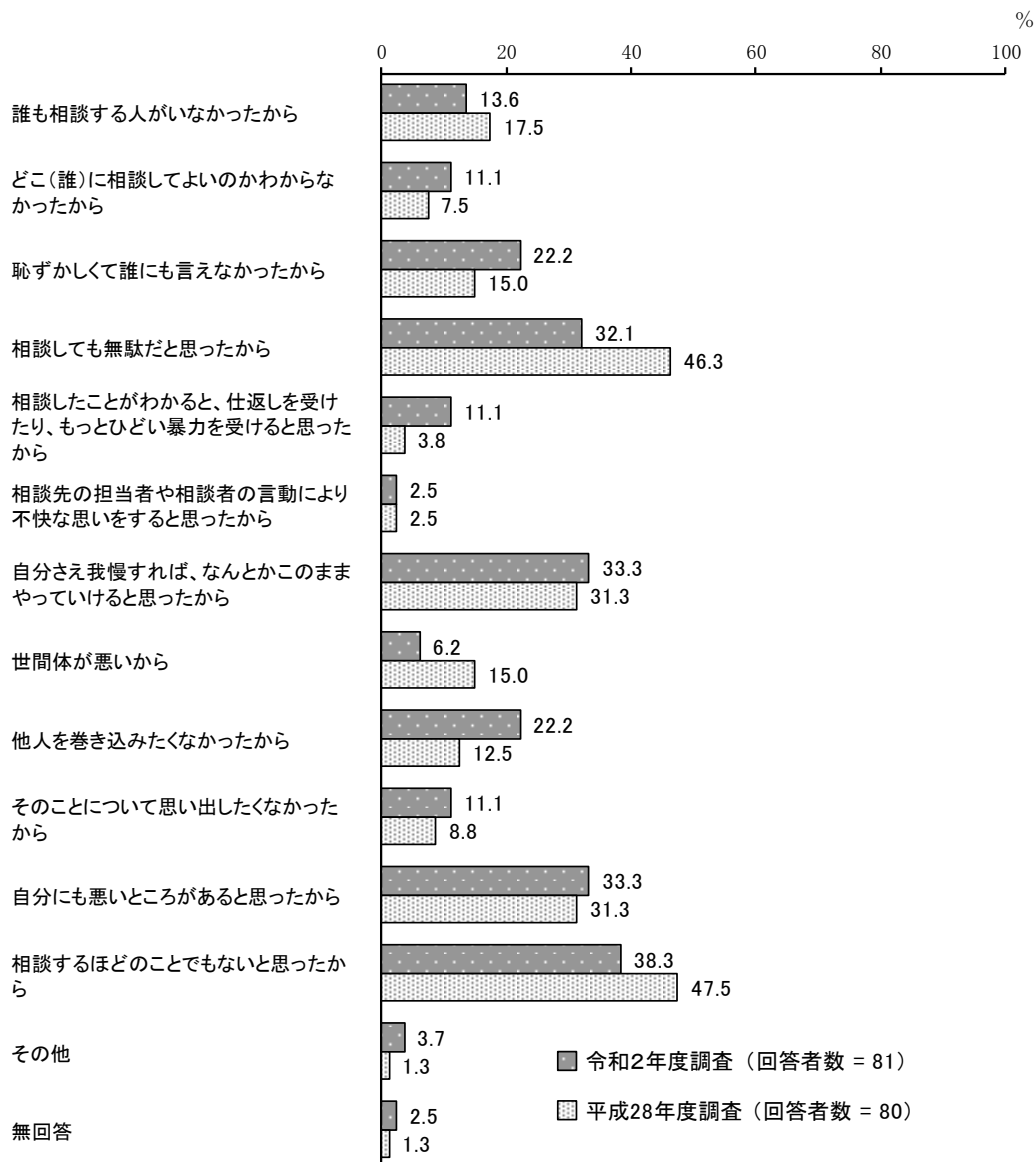
「相談するほどのことでもないと思ったから」の割合が 38.3% と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていると来たから」、「自分にも悪いところがあると思ったから」の割合が 33.3% となっています。

性別でみると、男性で「相談先の担当者や相談者の言動により不快な思いをすと思ったから」「世間体が悪いから」「他人を巻き込みたくなかったから」「そのことについて思い出したくなかったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「相談するほどのことでもないと思ったから」の割合が高くなっています。また、女性で「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると来たから」「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていると来たから」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

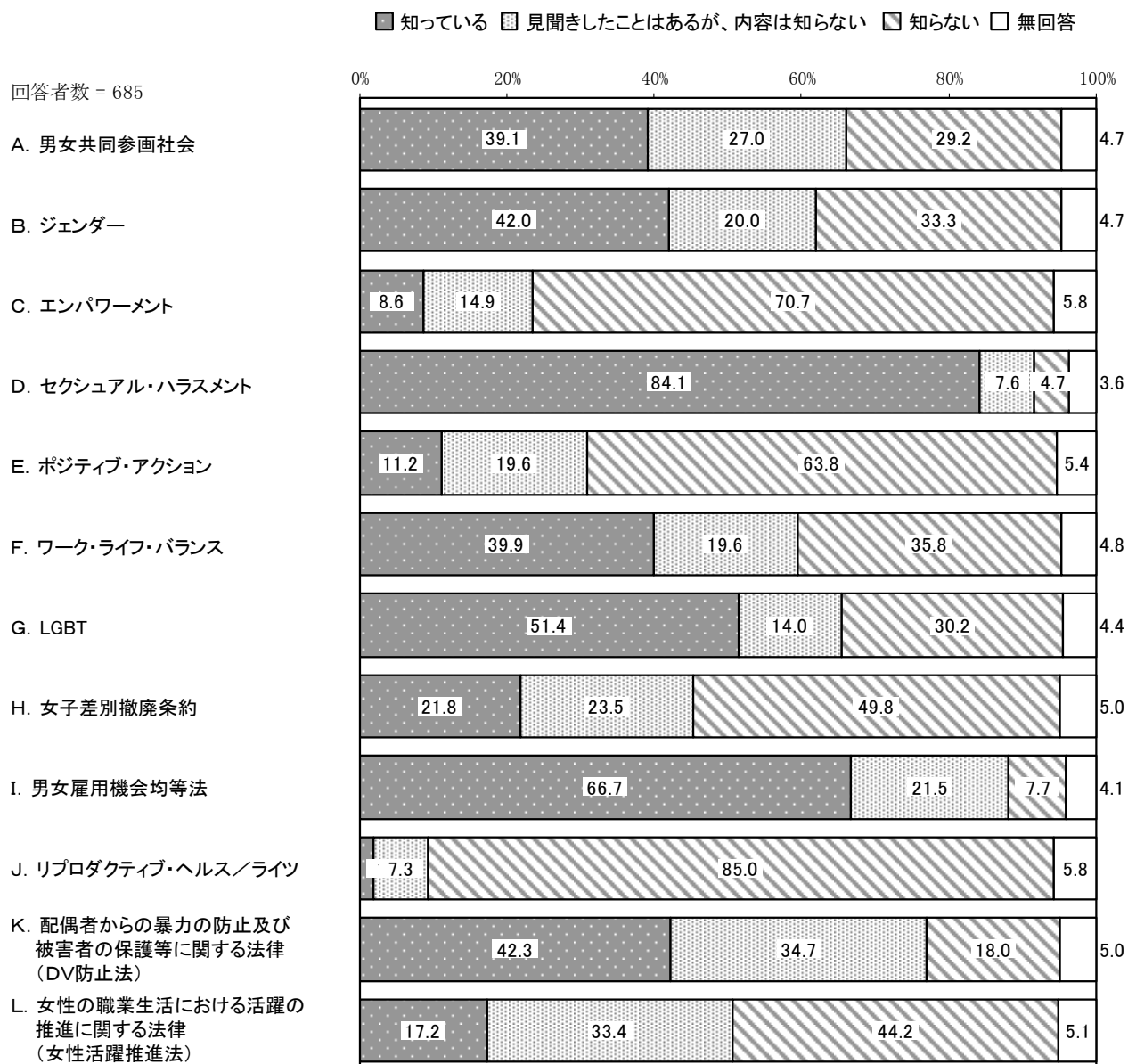
平成 28 年度調査と比較すると、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから」「他人を巻き込みたくなかったから」の割合が増加し、「相談しても無駄だと思ったから」「世間体が悪いから」「相談するほどのことでもないと思ったから」の割合が減少しています。



7 男女共同参画社会について

問 24 あなたは、次のA～Lのそれぞれの用語についてご存知ですか。
(それぞれ1つに○)

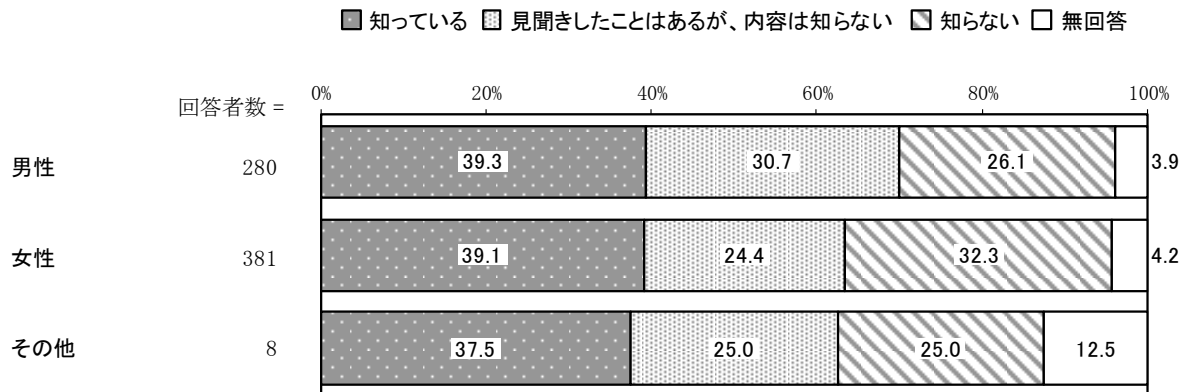
『D. セクシュアル・ハラスメント』で「知っている」の割合が高く、8割半ばとなっています。一方、『J. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ』で「知らない」の割合が高く、8割半ばとなっています。



A. 男女共同参画社会

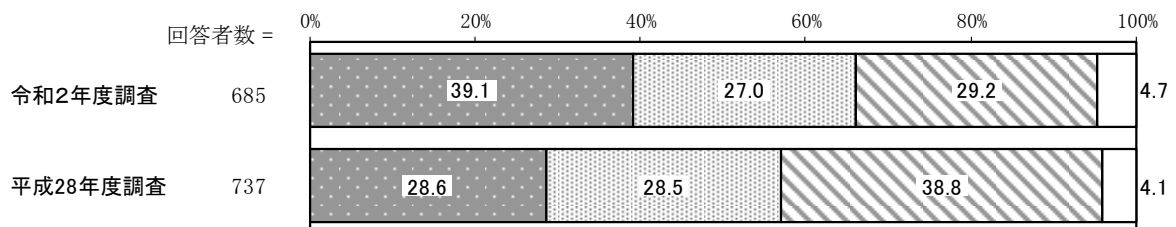
【性別】

性別でみると、男性で「見聞きしたことはあるが、内容は知らない」の割合が高くなっています。また、女性で「知らない」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

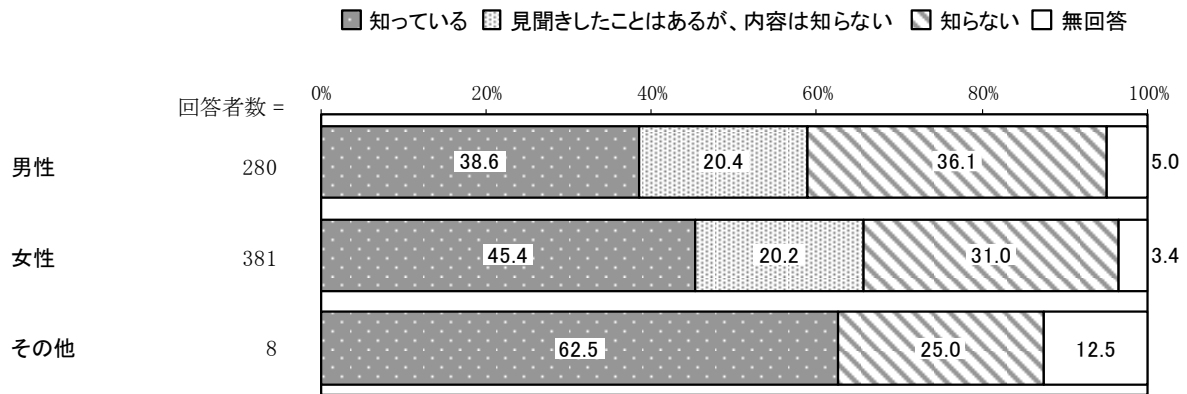
平成 28 年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加し、「知らない」の割合が減少しています。



B. ジェンダー

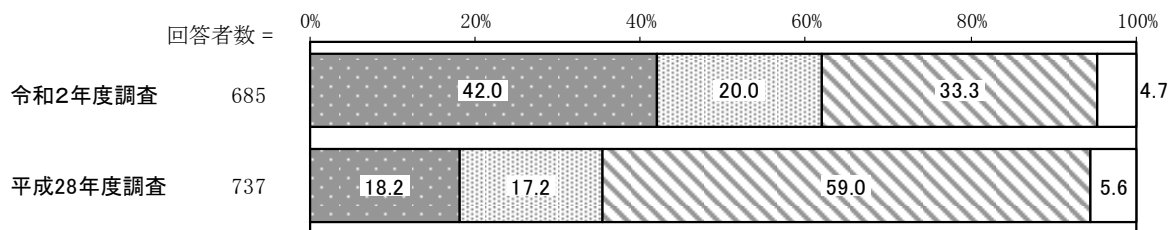
【性別】

性別で見ると、男性で「知らない」の割合が高くなっています。また、女性で「知っている」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

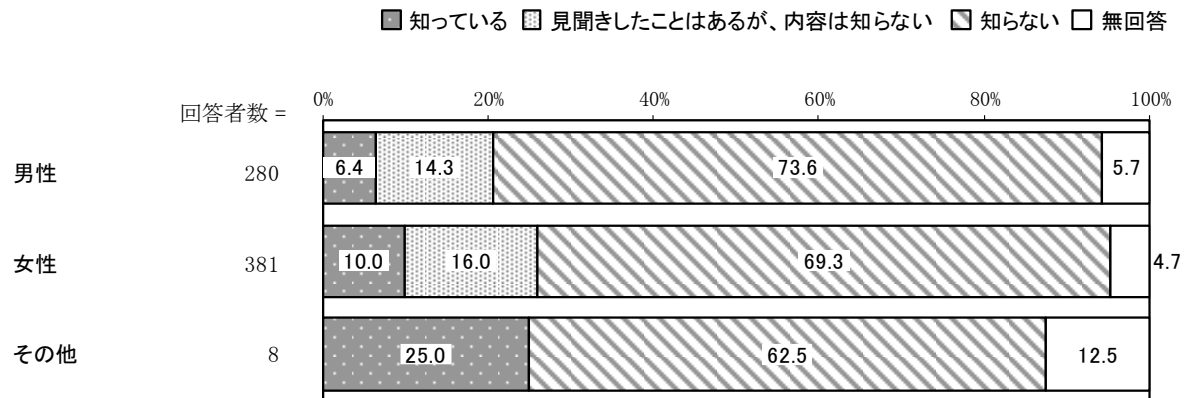
平成 28 年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加し、「知らない」の割合が減少しています。



C. エンパワーメント

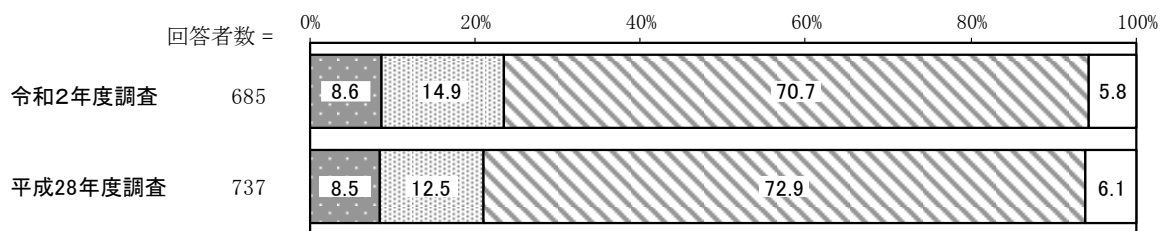
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【平成 28 年度調査との比較】

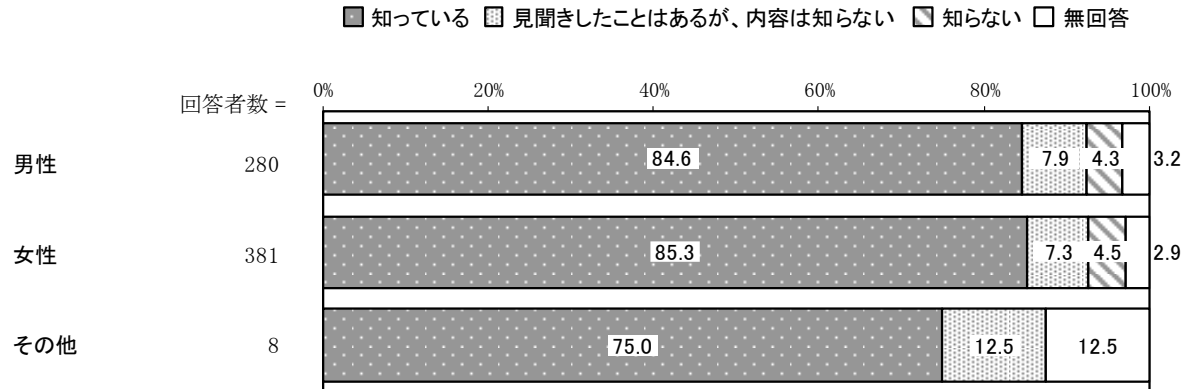
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



D. セクシュアル・ハラスメント

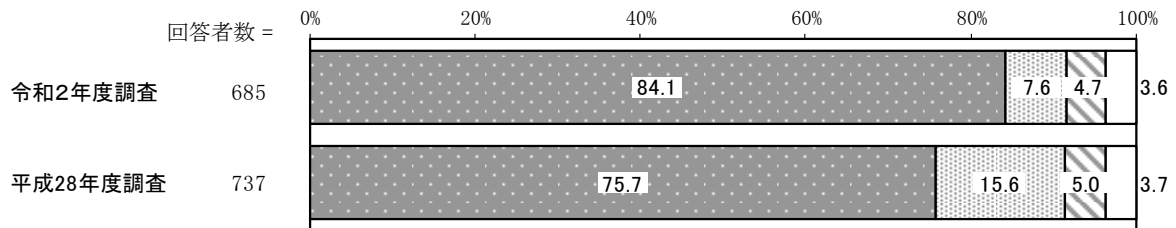
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【平成 28 年度調査との比較】

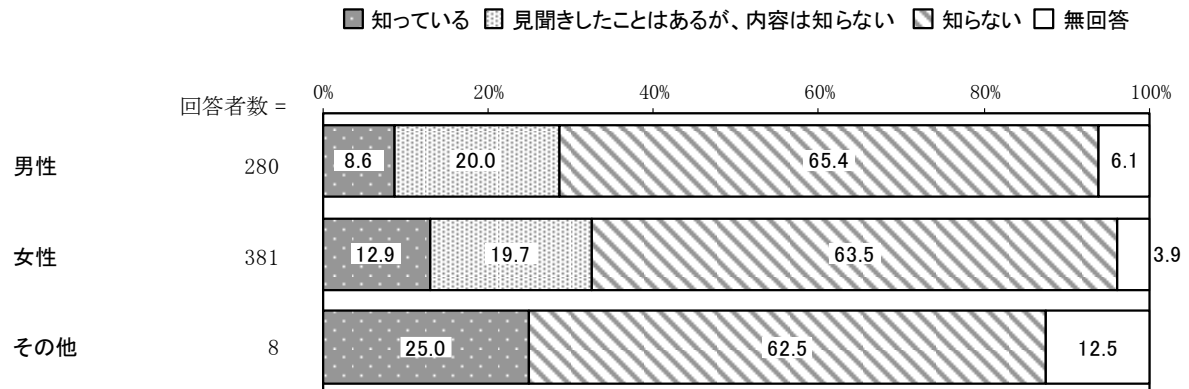
平成 28 年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加し、「見聞きしたことはあるが、内容は知らない」の割合が減少しています。



E. ポジティブ・アクション

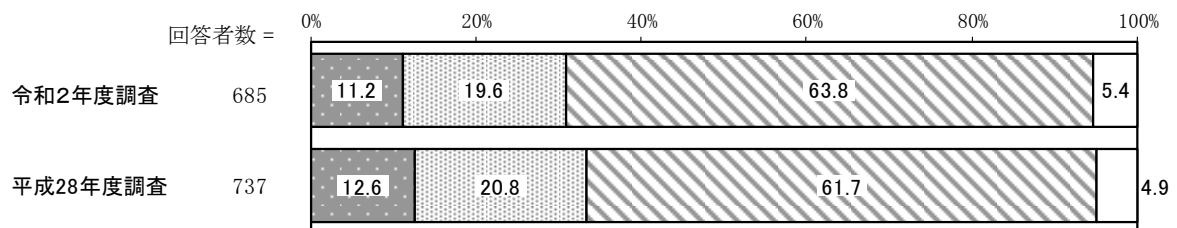
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【平成 28 年度調査との比較】

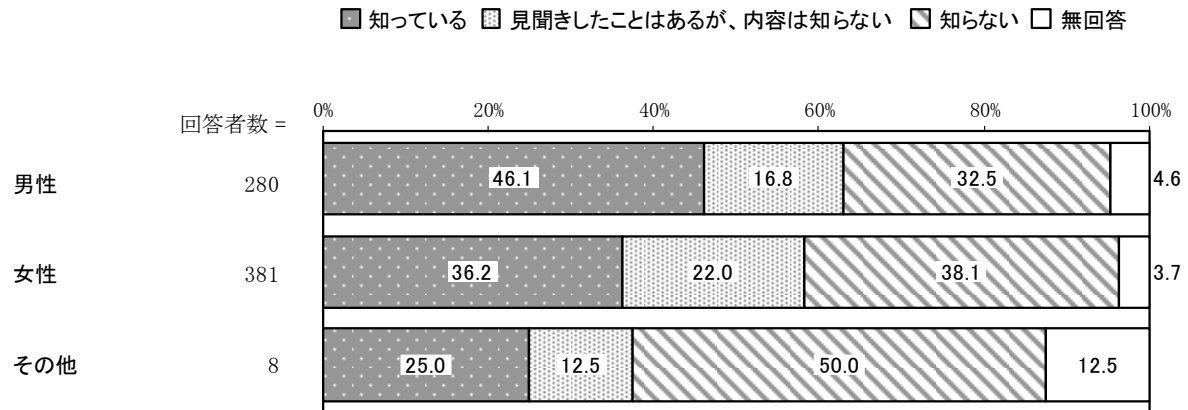
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



F. ワーク・ライフ・バランス

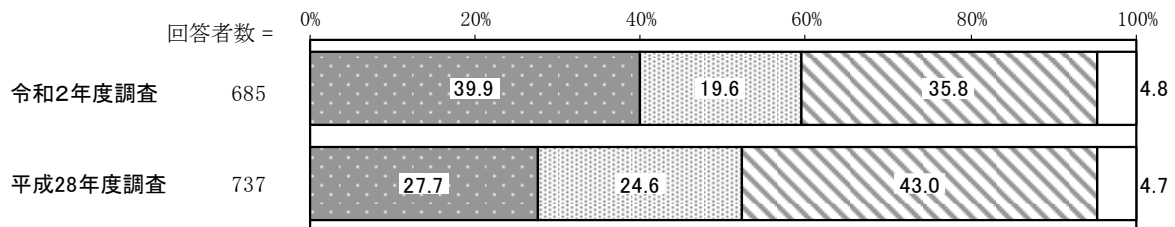
【性別】

性別で見ると、男性で「知っている」の割合が高くなっています。また、女性で「見聞きしたことはあるが、内容は知らない」「知らない」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

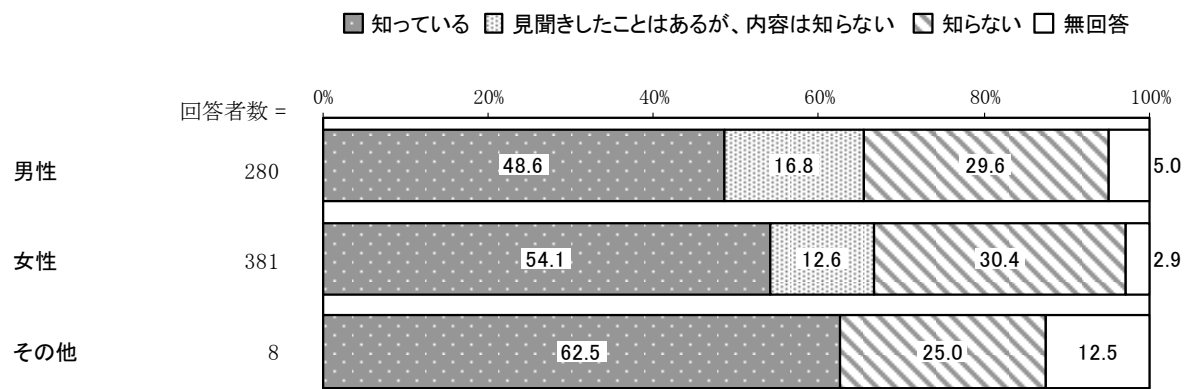
平成 28 年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加し、「見聞きしたことはあるが、内容は知らない」「知らない」の割合が減少しています。



G. LGBT

【性別】

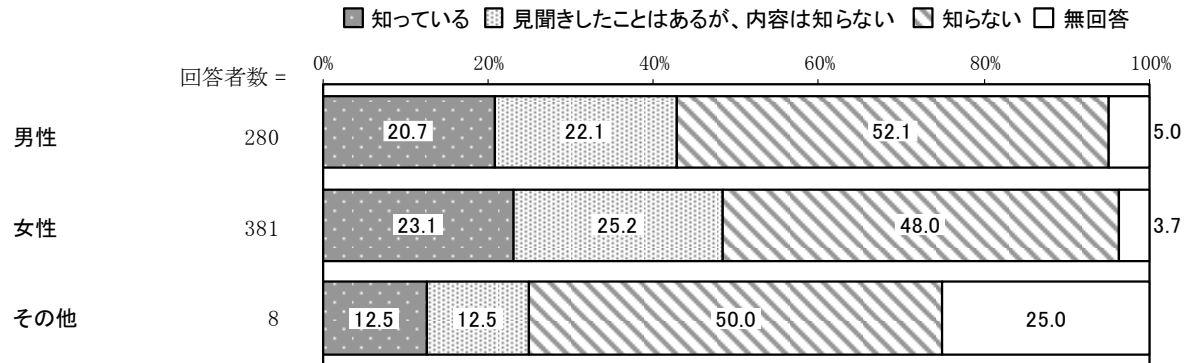
性別で見ると、女性で「知っている」の割合が高くなっています。



H. 女子差別撤廃条約

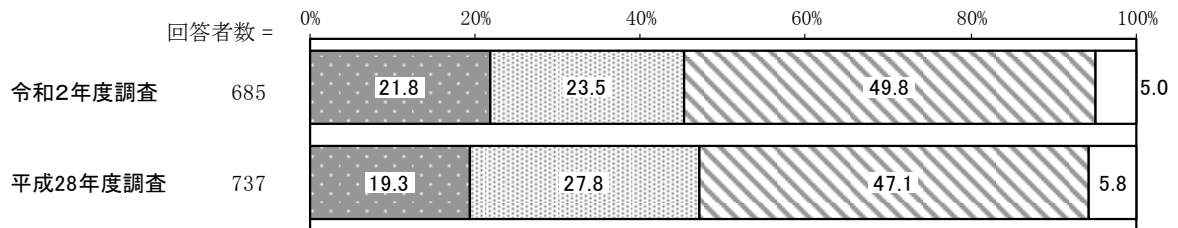
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【平成 28 年度調査との比較】

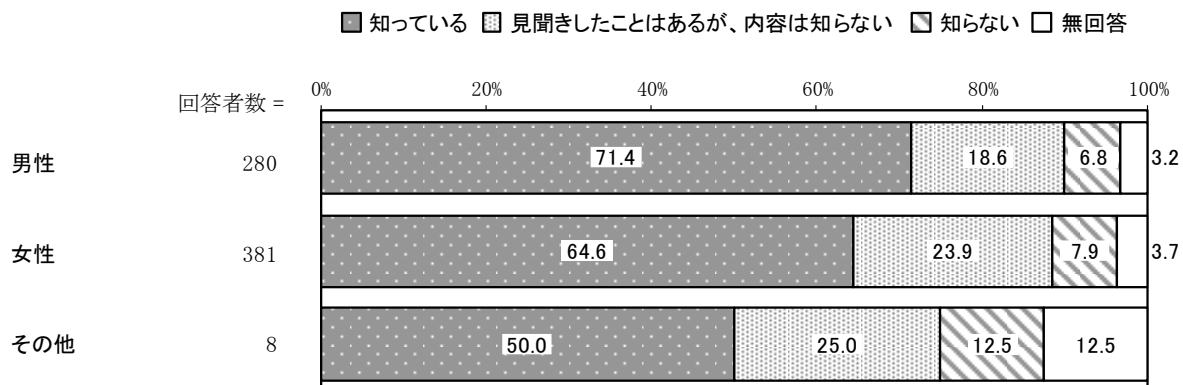
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



I. 男女雇用機会均等法

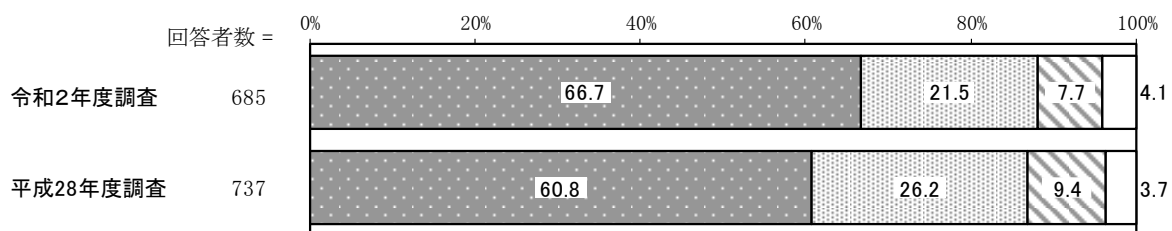
【性別】

性別で見ると、男性で「知っている」の割合が高くなっています。また、女性で「見聞きしたことはあるが、内容は知らない」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

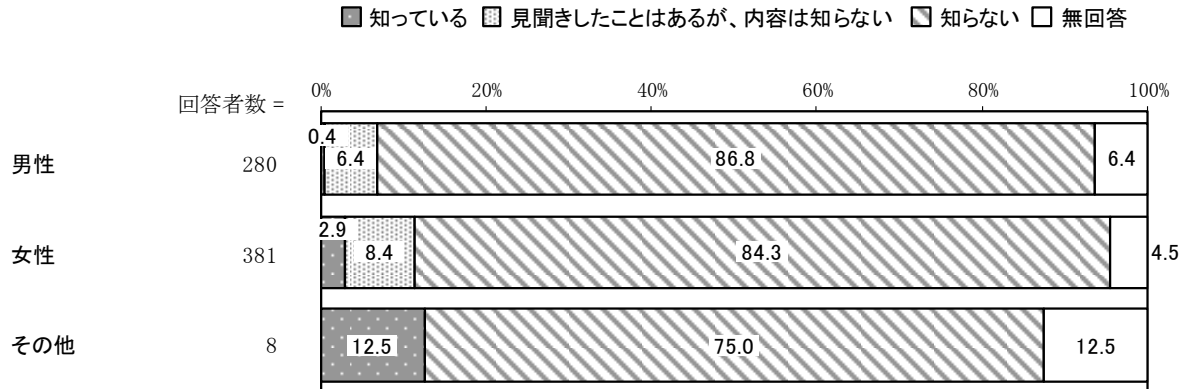
平成 28 年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加しています。



J. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ

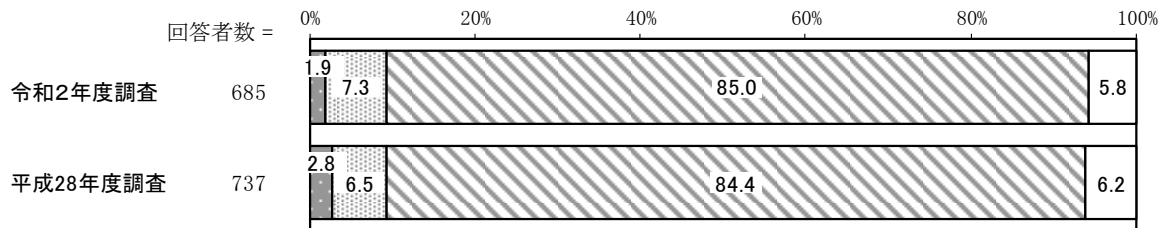
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【平成 28 年度調査との比較】

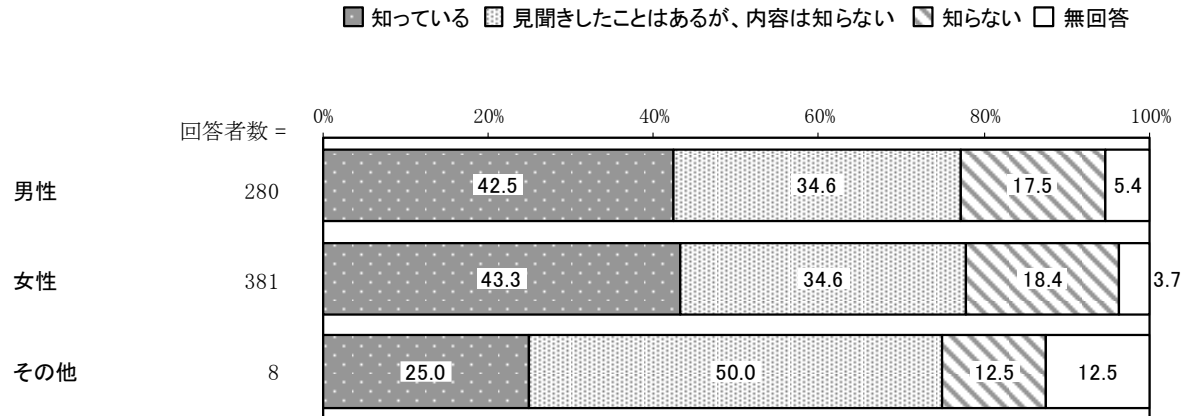
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



K. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）

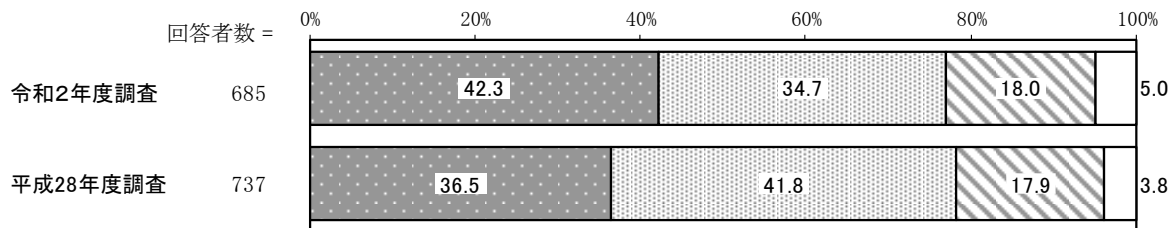
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【平成 28 年度調査との比較】

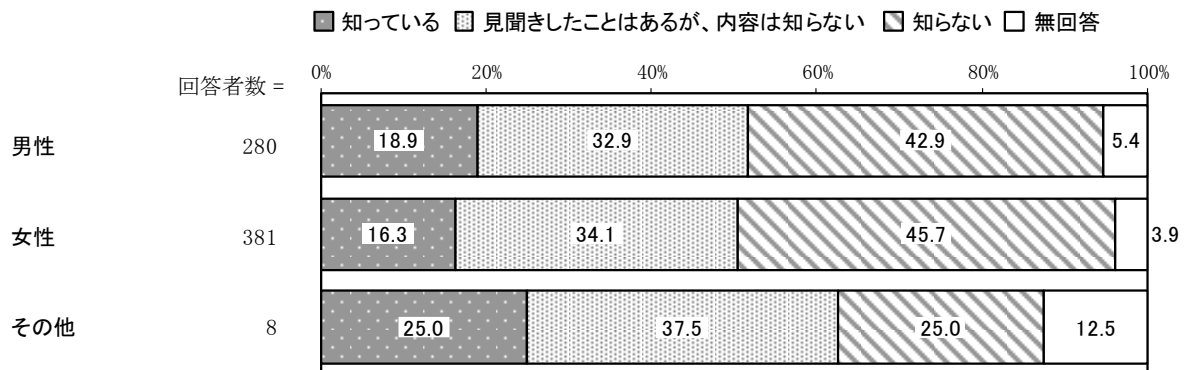
平成 28 年度調査と比較すると、「知っている」の割合が増加し、「見聞きしたことはあるが、内容は知らない」の割合が減少しています。



L. 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）

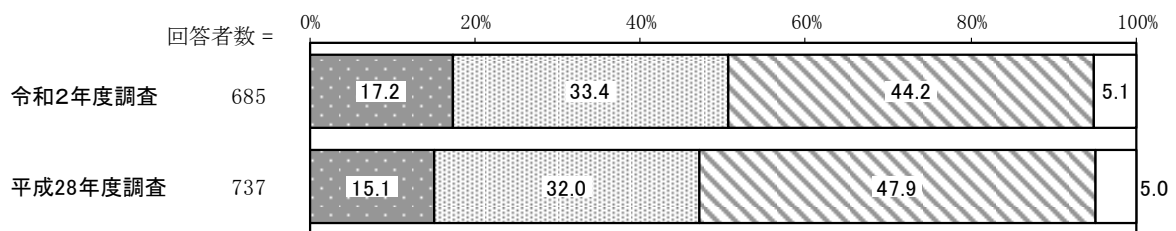
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



【平成 28 年度調査との比較】

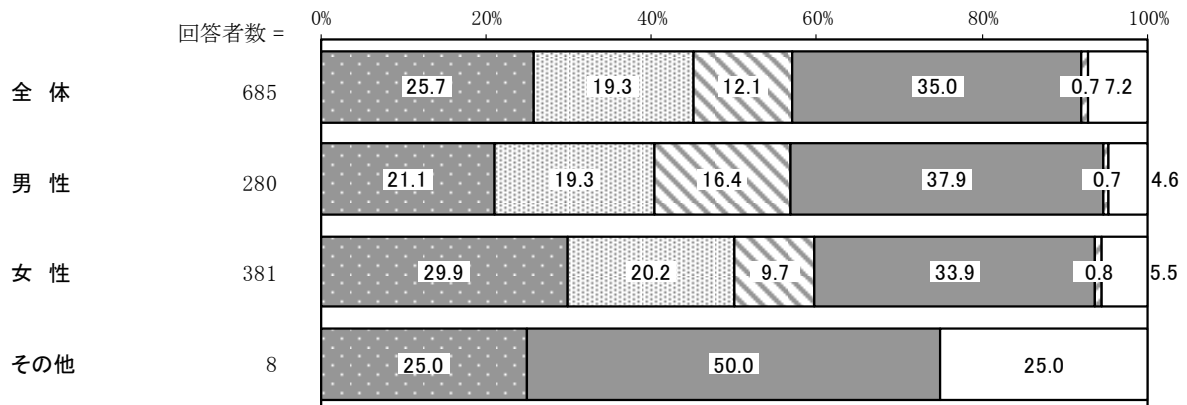
平成 28 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 25 あなたは、男女共同参画社会をつくるため、個人が心掛けることとして何が最も必要だと思いますか。(1つに○)

「男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ」の割合が 35.0%と最も高く、次いで「男らしく」「女らしく」ということにとらわれず、「自分らしく」行動する」の割合が 25.7%、「男女ともに独立した人格としての自覚と責任意識を高める」の割合が 19.3%となっています。性別で見ると、男性で「性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける」の割合が高くなっています。また、女性で「『男らしく』『女らしく』ということにとらわれず、『自分らしく』行動する」の割合が高くなっています。

- 「男らしく」「女らしく」ということにとらわれず、「自分らしく」行動する
- ▨ 男女ともに独立した人格としての自覚と責任意識を高める
- ▩ 性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける
- 男女が互いに対等な存在として評価・尊重する意識を持つ
- ▣ その他
- 無回答

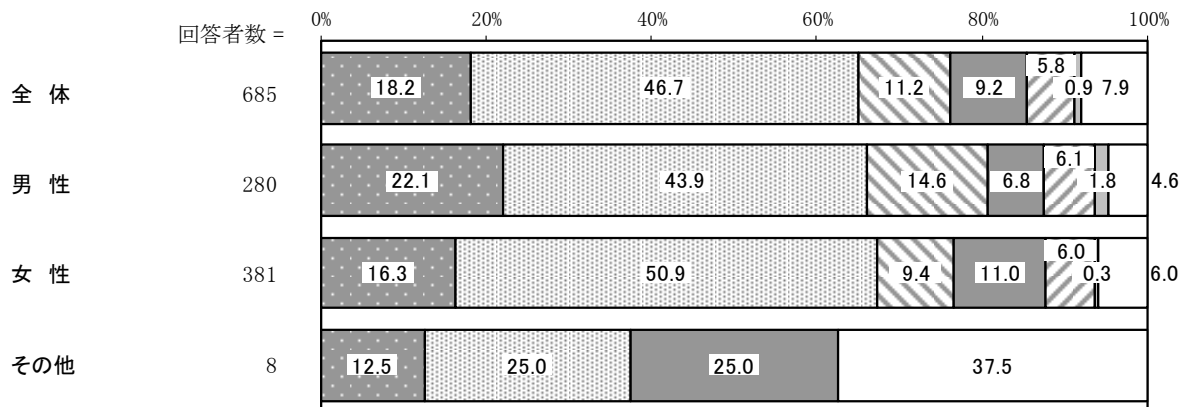


問 26 あなたは、男女共同参画社会をつくるため、家庭で取り組むこととして何が最も必要だと思いますか。(1つに○)

「家事、育児、介護は、男女を問わず分担し、協力する」の割合が46.7%と最も高く、次いで「夫婦での関係を対等にする」の割合が18.2%、「家事や育児の重要性を正當に評価する」の割合が11.2%となっています。

性別でみると、男性で「夫婦での関係を対等にする」「家事や育児の重要性を正當に評価する」の割合が高くなっています。また、女性で「家事、育児、介護は、男女を問わず分担し、協力する」の割合が高くなっています。

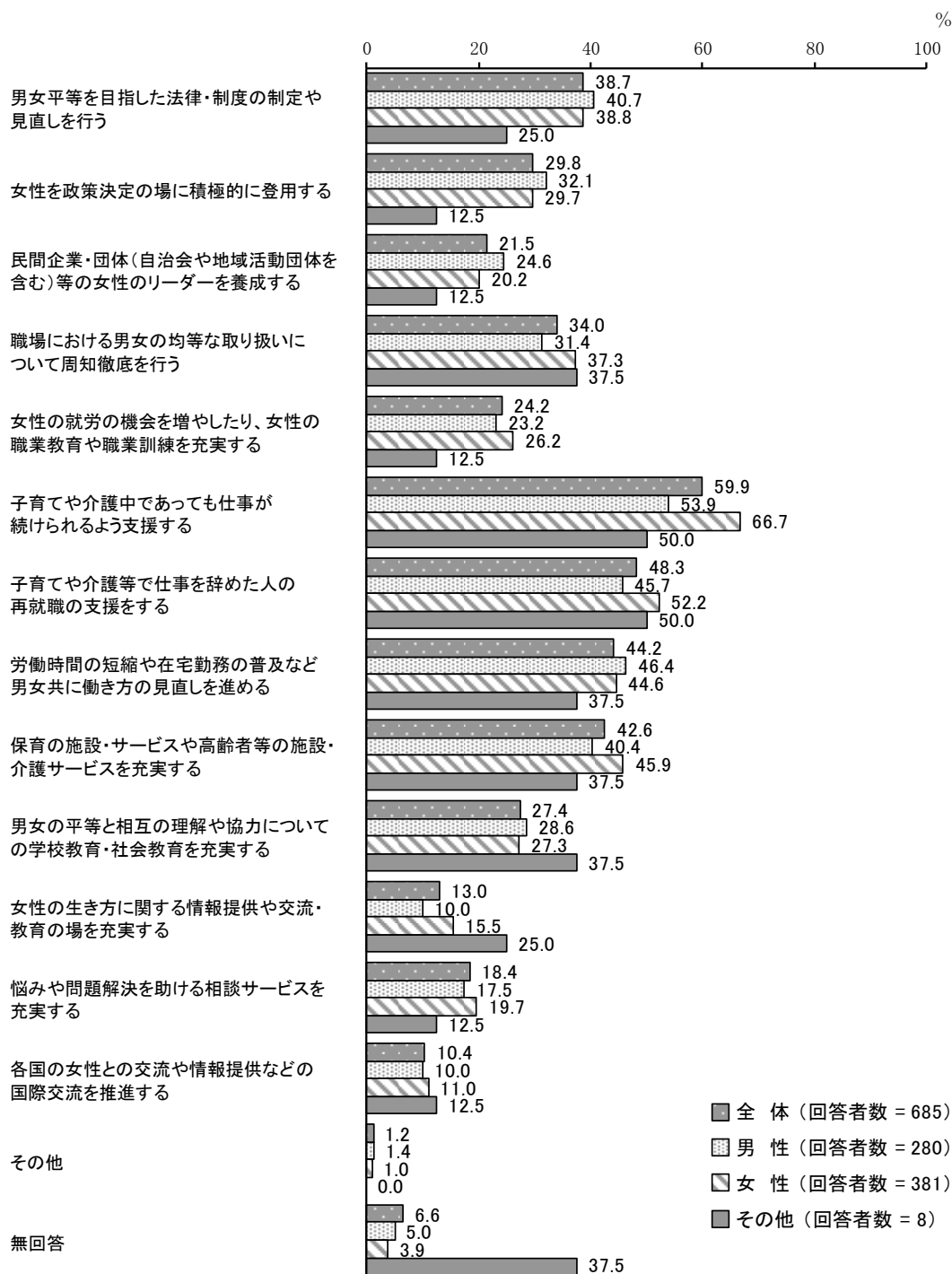
- 夫婦での関係を対等にする
- 家事、育児、介護は、男女を問わず分担し、協力する
- 家事や育児の重要性を正當に評価する
- 「嫁・姑」「後継ぎ」「墓」「氏」など、家系を中心にした家族観や慣習を改める
- 子育てにおいて、性別によって教育やしつけの方針、態度を区別しない
- その他
- 無回答



問 27 あなたは、男女共同参画社会の実現のために行政（国・県・市）はどんなことに力を入れていくべきだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

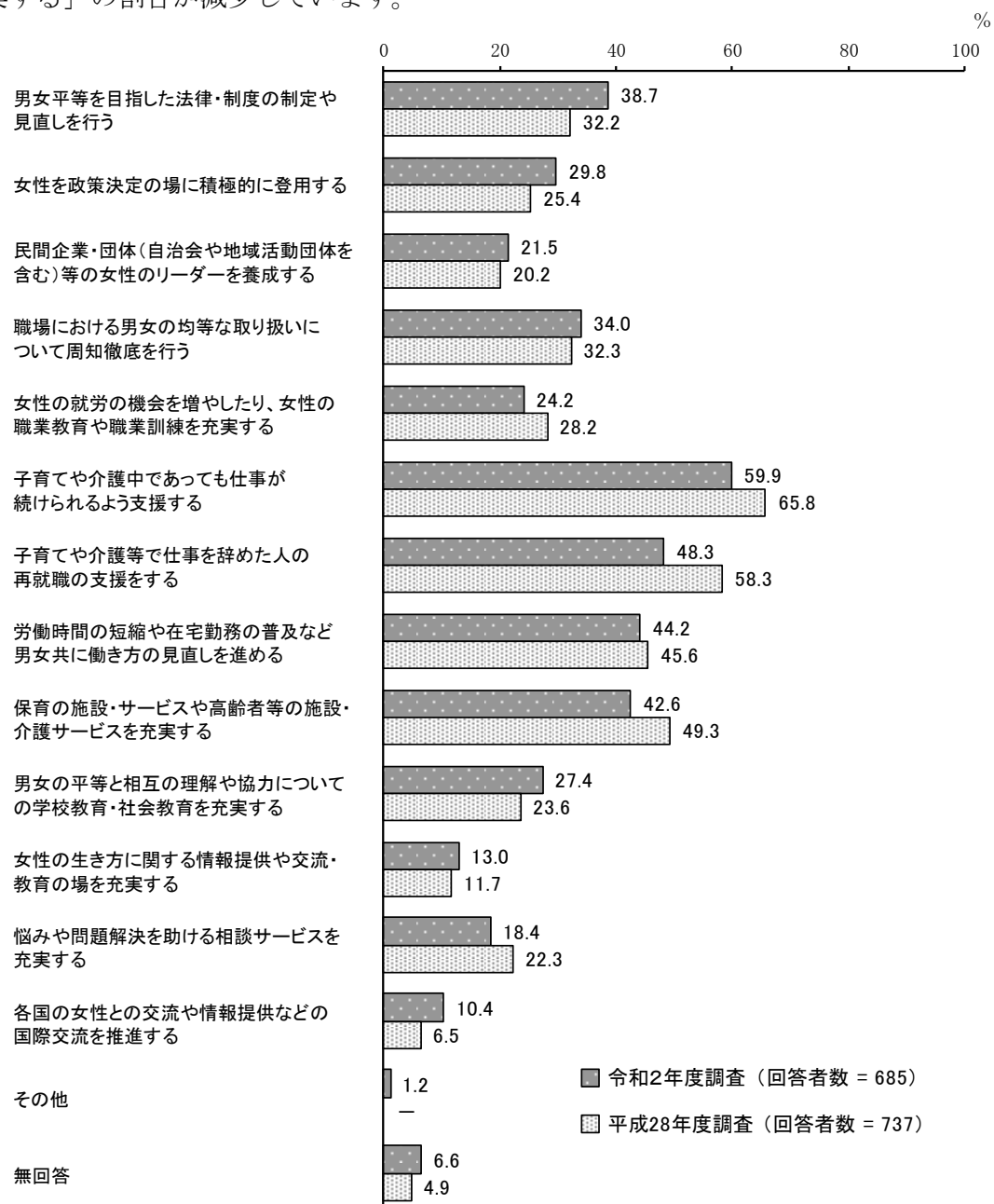
「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が59.9%と最も高く、次いで「子育てや介護等で仕事を辞めた人の再就職の支援をする」の割合が48.3%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める」の割合が44.2%となっています。

性別でみると、女性で「職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う」「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」「子育てや介護等で仕事を辞めた人の再就職の支援をする」「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する」「女性の生き方に関する情報提供や交流・教育の場を充実する」の割合が高くなっています。



【平成 28 年度調査との比較】

平成 28 年度調査と比較すると、「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が増加し、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」「子育てや介護等で仕事を辞めた人の再就職の支援をする」「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する」の割合が減少しています。



Ⅲ 自由意見

今回の調査で自由な意見・要望を聞いたところ、59件の意見が得られました。内訳は以下のとおりです。

分類回答	件数
1. 人権を尊重しあえる意識づくりについて	12
2. 男女がともに活躍できる環境づくりについて	21
3. 男女がともに参画できる環境づくりについて	10
4. だれもが安心して暮らせるまちづくりについて	4
5. アンケートについて	6
6. その他	6